

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 甲

一 技師技手及書記ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但シ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

技師官等配當表

奏任五等	同六等	同七等	同八等
年俸千六	年俸千二	年俸八百	年俸六百
百圓以上	百圓以上	圓以上	圓以上
未滿	千六百圓	千二百圓	八百圓未
未滿	未滿	未滿	未滿

技手書記等級配當表

判任一等	同二等	同三等	同四等
月俸六十	月俸四十	月俸三十	月俸三十
圓以上	五圓以上	五圓以上	五圓未滿
未滿	六十圓未	四十五圓	五圓未滿
未滿	未滿	未滿	未滿
未滿	月俸三十	月俸三十	月俸三十
未滿	五圓以上	五圓未滿	五圓未滿

【二六】地方測候所技師技手及書記休職ノ件

明治三七年四月 勅令第一一號

第一條 地方測候所技師技手及書記左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ之ニ休職ヲ命スルコト

一ノ待遇ヲ受ケ

明治三九年一〇月 勅令第二六七號

一本令ニ於テ地方産業ニ關スル技師、技手並試驗場、講習所、種畜場及輸出羽二重検査所ト稱スルハ北海道地方費、府縣費又ハ郡市費ヲ以テ常置スルモノヲ謂フ

一 地方産業ニ關スル技師及技手ハ之ヲ農業技師、工業技師、林業技師、水産技師、農業技手、工業技手、林業技手及水産技手トス

一 試驗場、講習所、種畜場及輸出羽二重検査所ノ職員左ノ如シ

場長又ハ所長  
技師  
技手  
書記

場長又ハ所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ但シ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

一 地方産業ニ關スル技師並試驗場、講習所、種畜場及輸出羽二重検査所ノ技師ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケ

地方産業ニ關スル技手並試驗場、講習所、種畜場及輸出羽二重検査所ノ技手、書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケ

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 甲

二、地方産業職員等待遇

一五九

乙、地方測候所員休職ノ件

一五八

ヲ得

- 一 地方測候所等級ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサルトキ
  - 二 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ
  - 三 戰時若ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキ
  - 四 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トシ第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トス
- 第二條 休職者ニハ俸給ヲ支給セス但シ前條第一項第三號ニ依リ休職ヲ命セラレタル場合ニハ俸給ノ一部、其ノ他特別ノ事情アル場合ニハ其ノ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得
- 第三條 第一條第一項第一號乃至第三號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退職者トス
- 第四條 休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ

【二七】地方産業ニ關スル技師技手並試驗場、講習所、種畜場及輸出羽二重

一ノ待遇ヲ受ケ

一 地方産業ニ關スル技師、技手並試驗場、講習所、種畜場及輸出羽二重検査所職員ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス

奏任文官若ハ判任文官又ハ之ト同一ノ待遇ヲ受ケル者ニシテ同時ニ地方産業ニ關スル技師、技手又ハ試驗場、講習所、種畜場及輸出羽二重検査所職員ニ任用セラレタル者ノ官等等級配當方ハ本官官等等級又ハ本務ニ於テ配當セラレタル官等等級ニ依ル

本令ニ依リ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル者ハ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

奏任五等	同六等	同七等	同八等
年俸千四	年俸千二	年俸八百	年俸六百
百圓以上	百圓以上	圓以上	圓以上
未滿	千四百圓	千二百圓	八百圓未
未滿	未滿	未滿	未滿

地方産業ニ關スル技手並試驗場、講習所、種畜場及輸出羽二重検査所ノ技手、書記等級配當表

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 甲 二、府縣郡吏員服務紀律

一六〇

地方産業ニ  
關スル技師  
調習所、種  
畜場、及種  
畜ノ檢査  
所ノ技師  
地方産業ニ  
關スル技師  
調習所、種  
畜場、及種  
畜ノ檢査  
所ノ技師

判任一等	同	二等	同	三等	同	四等
月俸六十圓以上	五圓以上	五圓以上	月俸三十圓以上	五圓以上	月俸三十圓未滿	五圓未滿
滿	六十圓未滿	四十五圓未滿	五圓未滿	五圓未滿	五圓未滿	五圓未滿

月俸三十圓以上 月俸三十圓未滿

【二八】地方産業ニ關スル技師、技手並

試驗場、講習所及種畜場等ノ職員

休職ニ關スル件

明治三十九年九月勅令第二六八號

一 地方産業ニ關スル技師、技手並試驗場、講習所、種畜場及輸出羽二重檢査所職員ノ休職ニ關シテハ明治三十七年勅令第百一十一號（地方測候所職員休職ノ件）ノ規定ヲ準用ス

【二九】府縣郡吏員服務紀律

明治三十五年二月內務省令第三號

第一條 府縣郡吏員ハ法令ニ從ヒ忠實ニ其ノ職務ヲ盡スヘシ

府縣郡吏員ハ其ノ職務ニ付指揮監督者ノ命令ヲ遵

一 府縣郡ノ爲ニ工事又ハ物件調達ノ請負ヲ爲ス者

二 府縣郡ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者

三 府縣郡ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者

四 府縣郡ト土地物件ノ賣買贈與貸借若ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五 其ノ他府縣郡ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ントスル者

第七條 有給ノ府縣郡吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ營業ヲ爲シ若ハ家族ヲシテ營業ヲ爲サシメ又ハ給料若ハ報酬ヲ受クヘキ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第八條 本令ニ於テ指揮監督者ト稱スルハ府縣吏員ニ付テハ府縣知事、郡吏員ニ付テハ郡長ヲ謂フ

第九條 郡組合ノ吏員ニ關シテハ郡吏員ニ關スル規定ヲ準用ス

一 水利組合吏員及沖繩縣區制第百三十四條、沖繩縣及島嶼町村制第九十八條ニ依ル區町村吏員ノ服務規律ハ府縣郡吏員服務規律ノ規定ヲ準用ス

明治四一年六月內務省令第一四號  
明治四二年三月內務省令第九號

【三〇】市町村吏員服務規律

明治四四年九月內務省令第一六號

○官等俸給

政府官吏

府縣所管

甲

三

市町村吏員服務規律

一六一

守スヘシ

第二條 府縣郡吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス職權ヲ濫用シ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

第三條 府縣郡吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ但裁判所ノ召喚ニ依リ職務上ノ秘密ニ付訊問ヲ受ケタル場合ニ於テ指揮監督者ノ許可ヲ得タル事件ニ付テハ此限ニ在ラス

第四條 府縣郡吏員ハ職務ノ爲出張ヲ命セラレタル場合ヲ除ク外指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第五條 府縣郡吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス府縣郡吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クコトヲ得ス

第六條 左ニ掲クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル府縣郡吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスルモノノ要

第一條 市町村吏員ハ忠實勤勉ヲ旨トシ法令ニ從ヒ其ノ職務ニ盡スヘシ

第二條 市町村吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

市町村吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス職權ヲ濫用セス懇切公平ナルコトヲ務ムヘシ

第三條 市町村吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ指揮監督者ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得事實參考ノ爲訊問ヲ受ケタル者ニ付テモ亦同シ

第四條 市町村吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

市町村吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙

第五條 左ニ掲クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル市町村吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスル者ノ醫藥ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 市町村ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力ノ供給契約ヲ爲ス者
- 二 市町村ニ屬スル金錢ノ出納保管ヲ擔任スル者
- 三 市町村ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者
- 四 市町村ト土地物件ノ賣買贈與貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者
- 五 其ノ他市町村ヨリ利益ヲ得又ハ得ムトスル者

【三一】沖繩縣及島嶼町村制ニ依ル町村

吏員ノ懲戒方 明治四一年一月二日 內務省令第二〇號

一 沖繩縣及島嶼町村制施行地ニ於ケル町村吏員ノ懲戒處分ハ府縣知事島司郡長之ヲ行フ府縣知事ノ懲戒處分ハ罰金二十五圓以下ノ過怠金及解職トシ島司郡長ノ懲戒處分ハ罰金及十圓以下ノ過怠金トス

ニ依ル

議長副議長ニシテ名譽職參事會員ヲ兼ムル者ハ月額手當ヲ給シテ其ノ他ヲ給セス

第四條 議長副議長ニ交迭アリタルトキノ手當ハ議長副議長議員ヲ通シテ其ノ一ヲ給シ其ノ額異ナルトキハ多キニ依ル但シ通常會ノ開會中ニシテ議長以上ニ達シ而シテ議長又ハ副議長在職中參會シタル日數開會日數ノ半ニ滿タサルトキハ手當ノ多キ方及少ナキ方ノ各二分ノ一ヲ給ス

府會ノ開會中ニ於テ名譽職參事會員トナリタル者ノ手當ハ第五條ニ依リ月額手當ヲ給スルニ至ル迄ノ參會日數又之ヲ退キタル者ノ手當ハ同條ニ依リ月額手當ヲ給セサルニ至リタル以後ノ參會日數ニ對シテハ各第二條ニ依ル

第五條 月額手當ハ名譽職參事會員ニ之ヲ給ス名譽職參事會員全ク召集ニ應セザリシ月ハ手當ヲ給セス

第六條 日額手當ハ臨時ニ補充シタル名譽職參事會員ニ其參會シタル日數ニ應シ之ヲ給ス但シ府會開會中ナルトキハ之ヲ給セス此ノ場合ニ於テハ其ノ參會日數ヲ第二條ノ參會日數ニ通算スルコトヲ得第七條 年額手當ハ通常會ニ參會ノ日數ニ應シ其ノ

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙

東京府

一六三

一、東京府

乙 各府縣

○東京府下

【一】府會議員名譽職參事會員費用辨償

額及其ノ支給方法 明治三六年二月 東京府令第二號

- 第一條 名譽職員ノ職務ノ爲要スル費用辨償額ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外別表定ムル所ニ依ル
- 第二條 年額手當ハ一會計年度間ニ於ケル費用ノ辨償トシテ議長副議長及議員ニ之ヲ給ス
- 年額手當ハ通常會ニ參會シタル日數其ノ開會日數ノ半ニ滿タサルトキハ十分ノ四ヲ減シ全ク參會セサルトキハ十分ノ八ヲ減シ臨時會ニ參會セサルトキハ十分ノ二ヲ減ス
- 臨時會ノ開會二回以上ニ及フトキハ年額手當十分ノ二ヲ其ノ回數ニ割當參會セサル臨時會ノ回數ニ應シテ年額手當ヲ減ス此ノ場合ニ於テ手當ノ額ニ異動アルトキハ參會セザリシ當時ノ資格ニ伴フ額ニ依ル
- 第三條 議長副議長名譽職參事會員ニハ議員ノ手當ヲ給セス
- 府會議長同副議長部長會議長同副議長ヲ互ニ兼ムル者ノ手當ハ其ノ一ヲ給シ其ノ額異ナルトキハ多キ

十分ノ八以内ヲ通常會ノ終ニ其ノ殘額ヲ會計年度末二月額手當ハ翌月五日迄ニ日額手當ハ閉會後五日以内ニ之ヲ給ス

第八條 旅費ハ名譽職員旅行ノ場合ニ於テ順路ニ依リ之ヲ給ス

第九條 汽車旅行ハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ水路旅行ハ海里數ニ應シ船賃ヲ其ノ他ノ旅行ハ陸路旅行トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ給ス

汽車賃船賃車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ路程ヲ合算シテ之ヲ給ス但シ一位未滿ノ端數ハ切捨トス

第十條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ給セス

汽車十哩未滿水路十海里未滿陸路六里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ給セス但シ宿泊シタルトキハ宿泊ノ數ニ應シ日當ヲ給ス

東京府

一六三

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 東京府

前項計算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス  
(別表)

職名	年額	手當	月額	手當	旅費		
會議長	百八拾圓	副議長	百五拾圓	議員	百圓		
府會	百八拾圓	百五拾圓	郡會	百五拾圓	百圓		
部會	百五拾圓	百貳拾圓	臨時補充	貳圓	參事會員		
市參事會部	四拾圓	汽車賃	五錢	郡參事會部	四拾五圓	船賃	五錢
日額	手當	車馬賃	貳拾錢	臨時補充	貳圓	宿泊料	貳圓
日當	五拾錢	宿泊料	貳圓				

【二】東京府下及沖繩縣下島嶼在勤者手當

一東京府下小笠原島、大島、八丈島、小島、青ヶ島、島島、新島、式根島、神津島、三宅島、御藏島、利島及沖繩縣下宮古島、八重山島、久米島、鳥島、伊平屋島、伊江島、慶長間島、粟國島、渡名喜島ニ在勤スル地方官廳ノ奏任官(技師)判任官及巡查員ニハ別表定ムル所ニ依リ月手當ヲ給スルコトヲ得其ノ給與細則ハ内務大臣之ヲ定ム  
(別表) 奏任官(技師)拾圓以内 判任官六圓以内

巡查員五圓以内

一本年勅令第六十四號ニ依リ島嶼ニ在勤スル地方官廳ノ奏任官判任官ニ支給スル月手當ハ別表ニ依リ  
(別表) 奏任官十圓 判任官六圓 巡查員五圓

【三】伊豆七島地役人及名主待遇

一東京府管下大島三宅島八丈島御藏島神津島新島地役人及利島名主ハ判任官ノ待遇トス

【四】東京府南立川郡吏員俸給(豊多摩郡ハ)

一級	二級	三級	四級	五級	六級
上 二五	一七	一三	一一	九	七
下 二〇	一五	一二	一〇	八	六

【五】東京市會議員歳費

議長	五百圓	副議長	三百圓	議員	二百圓
市參事	六百圓	市區改正及築港委員出席者	二對シ	日額	二圓
常務委員	五百圓	學務委員	市會議員タルモノ	市公民タルモノ	四百圓

【六】東京市吏員俸給

年	俸
市長	六,〇〇〇圓以上 市參與 五,〇〇〇圓以上 助役 三,五〇〇圓以上 收入役 三,〇〇〇圓以上 副收入役 三,〇〇〇圓以下
技師長	一級 六,〇〇〇圓 二級 五,五〇〇圓 三級 五,〇〇〇圓 四級 四,五〇〇圓 五級 四,〇〇〇圓 六級 三,五〇〇圓 七級 三,〇〇〇圓 八級 二,五〇〇圓 九級 二,〇〇〇圓 十級 一,五〇〇圓
局長	一〇,〇〇〇 八,〇〇〇 六,〇〇〇 五,〇〇〇
理事	五,〇〇〇 四,〇〇〇 三,〇〇〇 二,五〇〇
區長	二,〇〇〇 一,八〇〇 一,六〇〇 一,四〇〇
主事	二,〇〇〇 一,八〇〇 一,六〇〇 一,四〇〇
主事補	二,〇〇〇 一,八〇〇 一,六〇〇 一,四〇〇
技師	三,五〇〇 三,〇〇〇 二,七〇〇 二,四〇〇 二,一〇〇 一,八〇〇 一,五〇〇 一,二〇〇 一,〇〇〇 九〇〇 八〇〇 七〇〇 六〇〇

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 東京府

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 東京府

月	100	90	80	70	65	60	55	50	45	40
視學	1,600	1,500	1,400	1,300	900	800	700	600	500	400
講師	1,600	1,500	1,400	1,300	900	800	700	600	500	400

一 區長、主事、視學、講師ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニハ特ニ二百圓ヲ増給スルコトヲ得

一 臨時事務ニ從フ主事ニシテ特別ノ學識經驗アル者ヲ必要トスル場合ハ特ニ三千圓マテヲ支給スルコトヲ得

一 技師ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニハ特ニ五百圓ヲ増給スルコトヲ得

一 主事補ハ八級俸以下トス

一 月俸者ニシテ一級俸ヲ受ケ在職三年以上ニ至リ功績アル者ニハ特ニ二十圓マテヲ増給スルコトヲ得

一 本表ノ外技師ハ最低五百圓マテ又月俸者ハ最低額二十圓マテノ給料ヲ支給スルコトヲ得

一 電氣局ニ勤務スル主事、事務員及技手ハ一級俸額ニ其四分ノ一マテ、技師ハ一人ヲ限リ一級俸額ニ千五百圓マテヲ特ニ増給スルコトヲ得

一 臨時事務ニ從フ局長ノ年俸ハ三千圓マテ低下スルコトヲ得

一 養育院事業擔任ノ市參與ヲ養育院長トシ無給トシ

電氣事業擔任ノ市參與ヲ電氣局長トシ有給トス

一月俸ヲ給スル者左ノ如シ

一 區書記補ハ十八圓以上三十圓以下トス

一 職滿一ケ年ヲ踰ユルニアラサレハ増俸スルコトヲ得

一 私事ノ故障ニ因リ職務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ疾病ノ爲メ職務セサルコト九十日ヲ踰ユル者ハ其後俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ハ此限ニ在ラス

一 前項ニ該當セスト雖モ私事ノ故障及疾病連續シ職務セサルコト九十日ヲ踰ユル者ハ其後俸給ノ半額ヲ減ス

【七】應召市吏員特別給與規程

明治三十七年四月三日 東京府告示第二六號

第一條 陸海軍軍籍ニ在ル本市吏員ニシテ戰事若ク

用ス但本條ノ場合ハ豫メ其用務ニ付市長ノ決裁ヲ經ヘシ

第四條 職務上名譽職員ト共ニ出張スル場合ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ給ス

一 主事、技師 一日 金七拾錢

一 事務員、技手 一日 金五拾錢

一 雇員又ハ之ニ準スル者 一日 金四拾錢

第五條 視學市醫ノ出張ニ關スル特別手當ハ別ニ定ムル所ニ依ル

臨時市區改正局勤務ノ事務員、技手、技手補、雇員ニ關シテハ第四條ノ外亦前項ニ同シ

第六條 事務上午前ヨリ午後若クハ夜間ニ涉リ六時

間以上ノ出張ヲ要シ又ハ數箇月間繼續シテ出張スル等臨時ノモノニ係リ各特別ノ事由アルトキハ其

時時別段ノ支給額ヲ定ムルコトヲ得

前項ニ依リ支給額ヲ定ムル場合ニ於テ出張ノ用務

十時間以上ニ涉ルトキ又ハ本市ノ執務時間外六時

間ヲ超ユルトキハ一日金一圓以内トシ其他ハ一日

金五拾錢以内トス

第七條 本規程ニ依リ給スル手當ハ第二條第三條ノ

手當ヲ除キ一箇月ヲ通シテ左ノ制限ヲ超ユルコト

ヲ得ス

一 主事、技師 一箇月 金拾圓

【八】特別手當支給規程

明治四〇年三月 東京府訓令第三號

第一條 市役所吏員市内ニ出張シ及特別ノ勤務ニ服

スル者ハ本規程ニ依リ特別手當ヲ給ス

第二條 職務上市内出張若クハ時間外勤務ヲ常務ト

爲ス者ハ左ノ區別ニ依リ出張又ハ勤務日數ニ應シ

之ヲ支給ス

一 技師 一日 金參拾錢

一 事務員、技手、技手補 一日 金貳拾錢

一 雇員其他之ニ準スル者 一日 金拾五錢

前項ノ支給額ハ事務ノ繁簡輕重其他ノ事情ニ依リ

之ヲ低減シ又ハ制限内ニ於テ更ニ區別ヲ設クルコ

トヲ得此場合ニ於テハ市長限リ處分スヘシ

第三條 出張ヲ常務ト爲ササル者ト雖其出張用務ノ

關係上之ニ準スヘキモノト認ムル場合ハ前條ヲ適

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 東京府

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 東京府

- 一 事務員、技手 一箇月 金七圓
- 一 雇員又ハ之ニ准スル者 一箇月 金五圓
- 第八條 本規程ニ依リ給スル手當ハ翌月ニ於テ之ヲ支給ス但數箇月分ヲ取纏メ支給スルコトアルヘシ
- 第九條 本規程ニ依リ手當ヲ給スル者ニハ舟車馬賃又ハ電車賃等ヲ支給セス

【九】宿直賄料

明治四十四年三月三十一日 東京府令第一三號

一 本市吏員以下宿直ヲ爲シタルトキハ左ノ區分ニ依リ賄料ヲ支給ス

- 一 吏員 一日 二十錢以内(二賄分)
- 一 看護婦 一日 八錢以内(一賄分)
- 一 使丁其他之 一日 十六錢以内(二賄分)
- 一 二準スル者 同上
- 一 常務トシテ徹夜勤務ヲ爲シタルモノニハ一賄分ヲ増給スルコトヲ得

【一〇】市吏員分限規程

明治三十九年二月 東京府告示第七八號

- 第一條 市吏員ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外此規程ニ依ルニ非サレハ其職ヲ免セララルコトナシ但雇員及之ニ準スル者ハ此限ニ在ラス
- 第二條 市吏員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其職ヲ免スルコトアルヘシ
  - 一 身體又ハ精神ノ故障ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘ

サルトキ

- 二 免職ヲ願出タルトキ
- 三 年齢滿六十年以上ニ至リタルトキ
- 四 疾病ヲ除クノ外私事ノ故障ニ因リ引續キ六十日以上執務セサルトキ
- 五 兵役ニ服シ又ハ官職ニ就キタルトキ
- 六 職務ノ内外ヲ問ハス市吏員ノ體面ヲ汚カシ又ハ信用ヲ失フヘキ行爲アリタルトキ
- 七 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 八 公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪トシテ豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキ
- 九 臨事事務ニ從フ吏員ニシテ其事務ノ全部又ハ一部完了シ過員ヲ生シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス其職ヲ免スルコトアルヘシ
- 第三條 市吏員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトアルヘシ
  - 一 職制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
  - 二 疾病ノ爲メ引續キ九十日以上執務セサルトキ
  - 三 事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ
  - 四 懲戒處分ヲ受ケタルトキ
  - 五 刑事事件ニ關シ告訴若クハ告發セラレタルトキ

三

- 徵兵令第十三條第一項ニ掲グル學校又ハ專門學校令ニ依ル學校其他市參事會ニ於テ之下同等以上ト認メタル學校ノ卒業證書ヲ有スル者
- 第三條 滿二年以上本市吏員又ハ文官ノ職ニアリタル者ニシテ免職若クハ免官後滿三年ヲ經過セサル者ハ市吏員試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ市吏員ニ任用スルコトヲ得但年齡滿五十歳ヲ超エタル者ハ此限ニ在ラス
- 陸軍准士官下士トシテ文官適任伎倆證明書ヲ得テ之ヲ所持スル者ハ前項ノ規定ニ依リ市吏員ニ任用スルコトヲ得
- 第四條 技術其他特種ノ技能ヲ要スル市吏員ハ前二條ノ資格ヲ有セサルモ市吏員試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得
- 第五條 前項ニ依リ任用セラレタル者ハ市吏員試驗ヲ經ルニ非サレハ當初任用外ノ市吏員ニ任用スルコトヲ得ス
- 第六條 第一條但書ノ者ニシテ滿三年以上勤續シタル者ハ市吏員試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ市吏員ニ任用スルコトヲ得
- 第六條 局長、技師長、課長、院長、技師ノ任用ニ付テハ此規程ヲ適用セス

【一一】市吏員任用規程

明治三十六年一月二日 東京府告示第一〇七號

- 第一條 此規程ニ於テ市吏員ト稱スルハ市制第五十九條及ヒ第六十條第三項ニ依リ任用スルモノヲ謂フ但別ニ任用規程アルモノ又ハ雇員及ヒ之ニ準スル者ハ此限ニ在ラス
- 第二條 市吏員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス
  - 一 市吏員試驗ヲ經テ合格證書ヲ有スル者
  - 二 文官試驗、判檢事登用試驗、辯護士試驗、裁判所書記試驗ノ一ヲ經テ其合格證書ヲ有スル者

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 東京府

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 京都府、大阪府、神奈川縣

一七〇

○京都府下

【一】京都市吏員俸給

市長	三、五〇〇圓以上 八、〇〇〇圓以下	助役	一、五〇〇圓以上 三、〇〇〇圓以下	收入役	一、〇〇〇圓以上 一、六〇〇圓以下	主事	七〇〇圓以上 一、〇〇〇圓以下	理事	一、五〇〇圓以上 三、〇〇〇圓以下
理事補	八〇〇圓以上 一、五〇〇圓以下	技師	六〇〇圓以上 一、〇〇〇圓以下	書記	一、五〇〇圓以上 八〇〇圓以下	區長	八〇〇圓以上 一、三〇〇圓以下	區書記	一、五〇〇圓以上 六〇〇圓以下

一事務熟練ナル書記、事務員及技手ハ百圓マテ、區書記ハ八十圓マテ増給スルコトヲ得

○大阪府下

【一】大阪市吏員俸給

市長	五、〇〇〇圓以上 一五、〇〇〇圓以下	收入役	一、三〇〇圓以上 四、〇〇〇圓以下	主事	七〇〇圓以上 一、〇〇〇圓以下	市書記	一、五〇〇圓以上 二、〇〇〇圓以下
助役	一、五〇〇圓以上 七、〇〇〇圓以下	電氣部長	一、五〇〇圓以上 七、〇〇〇圓以下	師、視學	四、〇〇〇圓以上 七、〇〇〇圓以下	市書記補	一、〇〇〇圓以上 一、五〇〇圓以下

【二】堺市吏員俸給

技師	一、〇〇〇圓以上 一、五〇〇圓以下	書記	一、三〇〇圓以上 一、五〇〇圓以下	掃除	一、七〇〇圓以上 二、〇〇〇圓以下	掃除	一、三〇〇圓以上 一、五〇〇圓以下
技手	一、〇〇〇圓以上 一、五〇〇圓以下	監督長	一、〇〇〇圓以上 一、五〇〇圓以下	監督	一、〇〇〇圓以上 一、五〇〇圓以下	巡視	一、〇〇〇圓以上 一、五〇〇圓以下

○神奈川縣下

【一】神奈川縣郡產業職員俸給

郡名	職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
久良岐	農業技手	四〇〇	三五〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一八〇	一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	一一〇	一〇〇
橋樹	同	七五	六〇	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一〇	五
都筑	同	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一八	一六	一四	一二	一〇
三浦	農業技師	七〇〇	六五〇	六〇〇	五五〇	五〇〇	四五〇	四〇〇	三五〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇
	農業技手	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一八	一五	一二	一〇	五
鎌倉	農業技師	八〇〇	七五〇	七〇〇	六五〇	六〇〇	五五〇	五〇〇	四五〇	四〇〇	三五〇	三〇〇	二五〇
	農業技手	六〇	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一二	一〇	五
	農事講習所技手	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一二	一〇	五	〇
高座	農業技手	六〇	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一二	一〇	五
	農業技師	七〇〇	六五〇	六〇〇	五五〇	五〇〇	四五〇	四〇〇	三五〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇
中	農業技手	上五五 下五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一二	一〇	五	〇
足柄下	同	七五	六〇	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一〇	五
津久井	種畜場技手	五〇	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一二	一〇	五	〇	〇

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 神奈川縣

一七一

【一】橫濱市吏員俸給

市長	三,〇〇〇圓	助役	二級三,〇〇〇圓 二級二,三〇〇圓	收入	一,三〇〇圓	副收	一,五〇〇圓以上 一,〇〇〇圓以下	理事	一,八〇〇圓以上 一,三〇〇圓以下	主事	七〇〇圓以上 一,八〇〇圓以下
技書	手記	下	上	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	
技師	下	上	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	
	下	上	三〇〇	二五〇	二〇〇	一六〇	一四〇	一〇〇	八〇	六〇	
	下	上	九〇	八〇	七五	七〇	六〇	五五	五〇	四〇	
	下	上	四五〇	四五〇	三〇〇	二〇〇	一六〇	一二〇	九〇	七〇	
	下	上	三五〇	二五〇	一八〇	一四〇	一〇〇	八〇	六〇	六〇	

一書記、技手ニシテ最上給ヲ受ケ滿二箇年ヲ經過シ事務熟達優等ナル者ハ漸次月俸百二十圓マテ増俸ス  
 一觀學、通譯ノ月俸ハ九十圓以下、機關手ノ月俸ハ五十圓以下、書記補、技手補ノ月俸ハ四十圓以下ト  
 一院長、副院長、醫員、藥劑員ノ給料ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ル  
 一書記、技手ニシテ月俸五十圓未滿ノ者ニ限リ等級ニ拘ハラズ適宜ノ額ヲ給スルコトヲ得  
 【三】橫須賀市吏員俸給

技書	手記	下	上	一級	二級	三級	四級	五級	六級
	下	上	五〇	四〇	三五	二七	二二	一八	一五

○兵庫縣下

【一】兵庫縣吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
上 七五 下 六五	六〇	五〇	四五	四〇	三五	上 三〇 下 二七	二五	二〇	一五

【二】神戸市吏員俸給

技師長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
五,〇〇〇	四,五〇〇	四,〇〇〇	三,五〇〇	三,〇〇〇	二,五〇〇	二,〇〇〇	一,五〇〇	一,〇〇〇	七〇〇	六〇〇
主事	一,五〇〇	一,三〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	上 一,〇〇〇 下 九〇〇	上 八〇〇 下 七〇〇	上 一,〇〇〇 中 九〇〇 下 八〇〇	上 八〇〇 中 七〇〇 下 六〇〇	上 七〇〇 中 六〇〇 下 五〇〇	上 六〇〇 中 五〇〇 下 四〇〇
技師	三,〇〇〇	二,七〇〇	二,四〇〇	下 二,〇〇〇 上 二,二〇〇	一,六〇〇	上 一,八〇〇 下 一,二〇〇	上 一,三〇〇 下 一,一〇〇	上 一,〇〇〇 中 九〇〇 下 八〇〇	上 九〇〇 中 八〇〇 下 七〇〇	上 八〇〇 中 七〇〇 下 六〇〇
技書	手記	八〇	七五	七〇	六五	下 六〇 上 五五	下 五〇 上 四五	下 四〇 上 三五	下 三〇 上 二五	下 二〇 上 一五



○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 長崎縣

市巡視	上	二五	二〇	一七	一五	一三	一一		
	下	三三	二八	二六	二四	二二	二〇		
掃除巡視		六八	六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一

一書記、技手ニシテ最上級俸ヲ受ケ滿二箇年ヲ經過シ事務熟達優等ナル者ハ漸次月俸百圓マテ増給スルコトヲ得  
 一病院長ハ技師年俸額ヲ、市醫、病院醫員、同藥局長、同調劑手、同書記ハ書記月俸額ヲ又檢稅員、徵收員ハ市巡視月俸額ヲ準用ス

【三】姫路市吏員俸給

一級	上	五〇	三五	二四	一八	一五	一二
	中	四五	三〇	二二	一七	一四	一一
二級	上	四〇	二七	二〇	一六	一三	一〇
	中	三五	二二	一七	一四	一一	〇
三級	上	三〇	二二	一七	一四	一一	〇
	中	二五	一七	一四	一一	〇	
四級	上	二〇	一五	一二	〇		
	中	一五	一二	〇			
五級	上	一〇	八	七	六	五	
	中	八	七	六	五		
六級	上	七	六	五			
	中	六	五				
七級	上	五	四				
	中	四					
八級	上	三					
	中	二					
九級	上	一					
	中	〇					

○長崎縣下

【一】長崎市吏員俸給

書記、技手、視學、通譯、醫員、調劑師、調劑員、商品陳列所長、掃除監視吏員	上	七五	六五	五五	四五	三五	二七	二二	一八	一六
	下	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二四	二〇	一七	一五
技師	上	一五〇	一三〇	一一〇	九〇	七五	六五	五五		
	下	一四〇	一二〇	一〇〇	八〇	七〇	六〇	五〇		
醫長	上	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇		
	下	九五	八五	七五	六五	五五	四五	三五		
技書手記補	上	五十五	五十五	五十五	五十五	五十五	五十五	五十五	五十五	五十五
	下	五十五	五十五	五十五	五十五	五十五	五十五	五十五	五十五	五十五

【二】佐世保市吏員俸給

主事	一等	八〇〇圓	二 等	七〇〇圓	三 等	六五〇圓	四 等	六〇〇圓
	一級	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二七
技書手記	一級	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二七
	二級	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二七	二四
掃除監督	一級	四〇	三五	三二	三〇	二八	二六	二四
	二級	三五	三二	三〇	二八	二六	二四	二二
技書手記補	一級	二七	二四	二二	二〇	一八	一七	一六
	二級	二四	二二	二〇	一八	一七	一六	一五
掃除巡視	一級	二五	二二	二〇	一八	一七	一六	一五
	二級	二二	二〇	一八	一七	一六	一五	一四

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 長崎縣

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 群馬縣

○群馬縣下

【一】前橋市吏員俸給

市長	一級	一、〇〇〇 <small>圓</small>
	二級	九〇〇 <small>圓</small>
助役	一級	七〇〇
	二級	六〇〇
收入役	一級	六〇〇
	二級	五〇〇
書記	一級	四〇〇
	二級	三〇〇
手記	一級	二六〇
	二級	二二〇
技手	一級	一九〇
	二級	一七〇
巡視	一級	一四〇
	二級	一二〇

【二】高崎市吏員俸給

市長	一級	一、〇〇〇 <small>圓</small>
	二級	九〇〇 <small>圓</small>
助役	一級	七〇〇
	二級	六〇〇
收入役	一級	六〇〇
	二級	五〇〇
書記	一級	四〇〇
	二級	三〇〇
手記	一級	二四〇
	二級	二〇〇
技手	一級	一八〇
	二級	一六〇
巡視	一級	一四〇
	二級	一二〇

○千葉縣下

【一】千葉縣吏員職員俸給

年額	一級	二、〇〇〇 <small>圓</small>
	二級	一、七〇〇 <small>圓</small>
月額	一級	一、五〇〇 <small>圓</small>
	二級	一、三〇〇 <small>圓</small>
上	一級	一、三〇〇 <small>圓</small>
	二級	一、一〇〇 <small>圓</small>
下	一級	一、一〇〇 <small>圓</small>
	二級	九〇〇 <small>圓</small>
上	一級	八〇〇 <small>圓</small>
	二級	七〇〇 <small>圓</small>
下	一級	六〇〇 <small>圓</small>
	二級	五〇〇 <small>圓</small>

○茨城縣下

【一】水戸市吏員俸給

書記	一級	三五 <small>圓</small>
	二級	三〇 <small>圓</small>
書記補	一級	二〇
	二級	一七
技手	一級	五〇
	二級	四五
掃除監督	一級	二〇
	二級	一八
掃除巡視	一級	一五
	二級	一三

○官等俸給

政府官吏

府縣所管

乙

千葉縣、茨城縣

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 奈良縣、三重縣

○奈良縣下

【一】奈良市吏員俸給

書記補	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	二〇	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇
技書手記	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	四〇	三六	三二	二八	二五	二二	二〇	一八	一六	一五

○三重縣下

【一】三重縣吏員俸給

工師	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
	二,五〇〇	二,一〇〇	一,七〇〇	一,三〇〇	一,〇〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇
工書手記	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
	七五	六〇	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一〇	五
蠶業取締員	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一〇	五	〇	〇

一時宜ニ依リ毎級定額以內ノ俸給ヲ給スルコトアルヘシ

【二】四日市市吏員俸給

市長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
	二,〇〇〇	一,八〇〇	一,六〇〇	一,四〇〇	一,二〇〇	一,〇〇〇	八〇〇	六〇〇
助役	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
	一,四〇〇	一,二〇〇	一,〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇
收入役	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一〇〇

【三】宇治山田市吏員俸給

市長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
	一,二〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇
助役	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
	一,〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇
收入役	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
	五〇〇	四五〇	四〇〇	三五〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇
技書手記	上	下	上	下	上	下	上	下
	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二八	二六	二四
書記補	上	下	上	下	上	下	上	下
	三〇	二五	二二	一八	一六	一四	一二	一〇

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 三重縣

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 愛知縣

○愛知縣下

【一】名古屋市吏員俸給

市 長	五,000圓以上 一〇,000圓以下		助 役	一,000圓以上 三,000圓以下		收 入 役	六〇〇圓以上 一,五〇〇圓以下						
	一級	二級		三級	四級		五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級
區 長	一,二〇〇	一,〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	〇	〇
技 師	一,〇〇〇	一,七〇〇	一,五〇〇	一,三〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	〇
視 學	一,五〇〇	一,三〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	三〇〇	〇
市書記	上 七五	下 六五	六〇	四〇	三〇	二五	二〇	一八	一六	一四	一三	一三	〇
區書記	上 七五	下 六五	六五	四三	三三	二五	二〇	一七	一五	一三	一三	〇	〇
技 手	六五	五五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一八	一六	一四	一三	〇	〇
掃除監督長	四〇圓以上六〇圓以下		掃除監督		二五圓以上四〇圓以下		掃除巡視		三圓以上三圓以下		〇		〇

一市書記、區書記及技手ニシテ最上俸ヲ受ケ滿二箇年ヲ超エ事務ニ熟達セル者ハ特ニ月俸百二十圓マテヲ給スルコトヲ得  
 一市書記、區書記及技手ノ俸給ハ月俸四十圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ハラズ適宜ノ金額ヲ定メ支給スルコトヲ得

【二】豊橋市吏員俸給

書 記	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
書記補	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
書 記	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二七	二四	二二	二〇	一八	一六	一五

○山梨縣下

【一】甲府市吏員俸給

市 長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級
助 役	八〇〇	七〇〇	六〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
收入役	五〇〇	四〇〇	三五〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
技 師	一五〇	一三〇	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三五	〇	〇	〇	〇	〇
書 記	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二七	二四	二三	二〇	一八	一六	一五	一四	一三	一二
技 手	六〇	五〇	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一八	一六	一四	〇	〇	〇	〇	〇

一、一級以上ノ給與ハ特別給與トス

○滋賀縣下

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 山梨縣

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 滋賀縣

【一】滋賀縣吏員俸給

土木技師	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
土木技師	1,200 <small>圓</small>	1,000 <small>圓</small>	900 <small>圓</small>	800 <small>圓</small>	700 <small>圓</small>	600 <small>圓</small>	500 <small>圓</small>	400 <small>圓</small>	300 <small>圓</small>	200 <small>圓</small>
土木技師	500 <small>圓</small>	450 <small>圓</small>	400 <small>圓</small>	350 <small>圓</small>	300 <small>圓</small>	250 <small>圓</small>	200 <small>圓</small>	150 <small>圓</small>	100 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>

【二】大津市吏員俸給

市長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
市長	1,500 <small>圓</small>	1,100 <small>圓</small>	1,100 <small>圓</small>	1,000 <small>圓</small>	900 <small>圓</small>	800 <small>圓</small>	700 <small>圓</small>	600 <small>圓</small>	500 <small>圓</small>	400 <small>圓</small>
助役	1,000 <small>圓</small>	800 <small>圓</small>	700 <small>圓</small>	600 <small>圓</small>	550 <small>圓</small>	500 <small>圓</small>	450 <small>圓</small>	400 <small>圓</small>	350 <small>圓</small>	300 <small>圓</small>
收入役	600 <small>圓</small>	500 <small>圓</small>	450 <small>圓</small>	400 <small>圓</small>	350 <small>圓</small>	300 <small>圓</small>	250 <small>圓</small>	200 <small>圓</small>	150 <small>圓</small>	100 <small>圓</small>
書記	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
書記	600 <small>圓</small>	550 <small>圓</small>	500 <small>圓</small>	450 <small>圓</small>	400 <small>圓</small>	350 <small>圓</small>	300 <small>圓</small>	250 <small>圓</small>	200 <small>圓</small>	150 <small>圓</small>
書記	600 <small>圓</small>	550 <small>圓</small>	500 <small>圓</small>	450 <small>圓</small>	400 <small>圓</small>	350 <small>圓</small>	300 <small>圓</small>	250 <small>圓</small>	200 <small>圓</small>	150 <small>圓</small>
掃除監督	400 <small>圓</small>	350 <small>圓</small>	300 <small>圓</small>	250 <small>圓</small>	200 <small>圓</small>	150 <small>圓</small>	100 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>
掃除監督	350 <small>圓</small>	300 <small>圓</small>	250 <small>圓</small>	200 <small>圓</small>	150 <small>圓</small>	100 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>
掃除監督	300 <small>圓</small>	250 <small>圓</small>	200 <small>圓</small>	150 <small>圓</small>	100 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>
掃除巡視	200 <small>圓</small>	180 <small>圓</small>	160 <small>圓</small>	150 <small>圓</small>	140 <small>圓</small>	130 <small>圓</small>	120 <small>圓</small>	110 <small>圓</small>	100 <small>圓</small>	90 <small>圓</small>

一書記一級俸ヲ受ケ事務熟練優秀ナル者ハ本表ノ範圍内ニ拘ハラズ漸次七十五圓マテ増給スルコトヲ得

○岐阜縣下

【一】岐阜縣安八郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
60 <small>圓</small>	50 <small>圓</small>	45 <small>圓</small>	40 <small>圓</small>	35 <small>圓</small>	30 <small>圓</small>	25 <small>圓</small>	20 <small>圓</small>	17 <small>圓</small>	15 <small>圓</small>

【二】岐阜縣揖斐郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
50 <small>圓</small>	40 <small>圓</small>	35 <small>圓</small>	30 <small>圓</small>	25 <small>圓</small>	20 <small>圓</small>	17 <small>圓</small>	上 15 <small>圓</small> 下 14 <small>圓</small>	13 <small>圓</small>	11 <small>圓</small>

【三】岐阜縣山縣郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
30 <small>圓</small>	25 <small>圓</small>	22 <small>圓</small>	20 <small>圓</small>	18 <small>圓</small>	16 <small>圓</small>	14 <small>圓</small>	12 <small>圓</small>	10 <small>圓</small>	8 <small>圓</small>

【四】岐阜縣武儀郡產業技手俸給

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 岐阜縣

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 岐阜縣

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
七五 <small>圓</small>	六〇 <small>圓</small>	五〇 <small>圓</small>	四五 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>

【五】岐阜縣加茂郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
上	四〇 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二二 <small>圓</small>	一八 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一〇 <small>圓</small>	八 <small>圓</small>
下	三五	二五	二〇	一六	一二	九	七
							五

一任用上ノ都合ニ依リ八級下俸以下ヲ支給スルコトヲ得

【六】岐阜縣可兒郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
五〇 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一七 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>	一〇 <small>圓</small>

一月俸三十圓未滿ノ者ニ限リ適宜ノ金額ヲ定メ支給スルコトヲ得

【七】岐阜縣土岐郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一八 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>	一〇 <small>圓</small>

一月俸三十圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ハラズ適宜ノ金額ヲ定メ支給スルコトヲ得

【八】岐阜縣益田郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
七五 <small>圓</small>	六〇 <small>圓</small>	五〇 <small>圓</small>	四五 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>

【九】岐阜縣大野郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>	一〇 <small>圓</small>

【一〇】岐阜市吏員俸給

技書	手記	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級														
一級	五〇 <small>圓</small>	二級	四五 <small>圓</small>	三級	四〇 <small>圓</small>	四級	三五 <small>圓</small>	五級	三〇 <small>圓</small>	六級	二七 <small>圓</small>	七級	二四 <small>圓</small>	八級	二二 <small>圓</small>	九級	二〇 <small>圓</small>	十級	一八 <small>圓</small>	十一級	一六 <small>圓</small>	十二級	一四 <small>圓</small>	十三級	一二 <small>圓</small>	十四級	一〇 <small>圓</small>	十五級	八 <small>圓</small>	
監督	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級	十六級	十七級	十八級	十九級	二十級	二十一級	二十二級	二十三級	二十四級	二十五級	二十六級	二十七級	二十八級	二十九級	三十級
長除	五〇 <small>圓</small>	四五 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二七 <small>圓</small>	二四 <small>圓</small>	二二 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一八 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>	一〇 <small>圓</small>	八 <small>圓</small>	七 <small>圓</small>	六 <small>圓</small>	五 <small>圓</small>	四 <small>圓</small>	三 <small>圓</small>	二 <small>圓</small>	一 <small>圓</small>	〇 <small>圓</small>	〇 <small>圓</small>	〇 <small>圓</small>	〇 <small>圓</small>	〇 <small>圓</small>	〇 <small>圓</small>	〇 <small>圓</small>	〇 <small>圓</small>

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 岐阜縣

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 長野縣

一八六

掃除監督	二五	二二	二〇	一八	一七	一六
掃除巡視	一五	一四	一三	一二	一一	一〇

○長野縣下

【一】長野市吏員俸給

書記	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	上 四〇 <small>圓</small>	三六 <small>圓</small>	三二 <small>圓</small>	二八 <small>圓</small>	二四 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一八 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>
書記補	下 三八	三四	三〇	二六	二二	一八	一六	一四	一二	一〇
工手	二〇	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇

【二】松本市吏員俸給

技書	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	上 三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二八 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二二 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一七 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>	一三 <small>圓</small>	一一 <small>圓</small>
技書手記	下 三五	三〇	二八	二五	二二	一八	一六	一四	一二	一〇
工手	二〇	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇

○宮城縣下

【一】仙臺市吏員俸給

技部	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	師長 二,〇〇〇 <small>圓</small>	一,八〇〇 <small>圓</small>	一,六〇〇 <small>圓</small>	一,五〇〇 <small>圓</small>	一,四〇〇 <small>圓</small>	一,三〇〇 <small>圓</small>	一,二〇〇 <small>圓</small>	一,一〇〇 <small>圓</small>	一,〇〇〇 <small>圓</small>	九〇〇 <small>圓</small>
技書	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二七	二五	二三	二〇	一八
技書手記	補 一七	補 一六	補 一五	補 一四	補 一三	補 一三	補 一二	補 一二	補 一一	補 一〇

○福島縣下

【一】福島縣蠶業取締吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
五〇 <small>圓</small>	四五 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三六 <small>圓</small>	三三 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二八 <small>圓</small>	二六 <small>圓</small>	二四 <small>圓</small>	二二 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一八 <small>圓</small>

【二】福島市吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二七 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二三 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一八 <small>圓</small>	一七 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一三 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 宮城縣、福島縣

一八七

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 青森縣

【三】若松市吏員俸給

技書 手記	上	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	六〇 <small>圓</small>	五〇 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一七 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	
下	五五	四五	三五	二七	二三	一八	一七 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一〇
除掃監督 掃除巡視	二〇	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	

○青森縣下

【一】青森市吏員俸給

市長	一、五〇〇 <small>圓</small>	一、二〇〇 <small>圓</small>	一、〇〇〇 <small>圓</small>	一、〇〇〇 <small>圓</small>	六〇	五五	五〇
助役	一、〇〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	六五		
收入役	七〇〇	六〇〇	五〇〇	五〇〇			
技師	八〇	七〇	六五	六〇			

○山形縣下

【一】山形縣地方產業技師、縣立農事試驗場技師、縣種畜場技師、工師、衛生技師、輸出米檢查所長俸給

技書 手記	上	五〇	四〇	三〇	二二	一八	一四
	下	四五	三五	二五	二〇	一六	一二

【二】山形縣判任待遇職員及縣吏員俸給

一級	一、六〇〇 <small>圓</small>	一、五〇〇 <small>圓</small>	一、四〇〇 <small>圓</small>	一、三〇〇 <small>圓</small>	一、二〇〇 <small>圓</small>	一、〇〇〇 <small>圓</small>	九〇〇 <small>圓</small>	八〇〇 <small>圓</small>	七〇〇 <small>圓</small>	六〇〇 <small>圓</small>
二級										
三級										
四級										
五級										
六級										
七級										
八級										
九級										
十級										

一左記職員ノ俸給ハ本表ニ依ル

地方産業技師、縣立農事試驗場技師及書記、縣種畜場技師及書記、測候所技師及書記、屠畜検査技師、工手及工手補、土木書記、河川管理吏員、衛生技師及同技師補並同書記、蠶業取締吏員及書記、輸出羽二重検査所技師及書記、耕地整理書記、養徳園職員、教諭心得、助教諭心得、圖書館職員、輸出米

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 山形縣



○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 秋田縣

一九〇

検査監督員及同検査員並同検査所書記、産業獎勵吏員

一工手補、衛生技手補ノ月俸ハ二十五圓以下トス

【三】山形市吏員俸給

書記	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
掃除監督	二〇	一八	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	
掃除巡視	一五	一四	一三	一二	一一	一〇				

【四】米澤市吏員俸給

市長	一、二〇〇〇圓以上		助役	七〇〇〇圓以上		收入役	三〇〇〇圓以上	
	一、二〇〇〇圓以下			七〇〇〇圓以下			五〇〇〇圓以下	
書記	上	三五	等	二	三	等	四	五
	中	三〇		三	四		五	
	下	二七		四	五		六	

○秋田縣下

【一】秋田縣公立圖書館館長及書記俸給

館長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級
書記	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二六	二二	二〇	一七	一四	一二

【二】秋田市吏員俸給

書記	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二七	二五	二二	二〇	一七	一五	一二

一月俸三十五圓未満ノ者ニ限リ適宜ノ金額ヲ定メ支給スルコトヲ得但シ所定ノ最低額ヲ下スコトヲ得ス

○福井縣下

【一】福井市吏員俸給

市長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
助役	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	八〇〇	六五〇	五〇〇					

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 福井縣

一九一

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 石川縣

一九二

收入役	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四五〇	四〇〇	三五〇											
技師	一五〇〇	一三〇〇	一二五〇	一〇〇〇	八五〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇											
書記	六〇〇	五〇〇	四五〇	四〇〇	三五〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一八〇	一六〇	一四〇	一二〇	一〇〇						

○石川縣下

【一】石川縣吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級
年俸	一、五〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇								
月俸	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一〇
日給	五錢	三錢	二五錢	二〇錢										

一本表中ニハ金澤病院ノ職員ヲ含ム

一月俸四十圓未滿ハ級俸ニ拘ハラズ適宜ノ金額ヲ定メ支給スルコトヲ得

【二】石川縣公立學校小學校ヲ除ク准教員及舍監心得俸給

教諭心得	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	七〇	六五	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五

員准教

助教諭心得	三〇	二五	二〇	一七	一四	一二	一〇			
准訓導	二〇	一八	一六	一四	一二	一〇	九	八	七	六
補助教員	二〇	一八	一六	一四	一二	一〇	九	八	七	六
舍監心得	三〇	二五	二〇	一七	一四	一二	一〇			

一教諭心得ニシテ十級俸ヲ給スルモノハ高等女學校市町村立實業學校ニ限ル

【三】石川縣電話技術員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級
三〇	二五	二二	二〇	一七	一五	一三	一〇	

【四】金澤市吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
上俸	八〇	六〇	四五	三五	二八	二三	一七	一四	一二
下俸	七〇	五〇	四〇	三〇	二五	二〇	一五	一三	一一

一一級俸ヲ受クル者ニシテ加俸ノ必要アルモノハ特ニ百圓マテ支給スルコトヲ得  
一掃除監督長、同監督、同巡視ノ俸給ハ縣令指定ノ範圍ニ依リ之ヲ決定ス

○富山縣下

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 石川縣、富山縣

一九三

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 富山縣、鳥取縣

一九四

【一】富山縣縣費吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
六〇 <small>圓</small>	五五 <small>圓</small>	五〇 <small>圓</small>	四五 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一七 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>

一本表ハ農業技手、工業技手、林業技手、水産技手、警察醫、屠畜検査技手、縣書記、土木技手、河川管理吏員、檢稅吏、農業書記、農業助手、林業助手、警察技手及伏木測候所、農業試驗場、水産講習所、蠶業取締所、米穀検査所、輸出羽二重検査所ノ職員ニ適用ス  
一月俸四十圓未満ハ級俸ニ拘ハラズ適宜ノ金額ヲ定メ支給スルコトアルヘシ

【二】富山縣中新川郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
二五 <small>圓</small>	二二 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一八 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一三 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>	一一 <small>圓</small>	一〇 <small>圓</small>

○鳥取縣下

【一】鳥取市吏員俸給

書記	上	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
	下	四五 <small>圓</small>	五〇 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>
技師	上	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
	下	四五 <small>圓</small>	五〇 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>

○岡山縣下

【一】岡山縣吏員俸給

工師	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	二、〇〇〇 <small>圓</small>	一、八〇〇 <small>圓</small>	一、六〇〇 <small>圓</small>	一、四〇〇 <small>圓</small>	一、二〇〇 <small>圓</small>	一、〇〇〇 <small>圓</small>	九〇〇 <small>圓</small>	八〇〇 <small>圓</small>	七〇〇 <small>圓</small>	六〇〇 <small>圓</small>
工手	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	一、五〇〇 <small>圓</small>	一、四〇〇 <small>圓</small>	一、三〇〇 <small>圓</small>	一、二〇〇 <small>圓</small>	一一〇〇 <small>圓</small>	一〇〇〇 <small>圓</small>	九〇〇 <small>圓</small>	八〇〇 <small>圓</small>	七〇〇 <small>圓</small>	六〇〇 <small>圓</small>
工手補	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	一、一〇〇 <small>圓</small>	一、〇〇〇 <small>圓</small>	九〇〇 <small>圓</small>	八〇〇 <small>圓</small>	七〇〇 <small>圓</small>	六〇〇 <small>圓</small>	五〇〇 <small>圓</small>	四〇〇 <small>圓</small>	三〇〇 <small>圓</small>	二〇〇 <small>圓</small>

一事務ノ繁閑ニ依リ最低俸以下ヲ給スルコトアルヘシ

【二】岡山市吏員俸給

市長	一、二〇〇 <small>圓</small> 以上	助役	一、八〇〇 <small>圓</small> 以上	收入役	八〇〇 <small>圓</small> 以上								
	二、五〇〇 <small>圓</small> 以下	役	一、五〇〇 <small>圓</small> 以下	收入役	四〇〇 <small>圓</small> 以下								
書記	上	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
	下	五五 <small>圓</small>	四五 <small>圓</small>	三六 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二六 <small>圓</small>	二二 <small>圓</small>	一九 <small>圓</small>	一七 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>	一三 <small>圓</small>	一一 <small>圓</small>	九 <small>圓</small>
水道巡視	上	五五 <small>圓</small>	四五 <small>圓</small>	三六 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二六 <small>圓</small>	二二 <small>圓</small>	一九 <small>圓</small>	一七 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>	一三 <small>圓</small>	一一 <small>圓</small>	
	下	五〇 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三三 <small>圓</small>	二八 <small>圓</small>	二四 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一八 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>	一〇 <small>圓</small>	
書記補	上	一五 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一三 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>	一一 <small>圓</small>	一〇 <small>圓</small>	九 <small>圓</small>	八 <small>圓</small>	七 <small>圓</small>	六 <small>圓</small>	五 <small>圓</small>	
	下	一五 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一三 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>	一一 <small>圓</small>	一〇 <small>圓</small>	九 <small>圓</small>	八 <small>圓</small>	七 <small>圓</small>	六 <small>圓</small>	五 <small>圓</small>	
技師	上	八〇 <small>圓</small>	七五 <small>圓</small>	七〇 <small>圓</small>	六五 <small>圓</small>	六〇 <small>圓</small>	五五 <small>圓</small>	五〇 <small>圓</small>	四五 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	
	下	八〇 <small>圓</small>	七五 <small>圓</small>	七〇 <small>圓</small>	六五 <small>圓</small>	六〇 <small>圓</small>	五五 <small>圓</small>	五〇 <small>圓</small>	四五 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 岡山縣

一九五



○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 山口縣

【三】尾道市吏員俸給

工書記手	技書手記		一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
	下	上								
下	一一	一二	三三	三四	三〇	二六	二〇	一八	一四	一一
上	九	一〇	二八	三〇	二四	二二	一六	一五		

一書記、技手ノ一級上俸ヲ受クル者ニシテ特別ノ勤勞又ハ特殊ノ技能アルモノハ五十圓マテ増俸シ工手ハ場合ニ依リ二十五圓マテ支給スルコトヲ得  
一書記、技手ニシテ四級上俸以下ノ者及書記補、工手ハ各級金額以內ニ於テ適宜金額ヲ定メ支給スルコトヲ得

○山口縣下

【一】山口縣吏員職員俸給

縣	縣病院院長	縣病院醫科部長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	四、〇〇〇	三、六〇〇	三、三〇〇	三、〇〇〇	二、八〇〇	二、六〇〇	二、四〇〇	二、二〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇

員 職 縣		員 吏	
書記	技手	書記	技手
一、四〇〇	一、〇〇〇	一、四〇〇	一、〇〇〇
一、三〇〇	九〇〇	一、三〇〇	九〇〇
一、二〇〇	八〇〇	一、二〇〇	八〇〇
一、一〇〇	七〇〇	一、一〇〇	七〇〇
一、〇〇〇	六〇〇	一、〇〇〇	六〇〇
九〇〇	五〇〇	九〇〇	五〇〇
八〇〇	四〇〇	八〇〇	四〇〇
七〇〇	三〇〇	七〇〇	三〇〇
六〇〇	二〇〇	六〇〇	二〇〇
五〇〇	一〇〇	五〇〇	一〇〇
四〇〇	六〇	四〇〇	六〇
三〇〇	五〇	三〇〇	五〇
二〇〇	四〇	二〇〇	四〇
一〇〇	三〇	一〇〇	三〇
六〇	二〇	六〇	二〇
三〇	一〇	三〇	一〇

一書記ハ縣病院庶務部長タル者ニ限リ藥劑手ノ給額ノ例ニ依リ六十圓マテ支給スルコトヲ得

【二】下關市吏員俸給

市 長	一級	二級	三級	四級	五級
四、〇〇〇	三、五〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇
二、〇〇〇	一、七〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 山口縣

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 和歌山縣

二〇〇

收入役	一、二〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇
-----	-------	-------	-----	-----	-----

○和歌山縣下

【一】和歌山市吏員俸給

市長	一級	二、四〇〇	二級	二、〇〇〇	三級	一、七〇〇	四級	一、五〇〇	五級	一、三〇〇	六級	一、一〇〇	七級	一、〇〇〇	八級	一、〇〇〇	九級	一、〇〇〇	十級	一、〇〇〇
	助役	一、一〇〇	一、〇〇〇	八〇〇	八〇〇	七〇〇	七〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
收入役	八〇〇	七〇〇	六〇〇	六〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
技師	一、一〇〇	一、〇〇〇	八〇〇	八〇〇	七〇〇	七〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
書記補	技師	上	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
		下	四〇	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
書記補	一級	二〇	二級	一八	三級	一六	四級	一五	五級	一四	六級	一三	七級	一二	八級	一一	九級	一〇	十級	九
掃除監督	一級	三〇	二級	二五	三級	二二	四級	二〇	五級	一八	六級	一六	七級	一四	八級	一二	九級	一一	十級	一〇

○德島縣下

【一】德島市吏員俸給

技師	一級	四〇	二級	三五	三級	三〇	四級	二八	五級	二五	六級	二二	七級	二〇	八級	一七	九級	一五	十級	一三	十一級	一二	十二級	一一	十三級	一〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	-----	----

○香川縣下

【一】香川縣警察醫俸給

奏任待遇	一級	二、〇〇〇	二級	一、八〇〇	三級	一、六〇〇	四級	一、四〇〇	五級	一、三〇〇	六級	一、二〇〇	七級	一、一〇〇	八級	一、〇〇〇	九級	九〇〇	十級	八〇〇
列任待遇	一〇〇	九〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

【二】香川縣木田郡吏員俸給

一級	四〇	二級	三二	三級	二七	四級	二二	五級	一九	六級	一七	七級	一五	八級	一四	九級	一三	十級	一一
上	四〇	三二	二七	二二	一九	一七	一五	一三	一一	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
下	三五	三〇	二五	二〇	一八	一六	一四	一二	一一	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 德島縣、香川縣

二〇一

【三】香川縣小豆郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
上	三〇 <small>圓</small>	二三 <small>圓</small>	一八 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一一 <small>圓</small>	九 <small>圓</small>
下	二六	二〇	一六	一二	一〇	八
						六

【四】高松市吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
市長	二〇〇 <small>圓</small>	一五〇 <small>圓</small>	一〇〇 <small>圓</small>	八〇 <small>圓</small>	六〇 <small>圓</small>	四〇 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一五 <small>圓</small>
助役	一〇〇	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一五
收入役	八〇	七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一五	
書記	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三〇	二五	二〇	一五
視學	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三〇	二五	二〇	一五
技手	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三〇	二五	二〇	一五
掃除監督	二十圓以上	掃除監督	十四圓以上	掃除巡視	八圓以上				

一月俸三十圓未満ノ者ニ限リ級俸ニ拘ハラズ適宜ノ金額ヲ定メ支給スルコトヲ得

○福岡縣下

【一】福岡縣郡吏員俸給

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
四〇 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	三〇 <small>圓</small>	二六 <small>圓</small>	二三 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一八 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>	一四 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>	一〇 <small>圓</small>	八 <small>圓</small>

【二】福岡市吏員俸給

市長	一、二〇〇 <small>圓</small> 以上 三、〇〇〇 <small>圓</small> 以下	助役	一、七〇〇 <small>圓</small> 以上 一、五〇〇 <small>圓</small> 以下	收入役	四、〇〇〇 <small>圓</small> 以上 八、〇〇〇 <small>圓</small> 以下				
書記	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等	八 等	
上手	上	七〇 <small>圓</small>	五五 <small>圓</small>	四五 <small>圓</small>	三五 <small>圓</small>	二五 <small>圓</small>	二〇 <small>圓</small>	一六 <small>圓</small>	一二 <small>圓</small>
下手	下	六〇	五〇	四〇	三〇	二二	一八	一四	一〇

【三】門司市吏員俸給

市長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
助役	三、五〇〇 <small>圓</small>	三、〇〇〇 <small>圓</small>	二、五〇〇 <small>圓</small>	二、〇〇〇 <small>圓</small>	一、五〇〇 <small>圓</small>	一、〇〇〇 <small>圓</small>	八〇〇 <small>圓</small>	七〇〇 <small>圓</small>	六〇〇 <small>圓</small>	五〇〇 <small>圓</small>

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 大分縣

二〇四

主 收入役	二,100	1,000	900	800	700	600		
技 師	1,500	1,100	1,000	900	800			
技 書	700	600	500	500	450	400	350	
技 手記								300
								200
								170

【四】小倉市吏員俸給

市 長	1,000圓以上 2,500圓以下	助 役	500圓以上 1,200圓以下	收 入 役	300圓以上 700圓以下	技 師	600圓以上 1,800圓以下
一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
六〇圓	五五圓	五〇圓	下四〇 上四五圓	三〇	二四	二〇	一八
							一六
							一四
							一二
書記補	十八圓以下						

○大分縣下

【一】大分市吏員俸給

技 師	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	上 一〇〇圓	八五圓	七五圓	六五圓	五五圓	五〇圓	四五圓	四〇圓	三五圓	三〇圓
	下 九〇	八〇	七〇	六〇	五五圓	五〇圓	四五圓	四〇圓	三五圓	三〇圓
書 記	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一七	一五	一三	一二
技 手	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五

一書記月俸二十圓以下ノ者ニ限リ級俸ニ拘ハラズ豫算ノ範圍内ニ於テ適宜ノ金額ヲ定メ支給スルコトヲ得

○沖繩縣下

【一】沖繩縣區吏員俸給

那 區 長	1,000圓以上 2,000圓以下	助 役	500圓以上 800圓以下	收 入 役	800圓以上 1,500圓以下
區 書 記	一級	二級	三級	四級	五級
	五〇圓	四五圓	四〇圓	三五圓	三〇圓
					二五圓
					二〇圓
					一五圓
					一〇圓
首 區 長	1,000	900	800	700	
助 役	700	600	500	400	

○官等俸給 政府官吏 府縣所管 乙 沖繩縣

二〇五



區	收入役	書記
	六〇〇	五〇
	五〇〇	四五
	四〇〇	四〇
	三〇〇	三五
		三〇
		二五
		二〇
		一五
		一〇

(備考)

- 一 沖繩縣島嶼在勤手當ノ件ハ東京府下ノ部【二】參看
- 二 沖繩縣及島嶼町村制ニ依ル町村吏員懲戒方ノ件ハ本節甲ノ部【三一】參看

## 第二章 宮内官吏

### 【一】宮内官官等俸給令

明治四〇年一〇月  
勅令第一三號

第一條 親任式ヲ以テ任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ八等トス親任式ヲ以テ任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至八等官ヲ奏任官トス判任官ヲ分テ四等トス

第二條 高等官及判任官ノ官等ハ別表ニ依ル

第三條 高等官ノ初任ハ六等以下トシ判任官ノ初任ハ三等以下トス但シ學位ヲ有スル者ヲ高等官ニ任用スル場合ニ限り初任ハ五等以下トスルコトヲ得他官廳ヨリ轉任スル場合ニ於テハ其ノ官等ハ高等官ニ在リテハ前官ノ官等以下トシ判任官ニ在リテハ前官ノ俸給及在職年數ヲ參酌シテ之ヲ定ム但シ高等官ニ在リテハ前官官等在職年數滿二年ヲ踰エタル者ハ一等ヲ陞スコトヲ得

前官高等官七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ陞シテ高等官六等ニ至ラシムルコトヲ得但シ學位ヲ有スル者ニ限り前官六等以下ナルトキハ陞シテ五等ニ至ラシムルコトヲ妨ケス  
前二項ノ規定ハ陸海軍將校同相當官ヲ高等官ニ任用スル場合及退官者ヲ任用スル場合ニ之ヲ準用ス

○官等俸給 宮内官吏 一、宮内官官等俸給令

二〇七

第三條ノ二 前條ノ規定ハ親任式ヲ以テ任スル宮内官官中顧問官侍從長侍從職幹事式部長官式部次官掌典長掌典次長侍醫頭内大臣祕書官長皇太后宮大夫皇后宮大夫東宮大夫東宮侍從長皇子博育官長別當御歌所長學習院長李王職長官及李王職次官ニ之ヲ適用セス

第四條 官等ハ勅任官ヲ除クノ外每等在職滿二年ヲ踰ユルニ非サレハ陞敘スルコトヲ得ス但シ高等官ニ在リテハ六等マテ判任官ニ在リテハ三等マテノ陞敘ハ此ノ限ニ在ラス

第四條ノ二 宮内省翻譯官圖書寮編修官又ハ皇室博物館部長ニシテ五年以上高等官四等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限り特ニ高等官三等ニ陞敘スルコトヲ得

侍醫補藥劑師主膳長皇宮警視帝室會計審查官補又ハ帝室林野管理局主事補ニシテ五年以上高等官五等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限り特ニ高等官四等ニ陞敘スルコトヲ得

第五條 高等官ノ俸給ハ年俸トシ判任官ノ俸給ハ月俸トス其ノ定限ハ別表ニ依ル  
高等官及判任官俸給表第二號表以下ニ依ルヘキ者

○官等俸給 宮内官吏 一、宮内官官等俸給令

ノ俸給ハ職務ノ繁簡ニ從ヒ定限ニ依ラサルコトヲ得但シ官等相當俸給ノ最高額ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 兼官アル者ノ俸給ハ其ノ多キニ從フ

第七條 他官廳ヨリ兼任スル者ニハ兼官官等相當俸給ノ最低額ノ三分ノ一以內ヲ賜フコトアルヘシ

第八條 宮内官其ノ官ノ極位ニ陞リ相當俸給ノ最高額ヲ受ケ在職滿五年ヲ踰エ勤勞顯著ナル者ニハ勅任官ニ在リテハ一箇年千圓以內奏任官ニ在リテハ一箇年五百圓以內判任官ニ在リテハ一箇月二十五圓以內ノ加俸ヲ賜フコトアルヘシ

第九條 朝鮮人ニ非スシテ朝鮮ニ在勤スル宮内官ニハ高等官ニ在リテハ俸給額十分ノ五以內判任官ニ在リテハ月俸四十五圓以下ハ月額四十圓マテ其ノ他ハ俸給額十分ノ八以內ノ加俸ヲ賜フ

第十條 俸給ノ賜與ハ勅任官ヲ除クノ外定限內ニ於テ宮内大臣之ヲ專行ス

第十一條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ賜フ

第十二條 俸給ハ新任轉任増俸減俸共ニ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス官制又ハ俸給令ノ改正ニ由リ新ニ賜フヘキ俸給ハ新令施行ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第十三條 休職又ハ廢官トナリ若ハ退官又ハ死亡シタル者ニハ高等官ニ在リテハ其ノ年俸月割ノ全額判任官ニ在リテハ其ノ月ノ俸給全額ヲ賜フ

第十三條 休職廢官退官ノ者事務引繼又ハ殘務整理ノ爲特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其ノ間仍從前ノ俸給ヲ賜フ

第十四條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス其ノ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者喪ヲ服スル者流行病豫防規則ニ依リ出勤ヲ停メラレタル者及賜暇休養中ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 休職ヲ命セラレタル者ニハ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ賜フ但シ有給ノ官ニ就キタルトキハ其ノ翌日ヨリ之ヲ停ム

第十六條 宮内官ニシテ國庫ヨリ恩給ヲ受クル者ノ俸給ハ恩給額ヲ控除シテ之ヲ賜フ但シ軍人恩給法ニ依リ受クル増加恩給額ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 宮内官ニシテ豫備役後備役又ハ補充兵役ニ在ル者陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル間ハ俸給ヲ賜ハラス但シ其ノ額宮内官俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ハ宮内官俸給ヨリ之ヲ補充ス

第十八條 宮内官死亡シタルトキハ在職中ナルト休職中ナルトニ拘ラス高等官ニ在リテハ在職最終年俸三分ノ一判任官ニ在リテハ在職最終月俸三箇月

分チ其ノ遺族ニ賜フ

第十九條 本令ノ在職年數ハ月ヲ以テ之ヲ計算ス

第二十條 皇太后宮職女官及皇后宮職女官ノ官等俸給ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

(附則) 本令施行ノ際宮内官ニ任セラレ前官ト同一ノ官等ニ在ル者ニシテ別表官等ニ相當セザル俸給ヲ受クル者ニハ仍從前ノ俸給ヲ賜フ

(第二十三條)

【二】宮内高等官官等表 (一號表二號表三號表)

○宮内大臣 一級任 一號表	●侍 從 三等乃 一號表
○宮内次官 一等 同	●式部長官 二級任 同
○宮内大臣祕書官 至七等 同	○同 一等 同
○宮内書記官 同 同	○式部次官 二 同
○宮内省翻譯官 至八等 三號表	○式部 官 二 二號表
○宮中顧問官 二 名譽官	○掌 典 長 一 一號表
○侍 從 長 二 一號表	○掌 典 次 長 二 同
○同 一 同	○同 三 同
○侍從職幹事 二 同	○掌 典 三 乃 二 號表
	○內 掌 典 七 等 同

○官等俸給 宮内官吏 二、宮内高等官官等表

●樂 部 長 四 等 乃 三 號表	●樂 劑 師 長 三 等 乃 三 號表
●樂 長 八 等 同	●樂 劑 師 五 等 乃 同
(五年以上七等ニ在リ功績アル者ハ一人ヲ限リ六等ニ即叙スルコトヲ得)	(侍醫補ノ注解ニ同シ)
○宗秩寮總裁 二級任 一號表	○大 膳 頭 一 一號表
○同 一 同	○大 膳 寮 主 事 三 等 乃 同
○宗秩寮主事 二 同	●主 膳 長 五 等 乃 三 號表
○同 一 同	(侍醫補ノ注解ニ同シ)
○內 藏 頭 二 同	○諸 陵 頭 一 一號表
○內 藏 寮 主 事 三 等 乃 同	○諸 陵 寮 主 事 三 等 乃 同
○圖 書 頭 二 同	○主 殿 頭 一 同
○圖 書 寮 主 事 三 等 乃 同	○主 殿 寮 主 事 三 等 乃 同
○同 編 修 官 四 等 乃 三 號表	●皇 宮 警 視 長 三 等 乃 同
(翻譯官ノ注解ニ同シ)	●皇 宮 警 視 五 等 乃 同
○侍 醫 頭 二 一號表	(侍醫補ノ注解ニ同シ)
○侍 醫 寮 主 事 三 等 乃 同	○內 匠 頭 一 同
○侍 醫 二 三 號表	○內 匠 寮 主 事 三 等 乃 同
○同 三 等 乃 同	○內 匠 寮 技 師 二 三 號表
○侍 醫 補 五 等 乃 同	○同 三 等 乃 同
(五年以上五等ニ在リ功績アル者ハ一人ヲ限リ四等ニ即叙スルコトヲ得)	○內 苑 頭 一 一號表
	○內 苑 寮 主 事 三 等 乃 同

○官等俸給 宮内官吏 三、宮内高等官俸給表

二一〇

●内苑寮技師 至八等乃 三號表	○皇太子 至三等乃 一號表	(侍醫補ノ注解ニ同シ)	○帝室博物館 二 一號表
○主馬 頭 二 一號表	○皇太后 至三等乃 一號表	○帝室林野管 二 一號表	○同 館主事 至三等乃 同
●主馬寮主事 至七等乃 同	○皇后宮大夫 二 一號表	○同局主事 二 一號表	○京都奈良各 帝室博物館 同
●馬醫 師 至三等乃 三號表	○東宮大夫 二 一號表	○同 至三等乃 同	○各帝室博物 館 至四等乃 三號表
○主馬寮技師 二 一號表	○東宮侍從 二 一號表	○同局主事補 至五等乃 同	○館長 至四等乃 三號表
●同 至三等乃 同	○東宮侍從 三 一號表	(侍醫補ノ注解ニ同シ)	(翻譯官ノ注解ニ同シ)
○主獵寮主事 二 一號表	●東宮主事 至三等乃 同	○同局技師 二 一號表	○李王職長官 一 一號表
●主獵寮主事 至七等乃 同	○皇子 長 二 一號表	○同 至三等乃 同	○同 次官 二 一號表
○主獵寮主事 至七等乃 同	○皇子 傅育官 至三等乃 同	○御歌所長 二 一號表	(本合施行ノ際任用セラルル者ノ官ノ特ニ一 等ト爲スコトヲ指)
●同 至三等乃 同	○別 當 二 一號表	○御歌所主事 至三等乃 同	○同 事務官 二 一號表
○調度寮主事 至三等乃 一號表	○家 令 至三等乃 同	○學習院長 二 一號表	○同 贊 侍 二 一號表
●調度寮技師 至五等乃 三號表	○帝室會計審 二 一號表	○同女學部長 二 一號表	○同 典 祀 至三等乃 同
○内大臣 一 一號表	○同局主事 至三等乃 同	○同院主事 至三等乃 同	○同 典 醫 同 三號表
○同秘書官長 二 一號表	○帝室會計審 至三等乃 同	○同院教授 二 一號表	○同 技師 同 同
●同 秘書官 至三等乃 同	○同局主事 至三等乃 同	○同 至三等乃 同	
○皇太子 二 一號表	○同審查官補 至五等乃 同	○同院學生監 至四等乃 同	

【三】宮内高等官俸給表 (年俸トス)

第一號表		第二號表		第三號表	
親任	勅任	親任	勅任	親任	勅任
一級俸	八,000	一級俸	八,000	一級俸	八,000
二級俸	6,000	二級俸	6,000	二級俸	6,000
三級俸	4,000	三級俸	4,000	三級俸	4,000
四級俸	3,000	四級俸	3,000	四級俸	3,000
五級俸	2,500	五級俸	2,500	五級俸	2,500
六級俸	2,000	六級俸	2,000	六級俸	2,000
七級俸	1,500	七級俸	1,500	七級俸	1,500
八級俸	1,000	八級俸	1,000	八級俸	1,000

第二號表		第三號表	
勅任	奏任	勅任	奏任
一級俸	4,100	一級俸	4,100
二級俸	3,700	二級俸	3,700
三級俸	3,000	三級俸	3,000
四級俸	2,500	四級俸	2,500
五級俸	2,100	五級俸	2,100
六級俸	1,700	六級俸	1,700
七級俸	1,300	七級俸	1,300
八級俸	1,000	八級俸	1,000

○官等俸給 宮内官吏 三、宮内高等官俸給表

二一一

○官等俸給 宮内官吏 四、宮内判任官官等表一五、同俸給表

官等	勅任官		奏任官							
	一	二	一	二	三	四	五	六	七	八
一級俸	5,000	4,100	3,000	2,500	2,100	1,700	1,500	1,100	1,000	1,000
二級俸	4,100	3,700	3,100	2,700	2,100	1,700	1,500	1,100	1,000	1,000
三級俸		3,500	3,000	2,500	2,100	1,700	1,500	1,100	1,000	850

【四】宮内判任官官等表 (一號表二號表三號表)

宮内 屬 一號表	内 舍 人 一號表	内 舍 人 二號表	内 大臣 屬 一號表	御歌所 錄事 一號表
舍 人 同 二號表	皇宮 警部 同 一號表	内 匠 寮 技手 同 一號表	皇太后 宮 屬 同 一號表	學 習 院 書 記 同 一號表
内 掌 典 同 二號表	内 苑 寮 技手 同 二號表	馬 醫 同 同 二號表	皇 后 宮 屬 同 同 二號表	同 助 教 授 同 三號表
掌 典 補 同 同 三號表	主 馬 寮 技手 同 同 三號表	獵 場 監 守 長 二號表	東 宮 內 舍 人 同 二號表	各 帝 室 博 物 館 部 次 長 同 同
醫 員 同 三號表	獵 場 名 譽 監 三號表	鷹 守 三號表	家 扶 同 同 一號表	同 同 同 一號表
藥 劑 員 同 同 三號表	調 度 寮 技 手 一號表	陵 墓 守 長 二號表	帝 室 會 計 審 查 局 屬 一號表	同 技 手 同 三號表
主 膳 同 同 三號表	陵 墓 名 譽 守 三號表	陵 墓 名 譽 守 三號表	帝 室 林 野 管 理 局 屬 同 同 一號表	同 技 手 同 三號表
部 陵 墓 名 譽 守 三號表			同 局 技 手 同 三號表	同 技 手 同 三號表

【五】宮内判任官俸給表 (月俸トス)

別表ニ依ル  
一 奏任官及判任官ニ在リテハ職務ノ繁簡ニ從ヒ別表ノ定限ニ依ラサルコトヲ得但シ官等相當俸給ノ最高額ヲ超ユルコトヲ得ス

高等官俸給表(年俸)

官等	勅任官	奏任官
一級俸	3,000	2,800
二級俸	2,500	2,300
一等	2,000	1,800
二等	1,500	1,300
三等	1,000	800
四等	700	500

判任官俸給表(月俸)

官等	一	二	三	四
一級俸	500	450	400	350
二級俸	400	350	300	250

【七】勅任待遇奏任待遇宮内職員職制

明治四〇年一月  
宮内省令第五號

一 侍從職ニ侍從職勤務及侍從職出仕ヲ置ク共ニ奏任待遇トス(第一條)

【六】朝鮮人タル宮内官ノ俸給

明治四三年一月  
皇令第三六號

一 朝鮮人タル宮内官ノ俸給ハ朝鮮ニ在勤スル者ニ限

○官等俸給 宮内官吏 六、朝鮮人タル宮内官ノ俸給一七

○官等俸給 宮内官吏 八、判任待遇等外宮内職員待遇及俸給

二二四

- 一 式部職ニ舍人長ヲ置ク奏任待遇名譽職トス(第二條)
- 一 諸陵寮ニ陵墓名譽守長ヲ置キ主獵寮ニ獵場名譽監守長ヲ置ク共ニ奏任待遇名譽職トス(第三條)
- 一 主馬寮ニ主馬寮勤務ヲ置ク奏任待遇トス(第三條ノ二)
- 一 御歌所ニ寄人及參候ヲ置ク寄人ハ勅任待遇又ハ奏任待遇名譽職トシ參候ハ奏任待遇名譽職トス(第四條)
- 一 各帝室博物館ニ評議員及學藝委員ヲ置ク評議員ハ勅任待遇又ハ奏任待遇名譽職トシ學藝委員ハ奏任待遇名譽職トス(第五條)
- 一 御用掛ハ本官アル者ヲ除クノ外勅任待遇又ハ奏任待遇トシ名譽職ト爲スコトヲ得(第六條)
- 一 本官アル者ハ其ノ本官ノ待遇ヲ享ク
- 一 侍從職勤務侍從職出仕主馬寮勤務及御用掛ノ俸給ハ年俸トシ左ノ定限ニ依ル(第七條)
- 侍從職勤務 千八百圓 勅任待遇御 三千七百圓  
以下 用掛 以下
- 侍從職出仕 九百圓 奏任待遇御 二千五百圓  
以下 用掛 以下
- 主馬寮勤務 二千圓 以下
- 一 宮内官官等俸給令第六條第十條乃至第十四條第十條乃至第十九條中高等官ニ關スル規定ハ前項ノ職員ニ之ヲ準用ス

- 一 權殿及伏見桃山陵ノ祭事ヲ掌ラシムル爲メ臨時左ノ職員ヲ置ク名譽職トス(大正元年一月 宮内省令第一〇號)
- 祭官長 勅任待遇 祭官 奏任待遇
- 祭官副長 勅任待遇 祭官補 判任待遇

【八】判任待遇等外宮内職員待遇及俸給

明治四二年五月 宮内省令第三號

- 一 諸陵寮ニ陵墓守部ヲ置ク判任待遇トス(第四條)
- 一 主殿寮警察部ニ皇宮警手ヲ置ク判任待遇トス(第五條)
- 一 主獵寮ニ獵場監守及鷹匠ヲ置ク判任待遇トス(第七條)
- 一 參奉ノ俸給ハ月俸トシ三十圓以下トス(第七條ノ三)
- 一 李王職ニ參奉ヲ置ク判任待遇トス墳塋ノ警守及祭祀ニ從事ス(第八條)
- 一 陵墓守部獵場監守ノ俸給ハ年俸、皇宮警手鷹匠ノ俸給ハ月俸トシ左ノ定限ニ依ル(第八條)
- 陵墓守部 自二十圓 皇宮警手 自十二圓至二十五圓
- 獵場監守 自二百圓 鷹匠 自十五圓至三十五圓
- 一 等外職員ノ俸給ハ月俸トシ左ノ定限ニ依ル(第九條)

- 受授員、膳手、仕人 自十圓至二十圓
- 樂生自五圓至十五圓 蹄鐵工自十二圓至四十五圓
- 一 初メテ皇宮警手ニ採用スル者ノ俸給ハ十五圓以下トシ受授員膳手及仕人ニ採用スル者ノ俸給ハ十三圓以下トス(第十條)
- 前項ノ規定ハ他ノ官職ニ在ル者又ハ在リタル者ヲ皇宮警手受授員膳手又ハ仕人ニ採用スル場合ニ之ヲ適用セス但シ前官職ノ俸給額ヲ超ユルコトヲ得ス
- 一 判任待遇及等外ノ職員ハ六箇月ヲ經過スルニ非サルハ増俸スルコトヲ得ス(第十一條)
- 一 増俸ハ判任待遇職員ニシテ年俸ヲ賜フ者ニ在リテハ三十六圓以內月俸ヲ賜フ者及等外職員ニ在リテハ三圓以內トス(第十二條)
- 一 宮内官官等俸給令第六條第十條乃至第十四條第十七條乃至第十九條ノ規定ハ本令ノ職員ニ之ヲ準用ス(第十三條)

【九】殿掌殿部殿丁ノ待遇及俸給

明治四〇年一月 宮内省令第八號

- 一 主殿寮出張所ニ殿掌殿部及殿丁ヲ置ク(第四條)

○官等俸給 宮内官吏 九、殿掌殿部殿丁ノ待遇及俸給

二二五

- 殿掌ハ奏任待遇殿部ハ判任待遇殿丁ハ等外トス(第四條)
- 一 殿掌ノ俸給ハ年俸殿部及殿丁ノ俸給ハ月俸トシ左ノ定限ニ依ル(第五條)
- 殿掌 自二百四十圓至五百圓
- 殿部 自十圓至二十圓
- 殿丁 自五圓至十五圓
- 一 宮内官官等俸給令第六條第十條乃至第十四條第十七條乃至第十九條ノ規定ハ第四條ノ職員ニ之ヲ準用ス(第六條)

【一〇】雇員規程 明治四〇年一月 宮内省令第一號

- 第一條 各部署局長官又ハ大臣官房各分課長ハ其ノ部署又ハ分課ニ屬スル判任官及准判任宮内職員ノ俸給年額内ニ於テ雇員ヲ置クコトヲ得
- 第二條 雇員ノ月俸ハ三十五圓以下トス
- 第三條 學術技藝ヲ要スル雇員ニ付テハ特ニ月俸百圓マテヲ給スルコトヲ得
- 第四條 雇員ノ増俸ハ滿一年ヲ經過スルコトヲ要シ且一時ニ五圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ二十圓未滿ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 雇員ノ命免増俸ハ各部署局長官又ハ大臣官房各分課長之ヲ專行シ宮内大臣ニ報告スヘシ但シ第三條ノ雇員ニ付テハ宮内大臣ニ經伺スヘシ

官等俸給 宮内官吏 一、雜仕小者雇用規程 二、外國招聘

第六條 宮内官官等俸給令第十一條乃至第十四條第十七條乃至第十九條中判任官ニ關スル規定ハ雇員ニ之ヲ準用ス

【一】雜仕小者雇用規程

明治四〇年二月 宮内省訓令第五號

一 雜仕ノ俸給ハ月給又ハ日給トシ小者ノ俸給ハ日給トス(第二條)

諸陵寮主獵寮及帝室林野管理局ニ於テ雇用ノ雜仕小者ノ俸給ハ前項ノ規定ニ拘ラス特ニ二年給ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ年額四十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

一 雜仕ノ俸給ハ月給十八圓以下日給六十五錢以下トシ特別ノ技術ヲ要スル雜仕ノ俸給ハ特ニ左ノ定限ニ依ル(第三條)

大膳寮、皇后宮職 月給七十四圓以下  
内匠寮、内苑寮 月給四十七圓以下  
日給一圓六十錢以下

其ノ他ノ部局 月給四十二圓以下  
日給一圓十錢以下

一 小者ノ俸給ハ日給五十五錢以下トシ特別ノ技術ヲ要スル小者ノ俸給ハ特ニ左ノ定限ニ依ル(第四條)

主殿寮、内匠寮、内苑寮、主馬寮 日給一圓六十錢以下  
其ノ他ノ部局 日給一圓十錢以下

【一三】錦鶏間祇候待遇

明治三三年二月 宮内省律第二二號

一 錦鶏間祇候ハ勅任官ノ待遇ヲ受ケ

【一四】麝香間祇候待遇

明治一七年七月 宮内省律第六號

一 麝香間祇候無爵者ハ特ニ其月主ノ爵ニ均シキ禮遇ヲ享ケシム

【一五】宮内官分限令

明治四〇年一〇月 皇官令第一五號

第一條 宮内官ハ法律ノ規定懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非サレハ其ノ官ヲ失ヒ又ハ之ヲ免セララルコトナシ

第一條ノ二 宮内官死刑懲役又ハ禁錮ノ宣告ヲ受ケ裁判確定シタルトキハ其ノ官ヲ失フ

第二條 宮内官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得

一 不具癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ

三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

前項第一號ニ依リ其ノ官ヲ免スルトキハ宮内官考

官等俸給 宮内官吏 一、三、錦鶏間祇候待遇 一四、一五、宮内官分限令 二一七

一、外國招聘

一月給ヲ受クル者病氣ノ爲執務セサルコト三十日ヲ踰ユルトキ及私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト十五日ヲ踰ユルトキハ月給ノ半額ヲ給ス日給ヲ受クル者ニ在リテハ執務セサル間俸給ヲ給スルコトナシ但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル間喪ヲ服スル間流行病豫防規則ニ依リ出勤セサル間及賜暇休養中ハ此ノ限ニ在ラス(第七條)

一 雜仕小者死亡シタルトキハ年給ヲ受クル者ニ在リテハ最終年給額ノ十二分ノ二チ、月給ヲ受クル者ニ在リテハ最終月給額ノ二箇月分ヲ、日給ヲ受クルモノニ在リテハ最終日給額ノ六十倍ノ額ヲ遺族ニ給ス(第九條)

一 判任待遇等外宮内職員職制第十一條及第十二條ノ規定ハ雜仕小者ノ俸給ニ關シ之ヲ準用ス但シ日給ニ在リテハ一時二十錢以上ヲ増給スルコトヲ得ス(第十三條)

【一二】外國政府招聘ノ宮内官ニ關スル件

明治三六年五月 宮内省律第二號

一 宮内官ニシテ許可ヲ受ケ外國政府ノ招聘ニ應シタル者ハ之ヲ定員外トナスコトヲ得但シ招聘ニ應シタル日ヨリ解約歸朝ノ日ニ至ル迄ノ間俸給及旅費ヲ支給セス

一 查委員ノ審査ニ付ス

第三條 宮内官ハ廢官若ハ廢廳ノ場合ニ於テハ當然退官者トス

第四條 第六條第三號第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタル者ハ當然退官者トス

第五條 宮内官ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セララルコトナシ

第六條 宮内官左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

一 宮内官懲戒令ノ規定ニ依リ宮内官考査委員ノ審査ニ付セラレタルトキ

二 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四 事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

前項休職ノ期間ハ第一號第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ宮内官考査委員ノ審査中又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號第四號ノ場合ニ在リテハ高等官ニ付テハ滿二年判任官ニ付テハ滿一年トス

第七條 休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職宮内官ト異ナルコトナシ

前條第一項第三號第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復職ヲ命ス

○官等俸給 宮内官吏 一六、宮内官任用令

ルコトヲ得

第八條 本令ハ親任式ヲ以テ任スル官ニ在ル者宮内大臣祕書官侍從内大臣祕書官東宮侍從李王職職員皇太后宮職女官及皇后宮職女官ニ之ヲ適用セス

【一六】宮内官任用令

明治四〇年一〇月  
皇令第一四號

- 第一條 宮内勅任官ハ本令其ノ他ノ皇室令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス
  - 一 滿二年以上高等官三等ノ宮内官又ハ文官ノ職ニ在ル者及在リタル者但シ特別ノ任用規程ニ依リ在職スル者及在職シタル者並ニ敎官技術官ノ在職年數ヲ除ク
  - 二 滿一年以上宮内勅任官又ハ勅任文官ノ職ニ在リタル者但シ特別ノ任用規程ニ依リ在職シタル者並ニ敎官技術官ノ在職年數ヲ除ク
  - 三 宮内勅任官又ハ勅任文官特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者並ニ敎官技術官ヲ除クノ資格ノ一ヲ有スル者
- 第二條 宮内奏任官ハ本令其ノ他ノ皇室令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス
  - 一 文官高等試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

- 二 帝國大學法科大學又ハ學習院舊大學科ノ卒業證書ヲ有スル者
- 三 滿二年以上宮内奏任官又ハ奏任文官ノ職ニ在リタル者但シ特別ノ任用規程ニ依リ在職シタル者並ニ敎官技術官ノ在職年數ヲ除ク
- 第三條 宮内判任官ハ本令其ノ他ノ皇室令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス
  - 一 文官普通試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者
  - 二 文官高等試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者
  - 三 學習院中等學校中學校又ハ宮内大臣ニ於テ之ト同等若ハ同等以上ト認メタル學校ノ卒業證書ヲ有スル者
  - 四 專門學校令ニ依リ法律學政治學行政學又ハ經濟學ヲ教授スル私立學校ニ於テ三箇年ノ課程ヲ履修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
  - 五 滿二年以上宮内官又ハ文官ノ職ニ在リタル者但シ特別ノ任用規程ニ依リ在職シタル者並ニ敎官技術官ノ在職年數ヲ除ク
- 第四條 左ニ掲ケタル宮内官ハ宮内官考查委員ノ銓衡ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得
  - 宮内省翻譯官

式部官及式部職掌典部樂部職員  
圖書寮編修官  
侍醫寮職員

主膳長及主膳  
陵墓守長及陵墓名譽守部  
内舍人及主殿寮警察部職員  
車馬監調馬師馬醫師及馬醫  
主獵官獵場監守長獵場名譽監守及鷹師  
東宮侍從  
東宮内舍人  
皇子傅育官  
皇族附職員  
御歌所職員  
博物館部長及部次長  
敎官及技術官

第五條 前四條ノ規定ハ親任式ヲ以テ任スル宮内官宮中顧問官侍從長侍從職幹事式部長官式部次官掌典長掌典次長侍醫頭内大臣祕書官長皇太后宮大夫皇后宮大夫東宮大夫東宮侍從長皇子傅育官長別當御歌所長學習院長宮内大臣祕書官内大臣祕書官李王職職員皇太后宮職女官及皇后宮職女官ニ之ヲ適用セス

第六條 帝國大學農科大學林學科又ハ舊東京農林學  
○官等俸給 宮内官吏 一六、宮内官任用令

- 校林學部本科ノ卒業證書ヲ有シ其ノ修ムル所ノ學術ヲ以テ滿三年以上高等官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者ハ帝室林野管理局主事又ハ主事補ニ任用スルコトヲ得
- 第六條ノ二 滿五年以上帝室林野管理局屬ヲ勤續シ現ニ判任官二等以上ノ職ニ在ル者ハ宮内官考查委員ノ銓衡ヲ經テ帝室林野管理局主事補ニ任用スルコトヲ得
- 第七條 滿五年以上雇員トシテ宮内各局部ニ勤續シタル者ハ宮内官考查委員ノ銓衡ヲ經テ其ノ局部ニ在勤スヘキ判任官ニ任用スルコトヲ得
- 第七條ノ二 宮内官分限令ニ依リ其ノ官ヲ失ヒタル者ハ宮内官ニ任用スルコトヲ得ス
- 第八條 宮内官懲戒令又ハ文官懲戒令ニ依リ免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間宮内官ニ任用スルコトヲ得ス
- 第九條 宮内官考查委員ハ宮内勅任官三人宮内奏任官三人ヲ以テ組織シ宮内大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス
- (附則) 本令施行前宮内省判任官任用試驗規則ニ依リ試驗ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者ハ宮内判任官ニ任用スルコトヲ得(第十二條)
- (備考) 明治四十一年一月宮内省告示第一號ヲ以

○官等俸給 宮内官吏 一七、宮内官懲戒令

テ文官任用令第三條第三號ニ依リ文部大臣ノ認定シタル官立公立學校ヲ宮内官任用令第三條第三號ニ依リ學習院中等學科中學校ト同等若ハ同等以上ト認メラル

【一七】宮内官懲戒令

明治四〇年一〇月  
皇詔令第一六號

第一條 宮内官ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條 宮内官ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルト

二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條 懲戒ハ左ノ如シ

一 免官

二 減俸

三 譴責

第四條 減俸ハ一月以上一年以下トシ高等官ニ在リテハ年俸月割額ノ三分ノ一以下判任官ニ在リテハ月俸ノ三分ノ一以下ヲ減ス

第五條 宮内大臣ハ宮内官ニシテ免官又ハ減俸ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ宮内官審査委員ノ審査ニ付スヘシ

ルトキハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

懲戒委員會ハ前項ノ要求アリタルトキハ審査ヲ經テ其ノ議決ヲ宮内大臣ニ具申スヘシ

第五條 准判任判任待遇宮内職員ノ譴責ハ各部局長官之ヲ專行シ宮内大臣ニ報告スヘシ

第六條 等外宮内職員ノ懲戒ハ各部局長官之ヲ專行ス但シ免職及減俸ニ付テハ宮内大臣ニ具申スヘシ

第七條 第四條乃至前條ノ場合ニ於テ大臣官房ニ屬スル宮内職員ノ懲戒ニ付テハ各分課長ヲ以テ各部局長官ト看做ス

【一九】宮内官議員兼職方ノ件

一 貴族院議員ノ選舉ニ應シタル者ハ宮内省中左ノ部局ノ職務ヲ兼メルコトヲ得ス(明治三三年七月)

侍從職

式部職

皇太后宮職

皇后宮職

東宮職

大膳「職」

主殿寮

主殿寮

○官等俸給 宮内官吏 一九、宮内官議員兼職方

一八、待遇職員懲戒規程

二二〇

第六條 高等官ノ免官及減俸ハ宮内官審査委員ノ議決ヲ具シ宮内大臣之ヲ上奏ス

判任官ノ免官及減俸ハ宮内官審査委員ノ議決ニ依リ宮内大臣之ヲ行フ

第七條 譴責ハ宮内大臣之ヲ專行ス

第八條 本令ハ親任式ヲ以テ任スル官ニ在ル者皇太后宮職女官及皇后宮職女官ニ之ヲ適用セス

【一八】勅任待遇奏任待遇准判任判任待遇等外宮内職員懲戒規程

明治四一年一月  
宮内省令第一號

第一條 宮内官懲戒令第一條乃至第三條ノ規定ハ勅任待遇奏任待遇准判任判任待遇等外宮内職員ノ懲戒ニ關シ之ヲ準用ス

第二條 宮内懲戒令第四條第五條第六條第一項第七條ノ規定ハ勅任待遇奏任待遇宮内職員ノ懲戒ニ關シ同令第四條ノ規定ハ准判任判任待遇宮内職員ノ懲戒ニ關シ之ヲ準用ス

第三條 准判任判任待遇宮内職員ノ免職及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ宮内大臣之ヲ行フ

懲戒委員會ハ委員三名ヲ以テ之ヲ組織ス

委員ハ宮内奏任官ノ中ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 各部局長官ハ所部准判任判任待遇宮内職員ニシテ免職又ハ減俸ニ當ルヘキ所爲アリト認メタルトキハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

主殿「局」

帝室會計審査局

皇族家職

一 宮内官ハ被選舉權ヲ有セス(皇室會議議員選  
舉法第十六條)



## 第二篇

勳章年金恩給退隱料遺族扶助料其他

### 第一章 政府官吏 附公吏

#### 第一節 通則

#### 【一】郵便官署ニ於テ年金恩給等ノ支拂

##### 事務取扱方

明治四三年三月勅令第二五號

一 國庫ノ支辨ニ屬スル年金、恩給、遺族扶助料及退隱料ノ支給ニ關スル事務ハ逕信省、統監府、臺灣總督府、關東都督府及樺太廳ノ所管ニ屬スル郵便官署ヲシテ之ヲ取扱ハシム

一 前項給與金ノ支給手續ニ關シテハ逕信大臣ノ定ムル所ニ依ル

一 第一項給與金ノ支拂ニ關シテハ歳入金歳出金並歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得

#### 【二】年金恩給支給規則

明治四三年三月通信省令第六號

第一條 國庫ノ支辨ニ關スル左記給與金ノ支給手續ニ關シテハ則ニ定ムルモノヲ除クノ外本規則ノ定ムル所ニ依ル

- 一 明治二十三年法律第四十三號官吏恩給法ニ依ル給與金
- 二 明治二十三年法律第四十四號官吏遺族扶助法ニ依ル給與金
- 三 明治二十三年法律第四十五號軍人恩給法ニ依ル給與金
- 四 明治二十三年法律第九十一號府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依ル給與金
- 五 明治二十四年法律第四號明治七年以後ノ戰役ニ死歿シタル軍人軍屬ノ遺父母及祖父母扶助ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 六 明治二十九年法律第十三號公立學校職員退隱料等ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 七 明治二十九年法律第三十六號官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則ニ依ル給與金
- 八 明治二十九年法律第七十八號臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律ニ依ル給與金
- 九 明治三十三年法律第七十五號臺灣又ハ樺太ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 十 明治三十三年法律第七十六號臺灣又ハ樺太ニ

勳章年金恩給 政府官吏 通則 二、年金恩給支給規則

二二四

服役スル軍人ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

校教員退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十一 明治三十三年法律第七十七號臺灣ニ於テ地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケル文官判任以上ノ學校職員ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十九 明治四十三年法律第三十號警部補退職料及遺族扶助料等ニ關スル法律ニ依ル給與金

十二 明治三十四年法律第三十八號巡查看守退職料及遺族扶助料法ニ依ル給與金

二十 明治四十五年法律第十一號朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

十三 明治三十五年法律第二十九號臺灣ニ在勤スル巡查看守陸軍監獄看守陸軍警守女監取締退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

二十一 明治二十七年勅令第七十三號金鷄勳章年金令ニ依ル給與金

十四 明治三十八年法律第六十四號在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法ニ依ル給與金

二十二 前各號ノ外官吏恩給令、陸軍恩給令、海軍恩給令、海軍退職令其ノ他舊令ニ依ル給與金並特ニ賜與ニ係ル年金、恩給ノ給與金

十五 明治三十九年法律第二十九號陸軍兵院法ニ依ル給與金

第二條 前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ之ヲ支給ス

十六 明治四十年法律第四十八號統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

第三條 給與金ノ支給期日ハ之ヲ告示ス

十七 明治四十年法律第四十九號統監府關東都督府及樺太等在勤巡查看守及女監取締ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金

第四條 受給者ハ郵便局ノ交附スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作製シ給與金ノ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ差出スヘシ但シ一時限ノ給與ヲ受ケル者ハ此ノ限ニ在ラス

十八 明治四十一年法律第三十五號樺太廳立小學

受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印届ヲ作製シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第五條 受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作製シタル給與金受領證書ト引換ニ現金ヲ受取ルヘシ

ハ振替預入ノ旨ヲ附記シ郵便貯金通帳ニ振替預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第六條 受給者支給期月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高並指定支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ郵便貯金局ニ差出スヘシ

第十條 受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ豫メ郵便貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期毎ニ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七條 一時限ノ給與金ヲ受ケル者ハ給與金額及支給ヲ受ケムトスル郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ニ給與ニ關スル辭令書ノ寫ヲ添ヘ郵便貯金局ニ差出スヘシ

受給者前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ振替預入ヲ受ケムトスル郵便貯金通帳ノ記號番號給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號並請求ノ要旨ヲ記載シタル請求書ニ給與ニ關スル證書ヲ添ヘ之ヲ支給郵便局ニ差出スヘシ

第八條 受給者第六條又ハ第七條ノ請求ニ對シ郵便貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ第五條ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 郵便貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付ス

第九條 受給者ハ支給郵便局ニ於テ給與金ヲ受領スル際其ノ給與金ヲ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條ノ例ニ依リ權利者タルコトヲ證明シ且給與金受領證書ニ

第十二條 第十條ニ依リ郵便貯金ニ振替預入ノ請求アリタル給與金ハ其ノ支給期毎ニ郵便貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入レ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第十條 受給者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書ニ郵便貯金通帳ヲ添ヘ支給郵便局ニ差出シ通帳ニ振替預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第十三條 受給者第十條ニ依リ振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル届書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ郵便貯金局ニ差出スヘシ

勳章年金恩給 政府官吏 通則 二、年金恩給支給規則

二二五

○勳章年金恩給 政府官吏 通則 三乃至四

二二六

郵便貯金局ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス

第十四條 受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ給與ニ關スル證書ノ種類記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十五條 受給者轉居又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作製シ新支給郵便局ニ差出スヘシ郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

【三】郵便局所、年金、恩給、遺族扶助料及退隱料等支給期日

一當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄但シ東京市内ハ左ノ通り

十一月ヨリ十五日マテ

文官恩給學校職員並巡查看守退隱料

同上遺族扶助料

陸軍並海軍恩給同上遺族扶助料

十一月ヨリ十五日マテ

十一月ヨリ二十日マテ

カヲ年金證書ヤ、恩給證書等ヲ下附セラレタトキハ、速カニ郵便局ニ就キ印鑑届用紙ヲ受取り、下ニ示ス雛形ニ倣ヒ其ノ相當欄ニ住所氏名ナドヲ書キ込ミ又印鑑欄ニハ鮮明ニ各自ノ實印ヲ捺捺シタル後之ヲ給與金ノ支給ヲ受ケヨウト思フ郵便局ニ差出スノテス尤モ一時限リノ給與金ヲ受ケルモノハ此ノ印鑑届ヲ差出スノ必要ハナイノテス

(印鑑届雛形ハ下段ニアリ)

一給與金受領ノ手續 ハ如何デアアルカト云フニ給與金受領ノ方法ニハ

一 現金ヲ支拂ヲ受ケルモノト

二 現金ヲ支拂ヲ受ケズ其ノ都度郵便貯金ニ振替預入スルモノト

三 豫メ郵便貯金局ニ證書ノ保管ヲ託シ支給期毎ニ受給者ノ郵便貯金ニ組入レテ貰フモノト

ノ三種類ガアリマス又年金恩給等ノ給與金ニハ左記ノ通り支給期月ガ定メラレ且支給期日ガ指定セラルルノテス尤モ支給期日ハ時時變更スルコトアルニ付支給郵便局ニ就テ御承知ヲ願ヒマス

給與金種類 支給期月  
文官恩給及其ノ遺族扶助料 毎年度 四月、七月  
軍人恩給及其ノ遺族扶助料 同上 十月、一月  
學校職員退隱料及其ノ遺族扶助料 同上 同上

○勳章年金恩給 政府官吏 通則 四、年金恩給等ノ受給者心得

二二七

(備考)取扱時間ハ郵便爲替貯金受拂時間ニ同シ

【四】年金恩給等ノ受給者心得

一緒言 從來府縣廳ニテ取扱ヒタル年金、恩給、退隱料及遺族扶助料等ハ受給者ノ便利ヲ圖リ四十三

年四月ヨリ内地ハ勿論臺灣、樺太、韓國、關東洲及清國等ニ在ル合計七千アマリノ郵便局ニテ之カ支拂ヲ爲スコトニナリマシタ

郵便局ニテ支拂ヲ爲ス爲受給者ニ何程便利ナ方法カ設ケラレテアルカ先ヅ順序トシテ

一郵便局支拂方法ノ大要 一チ述ベマス新ニ年金證書ヲ恩給證書ナドヲ其ノ筋カラ下付セラレタナラバ直ニ現金ノ支給ヲ受ケルニ最モ便宜ト思フ郵便局

ニ印鑑届ヲ差出シテ置イテ其ノ支給期ノ到來シタ時ニ其ノ郵便局ニ就キ現金ノ交付ヲ受ケルナリ又現金ヲ受取ル必要ガナイ場合ハ直ニ郵便貯金ニ振替ヘテ預入ルルナリスルコトモ出來ルノミナラズ豫メ年金又ハ恩給等ノ證書ヲ郵便貯金局ニ保管ヲ託シテ置ケバ其ノ都度郵便局ニ行ク世話モ入ラズ郵便貯金局ニ於テ支給期毎ニ其ノ給與金ヲ受給者ノ貯金ニ組込ムコトモ出來ル仕組ニ成ツテ居ルノ

一印鑑届ノ手續 受給者ハ地方廳又ハ市町村役場等

備考	支給郵便局名	印鑑	證書記號番號	原簿記號	
				原簿記號	原簿番號
	芝白金	印	甲二〇五	印鑑届	
	支給者氏名	居所	給與金ノ種別		
	陸軍歩兵 少佐 大出善吉	芝區三田 君塚町 十二番地	陸軍軍人 給		
	支給局受給日				
	附印				

勳章年金恩給 政府官吏 通則 四、年金恩給等ノ受給者心得

二二八

逕查看守退隱料及其ノ遺族扶助料 同上  
 特別年金 同上  
 勳章年金 毎年度 六月、十二月 同上  
 外國人恩給 同上  
 元官吏恩給令及官吏恩給令附則ニ依ル 同上  
 恩給及扶助料 同上  
 元陸軍罷役俸給恤金令ニ依ル罷役恤金 同上

一時限リノ支給ヲ受クルモノニハ別ニ支給期月ノ定メハアリマセン  
 現金受領ノ手續ニ就テハ  
 甲 繼續支給ヲ受クルモノノ受領手續  
 乙 一時限リノ支給ヲ受クルモノノ受領手續  
 丙 支給期月ヲ經過シタルモノノ受領手續  
 丁 受給者死亡シタル後ニ於ケル家督相續人又ハ遺産相續人ノ受領手續  
 ノ四箇ノ場合ガアリマス

甲 繼續受給者ノ受領手續 繼續シテ支給ヲ受クルモノガ支給期日ニ際シテ現金ヲ受取ラントスルニハ先ツ年金又ハ恩給等ノ證書ト實印トヲ持テ前ニ印鑑届ヲ差出シ置ケル郵便局ニ就キ給與金受領證書用紙ヲ受取り後ニ掲グル離形ニ倣ヒ一期ニ受取ル金高證書ニ記載シテアル記號番號、文官恩給トカ

或ハ陸軍軍人遺族扶助料ト云フ様ナ給與金ノ種類年額住所氏名等ヲ相當欄ニ書キ込ミ實印ヲ鮮明ニ押捺シテ證書ト共ニ窓口ニ差出スノデス  
 郵便局デハ其ノ證書及受領證書ヲ點檢シテ權利者ト認メタルトキハ現金ヲ交付シ同時ニ證書ヲ返ヘシマス  
 (給與金受領證書離形ハ次頁上段ニアリ)

乙 一時限給與金ノ受領手續 受領者ガ其ノ筋ヨリ一時限給與金辭令書ノ下付ヲ受ケタルトキハ速ニ適宜ノ用紙ニ依リ後ニ掲ケル離形ニ倣ヒ給與金ノ種類辭令書ノ番號、給與金額、現金ヲ受取ラントスル郵便局名並住所氏名等ヲ記載捺印シタル支給請求書ヲ作り、之ニ辭令書ノ寫ヲ添ヘ最寄郵便局ヲ經由スルカ又ハ直接郵便貯金局ヘ送付スルノデス  
 郵便貯金局デハ是等ノ請求ヲ調査シテ支拂上差支ナキモノト認メタルトキハ下記ノ如キ様式ノ支給通知書ヲ受給者ノ宅ヘ郵便ヲ以テ送り届ケルノデス  
 受給者ハ此ノ通知書ノ受領證ノ欄ニ氏名ヲ署シ實印ヲ押捺シテ之ヲ拂渡郵便局ニ差出シ且辭令書ヲ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シ現金ノ交付ヲ受クルノデス  
 (支給請求書離形ハ次頁下段ニ支給通知書離形ハ二三〇頁上段ニアリ)

原簿記號	原簿番號
------	------

給與金受領證書

一金拾五圓也

證書記號番號	五二三五
給與金ノ種類	文官遺族扶助料
金額	六十圓
支給期月	大正二年四月渡分
受領月日	大正二年四月十六日

右正ニ受領候也

居 所 横濱市尾上町二丁目十二番地

肩書氏名及受領證印 元税關鑑定官補名越正夫寡婦 名越カッ印

支給請求書

給與金ノ種類 給助金  
 給與金額 九拾圓  
 辭令書番號 二五三四

右給與金牛込北町郵便局ニ於テ御交付相成度此段請求候也

大正二年二月十二日

牛込區中町四番地 陸軍歩兵曹長 古山哲二

郵便貯金局長殿

勳章年金恩給 政府官吏 通則 四、年金恩給等ノ受給者心得

二二九

原簿記號	支給番號	給與種別	證書記號	支給局名	支給日	附印
陸い二〇五		給助金	二五三四	牛込北町	貯金局發	日附印
右支給可致候條受領證ノ部ニ記名調印ノ 上辭令書ト共ニ支給郵便局ニ可被差出候 也 陸軍歩兵曹長 古山哲二殿 郵便貯金局長						
前記ノ金額正ニ受領候也 大正二年四月十一日 古山哲二殿						

丙 支給期日經過後ノ受領手續 期月經過後ニ至リ給與金ノ拂渡ヲ受ケントスルニハ適宜ノ用紙ニ依リ給與金ノ種類、證書ノ記號番號、支給郵便局名並住所氏名等ヲ記載捺印シタル支給請求書ヲ作り最寄郵便局ヲ經由スルカ又ハ直接之ヲ郵便貯金局ニ送付スルノデス郵便貯金局デハ之ヲ調べテ支給シ差支ナキモノト認メタルトキハ受給者ニ其ノ旨ヲ通知シマス受給者其ノ通知書ヲ受ケタラバ甲ニ述ベタ通りノ手續ヲ現金ヲ受取ルノデス

丁 相續人ノ受領手續 受給者が死亡シタル場合ニ其ノ權利ヲ承繼スベキ家督相續人又ハ遺産相續人ハ受給者生存中受取ルベキ年金恩給等ノ給與金ヲ受取ラントスルトキハ受給者死亡當時ノ戶籍謄本ヲ支給郵便局ニ差出シ正當權利承繼者タルコトヲ證明シ甲ニ述ヘタ通りノ手續ニ依テ現金ヲ受取ルノデス尤モ同順位ノ遺産相續人が數人アルトキハ共同ニテ受取ルカ又ハ相互協議ノ上受領者ヲ定メテ受取ルノデス此ノトキハ他ノ遺産相續人ハ連署シテ受領者ヲ定メルコトヲ證明セネバナリマセン

一 振替預入ノ手續 振替預入ト申スルハ現金ヲ支拂ヲ爲サズシテ其ノ給與金ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入レル方法デアツテ之レニハ

一 支給期ニ郵便局ニテ現金ヲ受取ラズ貯金ニ振

替組入ルルモノト豫メ郵便貯金局ニ證書ノ保管ヲ託シ支給期毎ニ貯金ニ組入レテ貰フモノト

第一 ノ方法デハ支給期日ガ到來シマシタラバ前ニ述ベタ現金受領ノ際ニ於ケル甲ノ手續ニ依リ支給郵便局ニ年金又ハ恩給等ノ證書並ニ給與金受領證書ヲ差出シ郵便貯金通帳ヲ呈示シテ之ニ給與金額ノ書キ込ヲ受ルノデス

第二 ノ方法即チ繼續シテ振替預入ヲ望ム者ノ手續ハ郵便貯金通帳ノ記號番號年金又ハ恩給等ノ證書ノ種類及記號番號並請求ノ要旨ヲ記載シタル大要下記離形ノ請求書ヲ作り之ニ給與ニ關スル證書ヲ添ヘテ前ニ印鑑届ヲ差出シタル郵便局ノ窓口ニ差出スノデス郵便局デハ此等ノ書類ヲ調査シテ差支ナキモノト認メタルトキハ證書ニ對シテ受領證ヲ交付スルノデスソレカラ數日ヲ經ルト郵便貯金局カラ給與ニ關スル證書ノ保管ヲ證明スル爲メ保管證書ト云フ下記離形ノモノヲ受給者ニ送り届ケルノデス

支給期ニハ郵便貯金局カラ下記離形ノ振替預入通

知書ヲ送ツテ來マスカラ之ト郵便貯金通帳トヲ持テ例ノ支給郵便局ニ行クノデス

郵便局デハ其ノ貯金通帳ニ給與金額ヲ記入シテ受給者ニ交付スルノデス此方法ハ證書亡失盜難等ノ虞モナク又現金受領ノ面倒モナクシテ直チニ利殖セラレ且給與金ハ郵便貯金ノ例ニ依リ隨時何レノ郵便局ニテモ所要額ヲ受取ルコトヲ得至極便利安全ノ方法デアリマス

(振替預入請求書及保管證書離形ハ次頁ニアリ)

一 振替預入廢止ノ手續 證書ノ保管ヲ託シ繼續シテ貯金ニ組入レテ居ツタモノガ之ヲ廢止スルトキニハ先ヅ下段ニ記ス如キ離形ノ請求書ヲ作り之ト前ニ振替預入ヲ請求シタ當時郵便貯金局カラ送付テ受ケテ居ル保管證書トヲ最寄郵便局ヲ經由スルカ又ハ直接郵便貯金局ヘ送付スルモノデス郵便貯金局デハ其ノ請求書ヲ調査シテ差支ナイモノト認メタトキハ前ニ保管シテ置イタ年金證書又ハ恩給證書等ノ證書ヲ書留郵便ヲ以テ受給者ヘ返付致シマス

(振替預入廢止請求書離形ハ二二三二頁下段ニアリ)

振替預入請求書

貯金通帳  
記號番號 いにそ五〇八九

證書種類 文官遺族扶助料

證書記號番號 二八三四

右給與金ハ支給ノ都度拙者所持ニ係ル前記  
番號ノ貯金ニ振替預入相成度此段請求候也

大正二年四月二日

芝區三田君塚町  
十二番地

野村 敬介 ㊤

郵便貯金局

御中

保管證書

證書種類  
證書記號番號

一金

右給與金郵便貯金ニ振替預入ノ爲當該證書  
當局へ寄託ニ付正ニ保管候也

大正 年 月 日

郵便貯金局長  
殿

受給者原簿記號番號

振替預入開始期月大正 年 月 日

給與金振替預入通知書

原簿 記號	支給 期月	振替 預入 金額	貯金 通帳 記號 番號
原簿 番號	貯金 組入 月日	支給 局名	

拜啓豫テ寄託相成候證書ニ對スル左記  
給與金郵便貯金ニ振替預入致候條速ニ  
本書ニ貯金通帳ヲ添ヘ支給郵便局ニ差  
出シ通帳ニ振替預入金ノ記入ヲ受ケラ  
レ度候也

郵便貯金局

殿

振替預入廢止請求書

貯金通帳  
記號番號 いにそ五〇八九

證書種類 文官遺族扶助料

證書記號番號 二八三四

右給與金ノ振替預入ハ大正二年七月渡分ヨ  
リ廢止相成度此段請求候也

大正二年五月五日

芝區三田君塚町  
十二番地

野村 敬介 ㊤

郵便貯金局

御中

○年金恩給 政府官吏 通則 四、年金恩給等ノ受給者心得

二三四

一 支給郵便局變更ノ手續 轉居其ノ他種々ナル事情ノ爲ニ給與金ノ支給ヲ受ケル郵便局ノ變更ヲ望ムモノハ年金又ハ恩給等ノ證書ノ種類記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作り之ヲ新ニ支給ヲ受ケントスル郵便ニ差出セバ宜シイノテス該郵便局テハ之ヲ調査シ各種ノ手續ヲ爲シタル後支給郵便局ヲ變更シタル旨ノ通知書ヲ郵便テ受給者ニ送り届ケマス

一 改印ノ手續 受給者が前ニ届出チ爲シタル印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙(可成日本紙ヲ可トス)ニ住所氏名年金又ハ恩給等ノ證書ノ種類及記號番號ヲ書キ込ミ之レニ新シキ印章ヲ鮮明ニ押捺シタル上前ニ印鑑届ヲ差出シタル郵便局ニ提出スレハ宜シイノテス

一 改氏名ノ手續 是モ至極簡單デス唯年金又ハ恩給等ノ證書ト戸籍ノ謄本トヲ前ニ印鑑届ヲ提出シタル郵便局ニ差出セバ宜シイノテス斯クスレバ郵便貯金局長ハ其ノ證書ノ裏面ニ事實ヲ記載シテ署名捺印ノ上支給郵便局ヲ經由シテ受給者ニ送り届ケルノテス

一 代理受領ノ手續 若シ受給者が支給期ニ際シ事故ノ爲ニ自ラ支給郵便局ヘ現金ノ受領ニ行ク事ガ出来ヌ場合ニハ代人ヲシテ受取ラシムルコトガ出来

第二節 年金

【一】金鷄勳章年金令

明治二十七年九月勅令第一七三號

第一條 金鷄勳章ヲ賜フ者ニハ功級ニ應シ終身年金ヲ加賜ス

第二條 金鷄勳章年金ノ定額ハ左ノ如シ

- 功一級 千五百圓
- 功二級 千圓
- 功三級 七百圓
- 功四級 五百圓
- 功五級 三百圓
- 功六級 二百圓
- 功七級 百圓

第三條 本令ノ年金受領者死亡シタルトキハ仍一年間遺族ニ其年金ヲ賜フ

第四條 前條ノ遺族トハ寡婦孤兒父母及祖父母ニシテ年金受領者生存中ヨリ戸籍簿ニ登記シタル者並家督相續人及戸主ヲ云フ

第五條 本令ノ年金ハ他ノ勳章年金又ハ恩給ヲ受ケルニ妨ケナキモノトス

第六條 本令施行ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定

○年金恩給 政府官吏 年金 一、金鷄勳章年金令一

二三五

【二】勳章年金支給細則

明治二十七年二月勅令第九號

第一條 勳章年金ヲ賜フ者ニハ賞勳局總裁年金證書ヲ作り之ヲ授與スヘシ

第二條 賞勳局總裁年金證書ヲ授與シタルトキハ受領者ノ官職氏名、功級若クハ勳等、年金額、證書ノ番號、授與ノ年月日ヲ郵便貯金局ニ通知スヘシ

第三條 年金支給ノ初年ニ於テハ其ノ證書ノ日付六月二十日以前ニ在ルモノハ全額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ半額ヲ給ス

第四條 年金受領者死亡ノ年ニ於テハ其ノ六月三十日以前ニ在ルモノハ半額ヲ給シ七月以後ニ在ルモノハ全額ヲ給ス

第五條 年金ハ半額ヲ毎年六月十二月ノ兩回ニ支給ス

第五條 金鷄勳章年金令ニ依リ遺族ニ賜フ年金支給ノ期ハ年金受領者ノ死亡六月三十日以前ニ在ルモノハ七月一日ニ始マリ翌年六月三十日ヲ以テ終リ其ノ死亡七月一日以後ニ在ルモノハ翌年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ヲ以テ終ル

第六條、第七條、第八條(削除)

○年金恩給 政府官吏 年金 二、勳章年金支給細則

二二六

第九條 年金受領者死亡、離籍若クハ婚姻シ又ハ丁年ニ達シタル爲年金受領ノ資格ヲ失ヒタルトキハ遺族親戚又ハ本人ヨリ最寄郵便局ヲ經テ郵便貯金局ニ届出ヘシ

郵便局ニ於テ最終期ノ年金支給ノトキハ其ノ證書ヲ收メ郵便貯金局ヲ經テ之ヲ賞勳局ニ還納スヘシ金鵄勳章年金令ニ依リ年金ヲ繼受スヘキ遺族アルトキハ其ノ賜期滿限ノ後還納スルモノトス

第十條 遺族ニ年金ヲ賜フトキハ其ノ順序左ノ如シ一寡婦 二孤兒 三父 四母 五祖父 六祖母 七家督相續人又ハ戸主

孤兒數人アルトキハ家名相續人ニ賜フ其ノ他ハ男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニシ順次年長者ニ賜フ

第十一條 此ノ規則ニ於テ孤兒トハ年齡二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ

第十二條 年金ヲ繼受シタル者其ノ受領期日前ニ死亡シテ戸籍ヲ去リ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ年金ハ次ノ順位者ニ之ヲ賜フ年金ヲ繼受シタル寡婦再婚シタルトキ亦前項ニ同シ

第十三條 (削除)

第十四條 年金ヲ繼受セントスル遺族ハ受領者最終期ノ年金支給濟ノ後署名捺印シタル願書(孤兒ハ親權者又ハ後見人)

分明トナリタル後行方不明中ニ受取ルヘキ年金ヲ支給ス

地方長官ニ於テ年金受領者行方不明中年金ノ支給ヲ停止セラレヘキ所爲アリト認定スルトキハ其ノ旨ヲ賞勳局ニ申牒シ且年金ノ支給ヲ猶豫セシムル爲郵便貯金局ヘ通知スヘシ

第十九條 年金ノ支給ヲ廢止若ハ停止スヘキ場合ニハ其ノ支給額ハ各日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第二十條 水火災盜難等ニ依リ年金證書ヲ亡失シタルトキハ年金ノ種類、證書ノ番號、年金額及亡失ノ事由ヲ具シ年金支給郵便局ヲ經テ郵便貯金局ニ届出ヘシ

郵便貯金局前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ賞勳局ニ申牒スヘシ賞勳局總裁ハ新ニ年金證書ヲ作り其ノ裏面ニ再度授與ノ旨ヲ記載シ郵便貯金局ヲ經由シ年金支給郵便局ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但亡失シタル年金證書ヲ發見シタル時ハ直ニ年金支給郵便局ヲ經テ賞勳局ニ還納スヘシ

年金證書亡失ノ爲メ年金ヲ受取ルコト能ハサル者ニハ新ニ年金證書ヲ授與シタル次ノ年金支給期月ニ其ノ年金ヲ併セ支給ス

第二十一條 年金受領者氏名ヲ改メタルトキハ其ノ

○年金恩給 政府官吏 年金 二、勳章年金支給細則

二二七

人ヨリ願出テ又(警察官)ニ市區町村長(市制町村制ヲ施行セサル地者ハ保佐人ノ連署ヲ要ス)ニ市區町村長(方ニ於テハ區長戸長トス以下之ニ)ノ證印ヲ受ケ戸籍謄本及年金證書ヲ添附シ住所地ノ地方廳ニ差出スヘシ

地方長官前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ查察シ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

第十五條 賞勳局總裁ハ前條ノ願書ヲ審查シ許可スヘキモノト認メタルトキハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ住所地ノ地方廳ヲ經テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ郵便貯金局ニ通知スヘシ

第十六條 遺族間年金ヲ遞受セントスルトキモ亦前二條ノ例ニ依ル

第十七條 年金ノ支給ヲ廢止シ又ハ停止若ハ解除スヘキ場合ニ於テハ賞勳局ハ之ヲ郵便貯金局ニ通知シ郵便貯金局ハ之ヲ年金支給郵便局ニ通知スヘシ

第十七條ノ二 年金ノ支給ヲ停止セラレタルトキハ停止以前ノ年金ハ解除後ノ支給期日ニ之ヲ支給シ其ノ廢止セラレタルトキハ廢止以前ノ年金ハ支給期ニ拘ラス之ヲ支給ス

勳章褫奪令第四條但書及同第五條但書ニ該當スルトキハ遡リテ受ケヘキ年金ハ當期ノ年金ト同時ニ之ヲ支給ス

第十八條 年金受領者行方不明ノ場合ニハ其ノ所在届書ニ年金證書及戸籍謄本ヲ添ヘ年金支給郵便局ヲ經テ郵便貯金局ニ差出スヘシ

郵便貯金局長ハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ署名捺印ノ上年金支給郵便局ヲ經テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ賞勳局ニ通知スヘシ

(附錄) 年金繼受願

府(縣)郡(市)町(村)番地華士族平民

故官位功勳爵氏名寡婦

(孤兒)(父母)(祖父母)

功何級金鵄勳章年金證第何號

氏 名

何年何月生

歲額何百何圓

右ハ夫(父等)氏名何年何月何日死亡候ニ付金鵄勳章年金令第三條ニ依リ何年一月ヨリ同年十二月マテ(何年七月ヨリ何年六月マテ)一年間私拜受仕度別紙年金證竝戸籍謄本相添此段奉願候也

右寡婦(孤兒)父母(祖父母)

年 月 日 氏 名 印

賞勳局總裁爵氏名殿

(備考)遺族間年金遞受願書モ此ノ書式ニ準シテ作ルヘシ



第三節 文官恩給

甲 通 則

【一】官吏恩給法

明治二十三年六月  
法律第四三號

第一條 文官判任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受ケルノ權利ヲ有ス

第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス

一 年齡六十歳ヲ超エ退官ヲ許シタルトキ

二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ

三 廢官廢廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ

第三條 左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ヲ給ス

一 公務ニ因リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

三 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者若クハ退官後三箇年

第七條 在官年數ハ判任官以上初任ノ月ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス

明治四年八月以前ヨリ任官セラレタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ掲ケル者退官スルトキハ明治四年七月以前ノ勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第八條 左ニ掲ケル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ

一 判任以上出仕官ニ在ルノ月數

二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數

三 從軍年加算ノ年月

四 非職及休職中ノ月數

五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數

六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内判任官以上在官中ノ月數

第九條 左ニ掲ケル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 一、官吏恩給法

キ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

第四條 滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラズ恩給ヲ給ス

第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス

非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

實際官及領事貿易事務官等ノ恩給ハ其官等ニ對スル普通文官ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

兼官ニ依テ受ケル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

恩給年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷疾疾病引續キ重症ニ趨キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ査覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二箇年

算スヘシ

一 年齡二十歳未滿者ノ在官月數

二 高等官試補及判任官見習中ノ月數

三 郡區判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數

四 御用掛履等外出仕勤任ノ月數

五 第八條第二ニ掲ケル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數

六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ於テハ其前官ノ月數

第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス

第十一條 恩給ヲ受ケル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六

年以上ニ至ラサレハ増加セス

第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス

一 判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス

二 公權ヲ停止セラレタルトキ

第十三條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜

ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

法令ヲ以テ設立シタル議會ノ議員並市長町村長助役收入役名譽職參事會員東京市京都市大阪市北海道ノ區長沖繩縣區制ニ依ル區長及居留民團ノ民長助役會計役ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス

第十四條 郡區判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ

除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ナキモノトス

商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任

治十七年達官吏恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日ヨリ七箇年内ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二十一條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

從前ノ命令ニシテ此法律ニ牴觸スルモノハ總テ廢止ス

【二】官吏恩給法施行規則 明治二十三年七月 閣令第三號

第一章 恩給ノ請求

第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第

二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ

但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第三條 恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 在官中履歷書

二 市町村長ノ證明シタル戶籍調書

但官吏恩給法第十四條第二項ニ掲ケタル者ハ之ヲ添附スルニ及ハス

第四條 公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給

官見習ニシテ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限り退官又ハ罷免現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得

第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後七箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 恩給ノ支給ハ本屬長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ

裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷疾疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪フルト否ラサルト

第十八條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其實事ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ

一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書

二 醫師ノ診斷證書

第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ査覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 恩給ノ支給

第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三箇月分ヲ支給ス但權利消滅若クハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス

○年金恩給 政府官吏 文官恩給

二、官吏恩給法施行規則

二四二

恩給支給ニ關スル手續ハ逓信大臣ノ定ムル所ニ依

第八條、第九條(削除)

第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支

給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ  
一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣

告ヲ受ケタル日ニ在リテハ裁判確定ノ日

本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタ

ル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ

ハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ

終リ其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタ

ル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三 公權ヲ停止セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告

ヲ受ケタル日ニ在リテハ裁判確定ノ日

ヲ支給ヲ終リ刑ノ執行ヲ終リタル日ノ翌日又

ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ

支給ヲ始ム

第十一條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲ケル月俸ト

ハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當

時ノ官祿一箇月分ニ相當スル金額トス

第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲ケル最下金額十分

ハ俸給ノ支給ヲ始ムル日(解任ノトキハ支給ヲ終

リタル日)ヲ付記スヘシ

第十五條 恩給ヲ受クル者死去シタルトキハ其遺族

ヨリ最寄郵便局ヲ經テ郵便貯金局ニ届出ヘシ其遺

族ニシテ扶助料ヲ受ケヘキ權利ナキトキハ死去ノ

届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ返納スヘシ

第十六條 郵便貯金局ニ於テ第十三條若クハ第十四

條ノ通知又ハ第十五條ノ届出ヲ受ケタルトキハ之

ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ

死亡又ハ權利消滅ノ爲メ返納スヘキ恩給證書ハ地

方廳ニ於テ之ヲ收メ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第四章 雜則

第十七條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタ

ル者ハ恩給支給郵便局ヲ經テ郵便貯金局ニ届出ヘ

シ

郵便貯金局ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其

事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申

出ヘシ此場合ニ於テ恩給局ハ恩給證書ノ謄本ヲ作

リ郵便貯金局及恩給支給郵便局ヲ經テ本人ニ下付

スヘシ

前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ効力アル

モノトス

第十八條 恩給ヲ受クル者改氏名シタルトキハ其届

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 二、官吏恩給法施行規則

二四三

ノ七マテノ増加恩給ノ等差ハ左ノ如シ

第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルト

キ 十分ノ七

第二項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ

罹リタルトキ 十分ノ六

第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルト

キ 十分ノ五

第四項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ

罹リタルトキ 十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルト

キ 十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ

罹リタルトキ 十分ノ二

傷疾疾病ノ等差ハ明治十八年達文官傷疾疾病等差

例ニ依ル

第十三條 恩給ノ停止

セラレ又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ若クハ之ヲ

取消サレタルトキハ其確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル

裁判所ヨリ之ヲ郵便貯金局ニ通知スヘシ

第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル

者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ郵便貯金局ニ

通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニ

書ニ恩給證書及月籍謄本ヲ添ヘ恩給支給郵便局ヲ

經テ郵便貯金局ニ届出ヘシ郵便貯金局ハ恩給證書

ノ裏面ニ其實事ヲ記載シ局長署名捺印ノ上恩給支

給郵便局ヲ經テ本人ニ下付シ其旨ヲ内閣恩給局ニ

通知スヘシ

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受

クル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名シタルトキ

第二十條 官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求ス

ル者ハ本則ニ依ルヘシ

(備考) 恩給請求書ハ別ニ一定ノ書式ナシ故ニ大

要左記ノ文體ニテ認ムレハ可ナリ

恩給請求書

元何官 何 某

右ハ今般疾病職務ニ不堪又ハ何々ノ故ヲ以テ依願免

官相成候處在官滿(何)年ニ付制規ノ恩給下賜リ度別

紙在官中ノ履歴書及月籍謄本(又ハ何書類)相添ヘ此

段及請求候也

年 月 日 住所 右 何 某

本屬長官宛

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 二、官吏恩給法施行規則

二四三

【三】文官傷疾疾病等差例

明治一八年三月 太政官達第一六號

一公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナリ官吏恩給令附則第五條(現行施行規則第十二條)ニ掲グル各項ニ該當スル者ニ等差ヲ付スルコト概ネ左ノ如シ

- 第一條 偏眼ヲ盲スル者全鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五項トシ之ニ偏耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ第四項トス
- 第二條 兩耳ヲ聾スル者ハ第四項トス
- 第三條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス
- 第四條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼昏昧シ僅ニ自己ノ用ヲ辨スルヲ得ル者ハ第二項トス
- 第五條 咀嚼言語ノ兩機ヲ併セ廢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス
- 第六條 咀嚼ノ用ヲ廢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トシ幾分ノ障礙アル者ハ第五項其輕キ者ハ第六項トス
- 第七條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要スル者ハ第一項トス
- 第八條 癡呆若クハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第三項若クハ第五項トス

トシ五指癒着若クハ強硬等ノ爲メニ把握ヲ捕ノ用ヲ廢スル者ハ第五項トス

- 第二十條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモ尙把握ノ用ヲ爲シ得ル者ハ第六項トス
- 第二十一條 一手ニ於テ拇指指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十二條 一下肢ヲ失スル者ハ股關節ヨリ踝關節ニ至ルノ間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス
- 第二十三條 股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ノ作用ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第二十四條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス
- 第二十五條 一足ニ於テ五指ヲ失スル者ハ第五項トシ第一指ヲ併セ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十六條 不治病ノ爲メ常ニ看護ヲ要スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス
- 第二十七條 不治病前項ヨリ輕キモ歩行スル能ハサル者ハ第三項トス
- 第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 四、恩給年額計算表

- 第九條 神經痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十條 言語ノ機能ヲ廢スル者ハ第三項トシ言語ノ機能ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十一條 胃腸膀胱等ニ瘻管ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス
- 第十二條 腸歇爾尼亞ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十三條 陰莖或ハ睪丸ヲ全失スル者ハ第三項トス
- 第十四條 陰莖ヲ半失スル者偏睪丸ヲ失スル者ハ共ニ第六項トス
- 第十五條 頸項背腰諸筋ノ運用ヲ妨グル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十六條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ用ヲ全廢スル者ハ第一項トス
- 第十七條 一上肢ヲ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス
- 第十八條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ノ關節作用ヲ廢スルモ全肢ノ用ヲ廢スルニ至ラサル者ハ第六項トス
- 第十九條 一手ニ於テ四指以上ヲ失スル者ハ第四項トス

得アル者ハ第四項トス

- 第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ第五項トス
- 第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアル者ハ第六項トス

【四】恩給年額計算表

一本表ハ恩給年額ヲ算出シタルモノニシテ假令ハ俸給年額百二十圓ヲ受クル者ハ在職滿十五年ニテ退職スルトキハ俸給年額二百四十分ノ六十乃チ三十圓ノ恩給ヲ受ケ滿十六年ナレハ三十一圓ヲ受クルカ如シ他ハ皆之ニ倣フヘシ但シ本表俸給年額ニ該當セサル俸給ヲ受クル者ハ其ノ年額ハ勤続年數ニ依リ相當率(假令ハ十五年ナレハ「六十」ナ十六年ナレハ六十一)ヲ乘シ更ニ二百四十ヲ以テ除スルトキハ恩給年額ヲ算出シ得ヘシ尙增加恩給ヲ受クヘキ場合ハ更ニ其ノ增加率ヲ乘シテ算出スルモノトス又國務大臣ハ五年ノ勤續ヲ以テ恩給ヲ受クルカ故ニ十五年ノ欄ヲ五年ニ十六年ノ欄ヲ六年ニ當箱メ以下順次之ニ倣ヒテ計算スヘシ

恩給年額計算表





○年金恩給 政府官吏 文官恩給 四、恩給年額計算表

分之二百年 年俸	年	圓
七五	三〇	一五〇
七四	二九	一四八
七三	二八	一四六
七二	二七	一四四
七一	二六	一四二
七〇	二五	一四〇
六九	二四	一三八
六八	二三	一三六
六七	二二	一三四
六六	二一	一三二
六五	二〇	一三〇
六四	一九	一二八
六三	一八	一二六
六二	一七	一二四
六一	一六	一二三
六〇	一五	一二〇

分之二百年 年俸	年	圓
七六	三三	一五二
七七	三二	一五四
七八	三一	一五六
七九	三〇	一五八
八〇	二九	一六〇
八一	二八	一六二
八二	二七	一六四
八三	二六	一六六
八四	二五	一六八
八五	二四	一七〇

二五〇

分之二百年 年俸	年	圓
六五	二〇	一七九
六六	二一	一八二
六七	二二	一八五
六八	二三	一八七
六九	二四	一九〇
七〇	二五	一九三
七一	二六	一九六
七二	二七	一九八
七三	二八	一九九
七四	二九	二〇〇
七五	三〇	二〇一
七六	三一	二〇二
七七	三二	二〇三
七八	三三	二〇四
七九	三四	二〇五
八〇	三五	二〇六
八一	三六	二〇七
八二	三七	二〇八
八三	三八	二〇九
八四	三九	二一〇
八五	四〇	二一一

分之二百年 年俸	年	圓
六〇	一五	二二五
六一	一六	二二九
六二	一七	二三三
六三	一八	二三七
六四	一九	二四〇
六五	二〇	二四四
六六	二一	二四八
六七	二二	二五二
六八	二三	二五五
六九	二四	二五九
七〇	二五	二六三
七一	二六	二六七
七二	二七	二七〇
七三	二八	二七三
七四	二九	二七六
七五	三〇	二七九
七六	三一	二八二
七七	三二	二八五
七八	三三	二八八
七九	三四	二九一
八〇	三五	二九四
八一	三六	二九七
八二	三七	三〇〇
八三	三八	三〇三
八四	三九	三〇六
八五	四〇	三〇九

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 四、恩給年額計算表

二五一





○年金恩給 政府官吏 文官恩給 四、恩給年額計算表

二五四

分之二	百	年	俸	數
六〇	一五	八〇〇	八七五	九二五
六一	一六	八一四	八九〇	九四一
六二	一七	八二七	九〇五	九五六
六三	一八	八四〇	九一九	九七二
六四	一九	八五四	九三四	九八七
六五	二〇	八六七	九四八	一、〇〇三
六六	二一	八八〇	九六三	一、〇一八
六七	二二	八九四	九七八	一、〇三三
六八	二三	九〇七	九九二	一、〇四九
六九	二四	九二〇	一、〇〇七	一、〇六四
七〇	二五	九三四	一、〇二一	一、〇八〇
七一	二六	九四七	一、〇三六	一、〇九五
七二	二七	九六〇	一、〇五〇	一、一〇〇
七三	二八	九七四	一、〇六五	一、一〇六
七四	二九	九八七	一、〇八〇	一、一四一
七五	三〇	一、〇〇〇	一、〇九四	一、一五七

分之二	百	年	俸	數
六〇	一五	一、二五〇	一、三三五	一、三三三
六一	一六	一、二七一	一、三九八	一、三三五
六二	一七	一、二九二	一、四二二	一、三五〇
六三	一八	一、三三三	一、四四四	一、三五〇
六四	一九	一、三三四	一、四六七	一、三三三
六五	二〇	一、三三三	一、四六七	一、三三三
六六	二一	一、三三三	一、四六七	一、三三三
六七	二二	一、三三三	一、四六七	一、三三三
六八	二三	一、三三三	一、四六七	一、三三三
六九	二四	一、三三三	一、四六七	一、三三三
七〇	二五	一、三三三	一、四六七	一、三三三
七一	二六	一、三三三	一、四六七	一、三三三
七二	二七	一、三三三	一、四六七	一、三三三
七三	二八	一、三三三	一、四六七	一、三三三
七四	二九	一、三三三	一、四六七	一、三三三
七五	三〇	一、三三三	一、四六七	一、三三三

分之二	百	年	俸	數
六五	二〇	一、三五五	一、四九〇	一、六二五
六六	二一	一、三七五	一、五二三	一、六五〇
六七	二二	一、三九六	一、五三六	一、六七五
六八	二三	一、四一七	一、五五九	一、七〇〇
六九	二四	一、四三八	一、五八二	一、七二五
七〇	二五	一、四五九	一、六〇五	一、七五〇
七一	二六	一、四八〇	一、六二八	一、七七五
七二	二七	一、五〇〇	一、六五〇	一、八〇〇
七三	二八	一、五二一	一、六七三	一、八二五
七四	二九	一、五四二	一、六九六	一、八五〇
七五	三〇	一、五六三	一、七一九	一、八七五
七六	三一	一、五八四	一、七四二	一、九〇〇
七七	三二	一、六〇五	一、七六五	一、九二五
七八	三三	一、六二五	一、七八八	一九五〇
七九	三四	一、六四六	一、八一	一九七五
八〇	三五	一、六六七	一、八三四	二、〇〇〇
八一	三六	一、六八八	一、八五七	二、〇二五
八二	三七	一、七〇九	一、八八〇	二、〇五〇

分之二	百	年	俸	數
八三	三八	一、七三〇	一、九〇三	二、〇七五
八四	三九	一、七五〇	一、九二五	二、一〇〇
八五	四〇	一、七七一	一、九四八	二、一二五
八六	四一	一、七九二	一九九二	二、一五〇
八七	四二	一、八一三	一、九一五	二、一七五
八八	四三	一、八三三	一九九八	二、二〇〇
八九	四四	一、八五三	二、〇〇〇	二、二二五
九〇	四五	一、八七三	二、〇〇〇	二、二五〇
九一	四六	一、八九三	二、〇〇〇	二、二七五
九二	四七	一、九一三	二、〇〇〇	二、三〇〇
九三	四八	一九三三	二、〇〇〇	二、三二五
九四	四九	一九五三	二、〇〇〇	二、三五〇
九五	五〇	一九七三	二、〇〇〇	二、三二五
九六	五一	一九九三	二、〇〇〇	二、三五〇
九七	五二	二〇一三	二、〇〇〇	二、三二五
九八	五三	二〇三三	二、〇〇〇	二、三五〇
九九	五四	二〇五三	二、〇〇〇	二、三二五
一〇〇	五五	二〇七三	二、〇〇〇	二、三五〇

【五】官吏遺族扶助法

明治三十二年六月 法律第四四號

第一條 文官判任以上ノ者左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ遺族ハ此ノ法律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス但シ第二條ノ納金チナスヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此ノ限ニ在ラス

一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ

二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ

三 恩給ヲ受クル者死去シタルトキ

第二條 文官判任以上ノ者ハ其ノ俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ

第三條 實際官及領事貿易事務官等其ノ俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルトキハ現ニ受クル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ納金チ爲スヘシ

郡判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏チ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 五、官吏遺族扶助法 二五五

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 五、官吏遺族扶助法

一五六

へキ官吏ハ第二條ノ納金ヲ要セス  
 第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若ハ受ク  
 へキ恩給年額三分ノ一トス  
 公務ノ爲メ受ケタル傷疾ニ原因シテ死去シ又ハ非  
 常ノ勞働及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死  
 去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病ニ感染  
 シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若ハ公務旅行中流行病  
 ニ罹リ死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ  
 對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出タル恩給年額三  
 分ノ二トス  
 扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム  
 第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受ケル寡婦死去  
 シ若ハ權利消滅シタルトキハ其ノ扶助料ヲ孤兒ニ  
 給ス  
 第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ  
 給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其  
 ノ繼襲者及長子死去シ若ハ權利消滅シ若ハ支給期  
 限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス  
 但シ家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後  
 ニス  
 第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其ノ夫退官  
 後結婚タシル者ハ扶助料ヲ受ケルコトヲ得ス  
 第八條 此ノ法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ

男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但シ養男女  
 子ハ家名繼襲者ニ限ル  
 第九條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル年ノ  
 翌月ヨリ之ヲ給ス  
 第十條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若ハ扶助  
 料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若ハ死去シ若  
 ハ權利消滅シタルトキ又ハ祖父母アルトキハ  
 寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其ノ父母又ハ祖父  
 母ニ終身給スルコトヲ得  
 其ノ扶助料ハ先ツ父ニ給シ其ノ父存在セザルトキ  
 若ハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ  
 祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此ノ例ニ依ル  
 第十一條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父  
 母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニアル二十歳未  
 滿又ハ癱疾若ハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサ  
 ル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦  
 ニ相當スル扶助料一箇年分ヨリ少カラズ五箇年分  
 ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラズ一時限リ其  
 ノ兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得  
 第十二條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日  
 ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ其ノ權利ヲ拋棄シタ  
 ルモノトス  
 第十三條 扶助料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得

ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス  
 第十四條 扶助料ヲ受ケルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅  
 ス  
 一 寡婦死去又ハ婚嫁シ若ハ戸籍ヲ去リタル月ノ  
 翌月  
 二 孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ  
 又ハ年齢二十歳ニ滿チタル月ノ翌月  
 三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌  
 月  
 第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ癱疾若ハ不具ニシ  
 テ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキトキ  
 ハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其ノ孤兒ニ各終身給ス  
 ルコトヲ得但シ一戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ  
 受ケル者アルトキハ其ノ間之ヲ給セス  
 第十六條 扶助料ヲ受ケル者日本臣民タルノ分限ヲ  
 失ヒ若ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ扶助料ノ  
 支給ヲ廢ス  
 公權ヲ停止セラレタルトキハ其ノ間支給ヲ停止ス  
 扶助料ヲ受ケル者公權停止中ハ其ノ轉給ヲ受クヘ  
 キ者ニ之ヲ給ス  
 第十七條 在官十五年未滿ノ者在官中公務ノ故ニア  
 ラスシテ死去シタルトキハ其ノ遺族ニ一時扶助金  
 ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在  
 官年數ニ乘シタル額トス但シ一年未滿ノ在官月數  
 ハ計算セス  
 第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩  
 給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス  
 行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ障害セ  
 ラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シ  
 テ裁決ヲ請フコトヲ得其ノ裁決ニ服セサル者ハ一  
 箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
 第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ  
 受ケタル者及恩給ヲ受ケタル者ノ遺族扶助料ハ總  
 テ其ノ恩給令ニ依ルヘシ但シ其ノ權利消滅及停止  
 ハ此ノ法律ニ依ル

【六】官吏遺族扶助法施行規則 明治二十三年七月  
 關令第四號

第一章 扶助料ノ請求  
 第一條 官吏遺族扶助法第一條第一第二及第十七條  
 ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ヨリ死者ノ履歷書  
 ヲ其ノ遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料又  
 ハ一時扶助金請求ノ證ト爲スヘシ  
 第二條 官吏遺族扶助法第一條第三ニ當ル者ノ遺族  
 ハ其ノ恩給證書ヲ以テ扶助額請求ノ證ト爲スヘシ  
 第三條 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリ

○年恩給 政府官吏 文官恩給

六、官吏遺族扶助法施行規則

二五八

タルトキハ本屬職ニ於テ事實ヲ查覈シ其ノ傷痍若  
ハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及  
醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其ノ診斷  
書ヲ併セテ其ノ遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ  
扶助料請求ノ證據ト爲スヘシ

第四條 扶助料ヲ受クル者死去シ若ハ權利消滅シ若  
ハ支給期限ノ滿チタルトキ其ノ扶助料ノ轉給ヲ請  
フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ以テ請求ノ證據ト爲スヘシ

第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者  
ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ以テ請求ノ證據ト爲スヘシ

第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル  
者ハ其ノ事由ヲ詳記シ癡疾不具ニシテ産業ヲ營ム  
コトハ能サル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請  
求スヘシ

第七條 官吏遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者  
ハ其ノ請求書ニ戶籍謄本及第一條乃至第六條ニ掲  
クル書類ヲ添ヘ住所ノ地方長官ニ差出スヘシ

第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ查覈ノ  
上扶助料年額ノ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣  
總理大臣ニ差出スヘシ

内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作  
リ地方廳チシテ之ヲ本人ニ下付セシム但シ一時ノ  
支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

第十五條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ  
請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ同令ニ依リ扶助料ヲ  
受クル者ハ左ノ場合ニ於テ本則ニ依ル

一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ

(備考) 遺族扶助料請求書ハ別ニ一定ノ書式ナシ  
故ニ大要左記ノ文體ニテ認ムレハ可ナリ

遺族扶助料請求書(本人カ恩給ヲ受ケタル後)

元何官 何 某

右者別紙恩給證書ノ通り恩給下賜相成居候處何年  
何月何日死去致候ニ付私ニ對シ制規ノ扶助料下賜  
度別紙恩給證書及戶籍謄本相添ヘ此段及請求候也

年月日

住所 右何某寡婦(又ハ)何 某印

地方長官宛

遺族扶助料請求書(本人カ恩給ヲ受ケタル後)

元何官 何 某

右者別紙扶助料證書ノ通り扶助料下賜相成候處何  
年何月何日死去致候ニ付私ニ對シ制規ノ扶助料下  
賜度別紙扶助料證書及戶籍謄本(又ハ何書類)相添  
ヘ此段及請求候也

年月日

住所 右何某何々 何 某

後見人 何 某印

地方長官宛

遺族扶助料請求書(扶助料受賜者死去シタル場合)

元何官何某 寡婦 何 某

右ハ別紙扶助料證書ノ通り扶助料下賜相成候處何  
年何月何日死去致候ニ付私ニ對シ制規ノ扶助料下  
賜度別紙扶助料證書及戶籍謄本(又ハ何書類)相添  
ヘ此段及請求候也

年月日

住所 右何某何々 何 某

後見人 何 某印

地方長官宛

遺族扶助料請求書(本人カ恩給ヲ受ケタル後)

元何官 何 某

右者何年何月何日死去致候處在官滿何年以上ニ相  
成居候ニ付私ニ對シ制規ノ扶助料下賜度本人在官  
中ノ履歷書及戶籍謄本(又ハ何書類)相添ヘ此段及

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 七、恩給扶助料年額計算書式

二五九

扶助料證書若ハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ  
其ノ旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ  
(第二章第九條)削除

第三章 扶助料ノ支給及停止

第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條  
第八條第九條及第十條第一第三ノ例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若ハ權利消滅シ  
若ハ支給期限ノ滿チタルトキハ郵便貯金局ニ於テ  
扶助料ノ支給ヲ廢シ其ノ旨ヲ内閣恩給局ニ通知ス  
ヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受タヘキ者ナキ  
トキハ地方廳ニ於テ其ノ扶助料證書ヲ收メテ内閣  
恩給局ニ送付スヘシ

第十二條 官吏恩給法施行規則第十三條及第十五條  
ハ扶助料ヲ受クル者ニ之ヲ準用ス

第十三條 郵便貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ  
受ケタルトキハ官吏恩給法施行規則第十六條ノ例  
ニ依ル

第十四條 水火炎盜難等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シ  
タルトキ及扶助料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルト  
キハ官吏恩給法施行規則第十七條及第十八條ノ例  
ニ依ル

雜則

請求候也

年月日

住所 右何某寡婦(又ハ)何 某印

地方長官宛

遺族扶助料請求書(扶助料受賜者死去シタル場合)

元何官何某 寡婦 何 某

右ハ別紙扶助料證書ノ通り扶助料下賜相成候處何  
年何月何日死去致候ニ付私ニ對シ制規ノ扶助料下  
賜度別紙扶助料證書及戶籍謄本(又ハ何書類)相添  
ヘ此段及請求候也

年月日

住所 右何某何々 何 某

後見人 何 某印

地方長官宛

遺族扶助料請求書(扶助料受賜者死去シタル場合)

元何官何某 寡婦 何 某

右者何年何月何日死去致候處在官滿何年以上ニ相  
成居候ニ付私ニ對シ制規ノ扶助料下賜度本人在官  
中ノ履歷書及戶籍謄本(又ハ何書類)相添ヘ此段及

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 七、恩給扶助料年額計算書式

二五九

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 七、恩給扶助料年額計算書式

二六〇

一官吏恩給施行規則第五條及官吏遺族扶助法施行規則第八條ニ依リ差出スヘキ在官年數及恩給扶助料ノ年額計算書ハ左ノ書式ニ準據スヘシ

但明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給及扶助料ヲ請求スル者ノ計算書ハ明治十八年達官吏恩給令附則第三書式ニ依ルヘシ

第一書式

在官年數及恩給年額計算書		元官名	氏	名
		位勳爵	氏	何年何月生
				大正何年何月 何年何箇月
明治四年	八月一日	七月以前ヨリ勤續官		
同何年	何月何日	任何官		
同何年	何月何日	何々ニ依リ退官		
同何年	何月何日			
同何年	何月何日	官吏恩給法第九條第一乃至第五ニ當リタル事由ヲ記載ス	除算	
同何年	何月何日	任何官		
同何年	何月何日	任何官		
同何年	何月何日	(非職)		
同何年	何月何日	何々ニ依リ退官		
			何年何箇月	
			除算	
			計	何年何箇月

從軍年

同何年	何月何日	内國何港出發	(外國戰役ノ例) 加算	何年
同何年	何月何日	内國何港歸着	何々從軍	何年
同何年	何月何日	戰地ニ歸ミ	加算	何年
同何年	何月何日	戰地ヲ退ク	何々從軍	何年
			計	何年何箇月

通計何年退官現時俸年額金何圓ノ二百四十分ノ若干  
 恩給年額金何圓  
 傷癘(疾病)第何項恩給最下金額何圓ノ十分ノ若干  
 增加恩給年額金何圓

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

大正何年何月

(取調主任) 官 氏 名 印

(恩給年額ト増加恩給年額トチ合セタル金額ノ四分ノ一)  
 金何圓何拾何錢  
 大正何年何月ノ給額金何圓何拾何錢(給額期)

交際官及領事貿易事務官等ハ恩給年額ノ肩書俸給ノ上ニ(勅任(奏任)(判任)何等ニ對スル普通文官ノ)文字ヲ加フヘシ第二第四書式モ亦同シ  
 (非職)滿期退官ノ者ハ恩給年額ノ肩書通計何年ノ下(退官現時)ヲ在職最終ト記スヘシ第二書式モ亦同シ  
 扶助料年額計算書ヘ添付ノトキハ年數計算ノ末欄及通計何年ノ下(退官)ノ文字ヲ死去ト記シ増加恩給及每期給額等ハ記載スルニ及ハス

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 七、恩給扶助料年額計算書式

二六一

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 七、恩給扶助料年額計算書式

二六二

第二書式 恩給ヲ受ケタル後再ヒ恩給ヲ請求シタル者ニ用ユ

在官年數及恩給年額計算書

元官名 位勳爵 氏 何年何月生 大正何年何月 何年何月

年月日任免ノ書式ハ  
第一書式ニ依ル

何年何箇月  
(此年月ハ官更恩給法ニ依リ  
過算シタル年月數ヲ除ク)

計 何年何箇月

右退官ノ節受ケタル恩給年額金何圓

年月日任免ノ書式ハ  
第一書式ニ依ル

何年何箇月

計 何年何箇月

通計何年退官現時俸給年額金何圓ノ二百四十分ノ  
若干

每期給額

金何圓何拾何錢

恩給年額金何圓

前ノ恩給年額ニ比較シ金何圓増

大正何年何月ノ給額金何圓何拾何錢(初期給額)

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

大正何年何月

(取調主任) 官 氏 名印

第三書式

恩給ヲ受ケタル者死去ノ後扶助料ヲ請求シタル者ニ用ユ

扶助料年額計算書

元官名 故位勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母) 氏 何年何月生 大正何年何月 何年何箇月

恩給年額金何圓ノ三分ノ一(二)

扶助料年額金何圓

每期給額

大正何年何月ノ給額金何圓何拾何錢(初期給額)

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

大正何年何月

(取調主任) 官 氏 名印

恩給ヲ受クヘキ資格ヲ有シテ死去シタル者ノ遺族ヨリ扶助料ヲ請求シタルトキハ此計算書ノ外第一若クハ第二書式ノ計算書ヲ添付スヘシ

扶助料ノ轉給ヲ請求シタル者ニハ此計算書中恩給年額ノ一行ハ記載スルニ及ハス

第四書式

一時扶助金計算書

故官位勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母) 氏 名

故氏名在官年數

年月日任免ノ書式ハ第一書式ニ依ル

大正何年 何月 何日 死

何年何箇月

計何年何箇月

在職最終俸給年額金何圓ノ百分ノ一金何圓何拾何錢ヲ在官年數ニ乘シタル額  
金何圓何拾何錢

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

大正何年何月

(取調主任) 官 氏 名印

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 七、恩給扶助料年額計算書式

二六三

第五書式

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 七、恩給扶助料年額計算書式

二六四

明治四年七月以前ニ係ル在官  
年數及恩給計算書

元官名  
位勳爵 氏 名

明治何年	何月	何日	任	何	官
同何年	何月	何日	任	何	官
同四年	七月	三十日	(任)	何	官

何年何箇月

明治四年七月現官等ノ官祿一箇月分

米 何 石

但明治四年六月東京淺草米廩平均相場  
一石ニ付金五圓九拾六錢六厘六毛

此金何圓何拾何錢何厘

右代金ノ半額金何圓何拾何錢何厘ヲ在官何年ニ乘シタル額

金何圓何拾何錢何厘

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

大正何年何月

(取調主任) 官 氏 名 印

(參照) 明治十八年達官吏恩給令附則第三書式

恩 給 計 算 書

官 氏 名

何年何月生 大正何年何月 何年何箇月

何年	何月	何日	任	何	官
何年	何月	何日	退	何	官
何年	何月	何日	任	何	官
何年	何月	何日	任	何	官
何年	何月	何日	任	何	官
何年	何月	何日	退	何	官
何年	何月	何日	任	何	官
何年	何月	何日	任	何	官
何年	何月	何日	任	何	官
何年	何月	何日	退	何	官

何年何箇月

何年何箇月

通計何年何箇月

滿何年(前官)(現官)俸給貳百四拾分ノ若干  
此年 額 若干圓

大正何年何月

何官廳  
取調主任 官 氏 名 印

【八】官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

明治二十九年三月  
法律第三六號

第一條 地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長ノ在官  
月數ハ官吏ノ恩給及遺族扶助ニ關スル在官年數中  
ニ算入ス

第二條 明治二十三年七月一日以後ニ退官シタル文

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 八、官吏恩給及扶助法補則

二六五

官判任以上ノ者ニシテ地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長在官中ノ月數ヲ除算シ恩給ヲ受ケ若ハ之カ爲恩給ヲ受ケサリシ者ニハ其ノ月數ヲ算入シ恩給ヲ増加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得

第三條 第二條ニ相當スル者在官中又ハ退官ノ後死去シ其ノ遺族ニシテ扶助料若ハ一時扶助金ヲ受ケルハ之ヲ受ケサリシ者ニハ第一條ニ依リ算定シタ

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 九、理事ノ恩給及扶助

二六六

ル恩給年額若ハ在官年數ニ依リ其ノ扶助料若ハ一時扶助金ヲ増加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得

第四條 第二條、第三條ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ方法ニ依リ最後ニ受ケタル退官賜金又ハ一時扶助金ノ一部ヲ返納セシム

新ニ受クヘキ恩給又ハ扶助料年額ニ其ノ退官又ハ死去以後新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル日ニ至ルマテノ年數ヲ乘シ月數ハ其ノ月割額ヲ加ヘ退官賜金一時扶助金ヲ其ノ總額ニ對照シ若シ超過アルトキハ其ノ超過額ヲ新ニ受クヘキ恩給又ハ扶助料中ヨリ控除ス

第五條 恩給ヲ受クル者郡判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ニ任用セラレタルトキハ其ノ間恩給ヲ停止ス

第六條 第二條、第三條ニ依リ給スル恩給及扶助料ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ起算シテ之ヲ給ス

第七條 第二條、第三條ニ依リ受クヘキ恩給、扶助料又ハ一時扶助金ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年内ニ請求セサレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第八條 此ノ法律ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

【九】理事ノ恩給及遺族扶助ニ關スル件

明治三九年二月 法律第三號

第一條 行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタルトスル者恩給局ノ裁決ヲ請ハントスルトキハ其事由ヲ文書ニ認メ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ之ニ證據書類ヲ添ヘ内閣恩給局長ニ差出スヘシ

前項ノ書類ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

第二條 恩給局ニ於テ前條ノ申立理由アリト認ムルトキハ其書類ヲ當該官廳ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辭書ヲ添ヘテ之ヲ恩給局ニ差出サシムヘシ

第三條 恩給局ニ於テ必要ト認ムルトキハ請求者又ハ當該官廳ノ官吏ヲ召喚シ口頭陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 恩給局ニ於テ裁決シタルトキハ裁決書ニ通テ作リ請求者及當該官廳ニ交付スヘシ

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 乙

朝鮮臺灣樺太關東洲

二六七

一理事豫備トナリ若ハ退職トナリタルトキハ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ニ於テ退官者ト同視シ其ノ豫備ニ在ル者戰時若ハ事變ニ際シ現職ニ復シタルトキハ再ヒ任官シタルモノト同視ス

【一〇】貴族院及衆議院速記技手在官年數ニ關スル件 明治四四年三月 法律第六七號

一明治三十年勅令第三百四十九號及同年勅令第三百五十號施行前ヨリ貴族院又ハ衆議院ノ速記ニ從事シ同令ニ依リ貴族院速記技手又ハ衆議院速記技手ニ任用セラレ本法施行ノ際迄勤續スル者ハ其ノ任用前ノ勤務年數ヲ官吏恩給法及官吏遺族扶助料法ノ在官年數ニ算入ス

【一一】恩給ヲ受クル者ニ召集中手當ヲ支給スルノ件 明治三八年六月 勅令第一七九號

一政府ヨリ恩給ヲ受クル者戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレ恩給ヲ停止セラレタル場合ニ於テ其ノ俸給ノ額恩給ノ額ヨリ寡少ナルトキハ手當トシテ其ノ不足額ヲ支給ス

【一二】行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ノ權利ニ關スル恩給局裁決手續

明治三四年六月 法律第七五號

乙 朝鮮臺灣樺太關東洲

【一】臺灣又ハ樺太ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件

明治三三年三月 法律第七五號

第一條 臺灣又ハ樺太ニ在勤スル文官判任以上ノ者ニシテ三箇年以上引續キ在職シタル者ニハ官吏恩給法並官吏遺族扶助法ノ在官年數計算ニ於テ其ノ在職一箇月ニ對シ半箇月ヲ加算ス但從軍年ノ加算アル場合ハ此限ニ在ラス

前項ニ依リ加算シタル年月數ハ軍人恩給法ニ於テ文官服務中ノ日數中ニ算入ス

第一項ノ加算ハ臺灣又ハ樺太ニ到着シタル日ニ始マル

第二條 臺灣ニ在勤スル文官判任以上ノ者ニシテ三箇年以上引續キ在職シタル者臺灣ニ於テ風土病又ハ流行病ニ罹リ官吏恩給法第三條第二號ニ準スヘキ者ニハ恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ疾病ニ罹リ之方爲退官シタル後重症ニ趨キタルトキハ官吏恩給法第六條ノ規定ニ準シ相當ノ恩給ヲ給ス

第三條 臺灣ニ在勤スル文官判任以上ノ者臺灣ニ於

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 乙

テ風土病又ハ流行病ニ罹リ在官中死去シタルトキ又ハ之カ爲退官シタル後其疾病ノ爲死去シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ官吏遺族扶助料ノ規定ニ依リ其ノ遺族ニ扶助料ヲ給ス

一 第一條ノ在職三箇年未満ナルトキハ十五箇年在官シタル者ト同視シ其ノ受クヘキ恩給年額ノ三分ノ一

二 第一條在職三箇年以上ナルトキハ其ノ受クヘキ恩給年額ノ三分ノ二

第四條 前二條ノ風土病及流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第五條 本法ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ臺灣ニ在勤スル者ニ關シテハ本法施行前ヨリノ在職年月數ニモ之ヲ適用ス

一 本法ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ樺太ニ在勤スル者ニ關シテハ本法施行前ヨリノ在職年月數ニモ之ヲ適用ス(明治三十九年四月法律第二二號)

【二】朝鮮總督府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件

一 明治三十三年法律第七十五號第一條ノ規定ハ別ニ適用ス(附則)

朝鮮臺灣樺太關東洲

勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外朝鮮總督府及關東都督府並其ノ所屬官署ニ在勤スル内地人タル判任以上ノ官吏ニ之ヲ適用ス

一 本法ノ規定ハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年二月以降、關東都督府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年九月以降ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス(附則)

一 統監府及其ノ所屬官署並鐵道院韓國鐵道管理局及朝鮮鐵道管理局ニ於ケル在職ハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル在職ト看做ス(明治四十四年三月法律第六五號)

一 明治四十年法律第四十八號ハ政府ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル官吏ニ之ヲ適用セス(明治四〇年五月勅令第一八八號)

【三】韓國在勤鐵道院所屬官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件

一 明治三十三年法律第七十五號第一條ノ規定ハ韓國ニ在勤スル鐵道院所屬判任以上ノ官吏ニ之ヲ適用ス

一 本法ハ明治四十三年一月以降ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス(附則)

【四】明治三十三年法律第七十五號準用ノ件

明治四十四年三月法律第六二號

一 明治三十三年法律第七十五號第一條ノ規定ハ朝鮮ニ在勤スル内地人タル陸海軍所屬ノ文官判任以上ノ者ニ之ヲ適用ス

一 本法ハ本法施行前ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス(附則)

【五】朝鮮總督府判事ノ恩給ニ關スル件

明治四十五年三月法律第一二號

一 朝鮮總督府判事ノ退職ハ官吏恩給ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ之ヲ退官ト看做ス

一 本法ハ本法施行前退職シタル者ニモ之ヲ適用ス(附則)

【六】臺灣總督府所屬雇員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法適用方ノ件

明治二十九年四月法律第七八號

第一條 臺灣總督府條例施行前臺灣總督府所屬ノ雇員ニシテ官吏ノ職務ニ從事シタル者ハ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ關係ニ於テハ文官判任以上ノ者ト同視シテ處分ス但同雇員タリシ年月數ニ對シテハ官吏恩給法第十二條第二項ノ一及官吏遺族扶助

助法第二條ヲ適用セス

第二條 現ニ恩給ヲ受ケル者ニシテ第一條ニ該當スルトキハ同雇員トシテ勤務シタル年月數ハ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ニ定ムル在官年數ニ通算セ

ス又同雇員トシテ受ケタル俸給額ノ爲ニ既定ノ恩給額ニ異動ヲ及ボサス

前項ニ掲ケル者官吏恩給法第三條ニ該當スル場合ニハ雇員俸給額ニ依リ算出シタル増加恩給ヲ給ス

第三條 現ニ恩給ヲ受ケル者ニシテ第一條ニ掲ケル雇員タル者官吏遺族扶助法第四條第二項ニ該當スルトキハ雇員ノ俸給額ニ依リ算出シタル扶助料ヲ其ノ遺族ニ給ス

○年金恩給 政府官吏 文官恩給 乙

朝鮮臺灣樺太關東洲



第四節 軍人恩給

甲 通則

【一】軍人恩給法 明治二十三年 法律第四五號

第一章 總則

第一條 陸海軍軍人ニシテ現役ヲ離レタル者ハ此法律ノ規定スル所ニ依ル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 陸海軍軍人恩給ハ左ノ六種トス

一 退職恩給

二 免除恩給

三 増加恩給

四 賑恤金

五 給助金

六 扶助料

第三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給及寡婦ノ扶助料ハ終身、孤兒ノ扶助料ハ年齢二十歳ニ至ルマテ、賑恤金給助金ハ一時限り之ヲ給ス

第二章 退職恩給、免除恩給、増加恩給

第四條 退職恩給ハ准士官以上左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病

ニ罹リ服役ニ堪ヘス退職シタルトキ  
二 戦闘及戦時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若ハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

三 戦地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戦時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ従事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若ハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

四 現役十一年以上ニシテ未タ定限ノ年齢ニ達セズト雖休職、停職満期若ハ諭旨ニ依テ退職シタルトキ

第五條 免除恩給ハ下士以下左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ服役満期トナリ或ハ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若ハ現役ヲ免除シタルトキ

二 第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若ハ現役ヲ免除シタルトキ

第六條 退職恩給、免除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受ケヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ト其ノ服役年數トニ從ヒ第一號表若ハ第二號表ニ依テ之ヲ給ス但

第九條 増加恩給ハ戦闘及戦時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ左ニ掲グル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給免除恩給ノ外特ニ給スルモノトス

一 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢ヲ亡シタルトキ

二 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ

三 一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

四 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ

五 一眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

六 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ

第十條 増加恩給ノ年額ハ軍人前條ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現官階ニ從ヒ左ノ各號ニ依リ之ヲ給ス

一 戦闘ノ爲メ傷痍ヲ受ケタル者ニ在リテハ第三號表甲號ノ金額

二 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ第四條第三ニ原因スル疾病ニ罹リタル者ニ在リテハ第三號表乙號ノ金額

シ現役四十一年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十一年ノ額トシ陸軍一等樂長及海軍兵曹長同相當官ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官六等額、其ノ他ノ海軍兵曹長同相當官ニハ高等官七等ノ額、陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第七條 軍人現役十一年以上ニシテ文官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス其ノ十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス

第八條 退職恩給、免除恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シタル者退職又ハ免官若ハ現役ヲ免除シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 再ヒ現役ヲ離ルルトキノ現官階當初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等ナラサルトキハ前役年數ニ再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スル恩給ト既得ノ恩給トヲ比較シ其ノ多キ方ヲ給ス

二 前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ増加ス但シ前役十一年未滿ニシテ恩給

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

前條第一號ニ該當スル傷疾疾病ニ加フルニ同第一號乃至第六號ノ一ニ該當スル傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ其ノ症項ノ等差ニ應シ第三號表甲號又ハ乙號第一項ノ金額十分ノ六以内ヲ増給ス

第十一條 戰闘及戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケスシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限内ニ検査ヲ願出ルトキハ策定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若ハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二箇年

二 一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ失ヒ若ハ兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若ハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三箇年

第十二條 傷疾疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ

一 傷疾疾病ノ原因ハ現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若ハ口供書

二 傷疾疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官ノ證書若ハ陸海軍醫官ノ查覈ヲ經タル醫師ノ證書

第十三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以

テ終ルモノトス

第三章 賑恤金、給助金

第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ナル者ニ之ヲ給ス

一 戰闘ノ爲傷疾ヲ受ケ現役ヲ離レタルトキ

二 公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

第十五條 賑恤金ハ前條ニ該當スル傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキノ現官階ニ應シ前條第一ニ當ル者ハ第三號表甲號第六項ノ一箇年分ヨリ少カラ

ス十箇年分ヨリ多カラズ前條第二ニ當ル者ハ同表乙號第六項ノ一箇年分ヨリ少カラズ十箇年分ヨリ多カラサル金額トス

第十六條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ若ハ現役四年以上十一年未滿ニシテ現役ヲ離レ退職恩給免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス其ノ額ハ第四號表ニ依ル但陸軍一等樂長海軍兵曹長同相當官及陸海軍准士官ニ給スル額ハ第六條但書ノ例ニ依ル

第四章 服役年

第十七條 服役年ノ始期終期ハ左ノ各項ニ依ル

第一 退職恩給、免除恩給ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上ハ初任ノ日陸軍兵卒ヨリ出身ノ下士以上ハ入營ノ日海軍卒ヨリ出身ノ下士以

上ハ五等卒トナリタル日但シ第二十四條第六ニ當リタルモノハ其ノ兵卒トナリタル日

同條第七ニ當リタル者ハ其ノ刑期滿限ノ翌日

二 陸軍兵卒ハ入營ノ日海軍卒ハ五等卒トナリタル日但シ第二十四條第七ニ當リタル者ハ其ノ刑期滿限ノ翌日

三 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ヨリ出身ノ准士官以上ハ其ノ准士官ニ任シタル日

四 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

五 海軍下士以下ニシテ明治二年五月一日以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

第二 給助金ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上初任ノ日但シ給助金ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キタルトキハ其ノ再服役ノ日

第三 服役年ノ終期

一 現役ヲ離レタル日

第十八條 左ニ掲クル日數ハ服役年ニ通算ス

一 前條ニ掲クル服役年ノ始期ヨリ終期ニ至ルマテノ日數

二 豫備後備ニ在ル者戰時若ハ事變ニ際シ召集シ

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

タルトキハ其ノ召集ノ日數

三 海軍軍人轉シテ陸軍軍人トナリタルトキハ海軍服役ノ日數陸軍軍人轉シテ海軍軍人トナリタルトキハ陸軍服役ノ日數

四 文官ヨリ轉シテ陸軍軍人トナリタル者ニ在テハ恩給ヲ受ケヘキ最下限ノ期ニ至ルマテハ文官服務中ノ日數四分ノ三

五 現役ノ者陸軍見習士官海軍候補生若ハ陸海軍諸生徒トナリ再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數

六 現役ヲ離レタル後再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數

七 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒、海軍水雷夫及北海道移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シタルトキハ其ノ日數

第十九條 左ニ掲クル日數ハ服役年ヨリ除算ス

一 刑期中及逃走中ノ日數

二 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒中ノ日數但シ從軍中ノ日數ハ此ノ限ニアラス

三 文官奉職中ノ日數ニシテ官吏恩給法ニ依リ除算スヘキ月數

四 年齡十七歲未滿ノ日數

第五章 從軍年

- 第二十條 從軍年ハ現役外ノ年月ト爲シ之ヲ其ノ服役年數ニ加算スルモノトス
- 第二十一條 從軍年ノ加算ハ左ノ各項ニ依ルヘシ
  - 一 外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ内國港灣ヲ出發シタルトキハ二箇年
  - 二 内國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ戰地ニ臨ミタルトキハ一箇年
  - 三 臨戰合圍地境内ニ於テ服役シタルトキ外國ニ在テハ二箇年内國ニ在テハ一箇年
  - 四 日本國外ノ鎮戍ニ在リタルトキハ一箇年
  - 五 出征事件ニ關シ功績アル者及一時ノ出兵ヲ出征軍ト見做シ從軍年ニ加算スヘキ場合ハ勅裁ニ依ル
- 第二十二條 海軍軍人ノ外國航海ハ從軍年ニ準シ内國港灣出發ノ日ヨリ一航海ヲ半箇年ニ加算ス其ノ航海十二箇月ニ超エルトキハ更ニ半箇年ヲ加算ス前項ノ規定ハ前條ニ當ルトキ及韓國沿岸ノ航海ニハ之ヲ適用セス
- 第二十三條 從軍年ノ加算ハ十二箇月間數回ノ戰役ニ從ヒ若ハ航海ヲ爲スト雖モ重複シテ之ヲ算セス但シ其ノ一年以上ニ亘リ十二箇月ニ餘ル所ノ分數ハ更ニ一役若ハ一航海ト爲ス

第六章 恩給ヲ受クヘキ資格及權利ノ消滅 停止

- 第二十四條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ退職恩給、免除恩給、增加恩給、賑恤金、給助金ヲ受クヘキ資格消滅ス
  - 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
  - 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
  - 三 將校及相當官准士官ニ於テハ陸海軍刑法判官ヲ附加スル禁錮ノ刑ニ處セラレ若ハ普通刑法其ノ他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒタルトキ
  - 四 將校及相當官ニ於テハ陸海軍將校分限令第二條第一項第六項ニ依リ免官トナリタルトキ
  - 五 准士官以下願ニ依リ免官若ハ現役ヲ免除シタルトキ
  - 六 陸軍下士上等兵及同等級者ニ於テハ陸軍懲罰令ニ依リ又ハ素行修ラス若ハ其ノ職務ヲ辱シムルニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ
  - 七 陸海軍下士及諸卒ニ於テハ普通刑法其ノ他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ若ハ陸海軍刑法ニ依リ將校ニ對シテ判官ヲ附加スヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 第二十五條 退職恩給、免除恩給、增加恩給ヲ受ク

ル者重罪ノ刑ニ處セラレ若ハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

- 一 再ヒ現役ニ就キ若ハ文官判任以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但シ商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキ及准士官以下ニシテ文官判任以上ニ任セラレタルトキハ此ノ限ニアラス
- 二 公權ヲ停止セラレタルトキ
- 增加恩給ハ公權ヲ停止セラレタル場合ニアラザレハ停止セラレモノトス
- 第二十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後七箇年内ニ請求セサレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第七章 扶助料

- 第二十七條 軍人左ノ各號ノ一ニ當リタルトキハ其ノ寡婦ハ扶助料ヲ受クルノ權利アルモノトス
  - 一 戰死シ又ハ戰鬪ニ由ル負傷ノ爲メ死歿シタルトキ
  - 二 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ戰地ニ於テ若ハ公務旅行中流行病ニ罹リ死歿シタルトキ
- 第二十八條 寡婦扶助料ノ年額ハ當該軍人ノ官階トシ現役五年以上又ハ十一年未滿ノ者陸軍一等樂長、海軍兵曹長同相當官及陸海軍准士官ノ寡婦ニ給スル額ハ第六條但書ノ例ニ依ル
  - 一 前條第一ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額
  - 二 前條第二ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ二
  - 三 前條第三ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ一
- 扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム
- 第二十九條 扶助料ヲ受クル者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ權利消滅ス
  - 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
  - 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
  - 三 扶助料ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ七箇年内ニ請求セサルトキ
  - 四 死歿若ハ戶籍ヲ去リ若ハ婚嫁シタルトキ
- 第三十條 扶助料ヲ受クル者公權ヲ停止セラレタルトキハ其ノ間扶助料ヲ停止ス

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

第三十一條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死歿シ若ハ權利消滅シタルトキハ其ノ扶助料ヲ孤兒ニ給ス  
扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第三十二條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ非戸主軍人ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其ノ繼襲者及長子死歿シ若ハ權利消滅シ若ハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ及フモノトス但シ家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第三十三條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若ハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸籍ヲ去リ若ハ死歿シ若ハ權利消滅シタルトキハ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其ノ父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

第三十四條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死歿シタル軍人ノ戸籍内ニアル二十歳未満又ハ癱疾若ハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇

ハサルトキハ此ノ法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス  
屯田兵下士卒ニシテ定規ノ補助ヲ受クル者平時軍隊勤務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキ亦同シ

第四十條 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒定規ノ補助ヲ受クル屯田兵下士卒及海軍水雷夫ハ第四條第二第三ニ因リ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者ニ限リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第四十一條 恩給ノ支給ハ陸海軍大臣ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス行政上ノ處分ニ由リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其ノ裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

第一號 退職 恩給表

年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限リ其ノ兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得  
第三十五條 第二十七條乃至第三十四條ヲ適用スヘキ軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ハ其ノ軍人現役中ヨリ引續キ同一戸籍内ニ在ル者ニ限リ寡婦ハ尙陸海軍兵籍簿ニ登記シタル者ニ限ル  
第三十六條 此ノ法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未満ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但シ養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル  
第三十七條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

雜則

第三十八條 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者退職若ハ免官スルトキハ同年七月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一箇年ニ當テ其ノ年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス  
海軍下士以下ニシテ明治二年五月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同年四月以前ノ勤仕ニ對シテ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一箇年ニ當テ其ノ年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス  
第三十九條 豫備後備ニ在ル者平時召集中職務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ服役ニ堪

一 傷痍疾病ノ原因及其ノ輕重  
二 職務ニ堪ユルト否ラサルト

第四十二條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス  
第四十三條 明治八年達海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退職料及扶助料ヲ受クル者ハ總テ該令ニ依ルヘシ但シ明治九年達陸軍武官恩給令ニ依リ受ケタル傷痍恩給ヲ除クノ外其ノ權利消滅及停止ハ此ノ法律ニ依ル

明治七年佐賀及臺灣ノ役明治九年熊本及山口ノ役明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シタル者並明治十五年同十七年朝鮮國京城變亂ノ際該國ニ駐在若ハ派遣シタル者ノ從軍年計算ハ總テ從前ノ命令ニ依ル

第四十四條 此ノ法律施行前ニ現役ヲ離レタル者ノ恩給ハ明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依ルヘシ但シ此ノ法律施行ノ月ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

年數	將官及相當官	佐尉官及相當官	判任官
一	親任	一等	准士官
二	二	二	一
三	三	三	一
四	四	四	一
五	五	五	一
六	六	六	一
七	七	七	一
八	八	八	一
九	九	九	一
十	十	十	一
十一	十一	十一	一

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

三十四年	二,四九〇	一,九六八	一,七三二	一,二四六	九九六	七四八	七三〇	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
三十三年	二,四三〇	一,九四四	一,七〇二	一,二〇〇	九九二	七四二	七三二	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
三十二年	二,四〇〇	一,九二〇	一,六八〇	一,一八六	九九〇	七三六	七二二	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
三十一年	二,三三〇	一,八八六	一,六六〇	一,一八六	九九〇	七三二	七二二	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
三十年	二,三〇〇	一,八七二	一,六六〇	一,一七〇	九九〇	七三二	七二二	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
二十九年	二,二八〇	一,八四八	一,六二八	一,一五六	九九〇	七二四	七〇二	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
二十八年	二,二五〇	一,八〇〇	一,五九六	一,一四〇	九九〇	七二〇	六九四	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
二十七年	二,二〇〇	一,七七六	一,五五四	一,一〇〇	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
二十六年	二,一五〇	一,七五二	一,五三四	一,〇九六	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
二十五年	二,一〇〇	一,七〇四	一,五二二	一,〇八〇	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
二十四年	二,〇七〇	一,六八〇	一,四九二	一,〇六六	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
二十三年	二,〇〇〇	一,六三二	一,四四八	一,〇三六	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
二十二年	二,〇〇〇	一,六〇八	一,四〇八	一,〇〇六	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇
二十一年	二,〇〇〇	一,五八四	一,三八六	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
二十年	二,〇〇〇	一,五六〇	一,三六六	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
十九年	二,〇〇〇	一,五三六	一,三四四	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
十八年	二,〇〇〇	一,五一二	一,三二二	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
十七年	二,〇〇〇	一,四八八	一,三〇〇	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
十六年	二,〇〇〇	一,四六四	一,二七八	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
十五年	二,〇〇〇	一,四四〇	一,二六六	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
十四年	二,〇〇〇	一,四一六	一,二四四	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
十三年	二,〇〇〇	一,三九二	一,二二二	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
十二年	二,〇〇〇	一,三六八	一,二〇〇	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
十一年	二,〇〇〇	一,三四四	一,一七八	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
十年	二,〇〇〇	一,三二〇	一,一五六	九九〇	七一六	六八八	五五〇	三六六	二七五	二〇〇	一九八
三十五年	二,五二〇	二,〇一六	一,七六四	一,二六〇	九九〇	七五六	五〇六	三〇三	二〇〇	一九八	一九八
三十四年	二,五〇〇	二,〇〇〇	一,七四〇	一,二四六	九九〇	七五〇	五〇〇	三〇〇	一九八	一九八	一九八
三十三年	二,五八〇	二,〇六四	一,八〇六	一,二九〇	九九〇	七六六	五一〇	三〇六	一九八	一九八	一九八
三十二年	二,六二〇	二,〇八八	一,八二八	一,三〇六	九九〇	七七四	五一六	三〇〇	一九八	一九八	一九八
三十一年	二,六四〇	二,一一二	一,八四八	一,三二〇	九九〇	七八二	五二二	三〇六	一九八	一九八	一九八
三十年	二,六七〇	二,一五六	一,八七〇	一,三三六	九九〇	七八八	五二八	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十九年	二,七〇〇	二,一八〇	一,八九〇	一,三五〇	九九〇	七九二	五三二	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十八年	二,七三〇	二,二〇四	一九一二	一,三六六	九九〇	八〇〇	五三六	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十七年	二,七六〇	二,二二八	一九三二	一,三八〇	九九〇	八〇八	五四〇	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十六年	二,七九〇	二,二五二	一九五二	一,三九六	九九〇	八一六	五四六	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十五年	二,八二〇	二,二七六	一九七二	一,四一〇	九九〇	八二四	五五〇	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十四年	二,八五〇	二,三〇〇	一九九二	一,四二六	九九〇	八三二	五五六	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十三年	二,八八〇	二,三二四	二〇一二	一,四四〇	九九〇	八四〇	五六〇	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十二年	二,九一〇	二,三四八	二〇三二	一,四五六	九九〇	八四八	五六六	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十一年	二,九四〇	二,三七二	二〇五二	一,四七〇	九九〇	八五六	五七〇	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十年	二,九七〇	二,三九六	二〇七二	一,四八六	九九〇	八六四	五七六	三一〇	一九八	一九八	一九八

第二號 免 除 恩 給 表

三十五年	二,五二〇	二,〇一六	一,七六四	一,二六〇	九九〇	七五六	五〇六	三〇三	二〇〇	一九八	一九八
三十四年	二,五〇〇	二,〇〇〇	一,七四〇	一,二四六	九九〇	七五〇	五〇〇	三〇〇	一九八	一九八	一九八
三十三年	二,五八〇	二,〇六四	一,八〇六	一,二九〇	九九〇	七六六	五一〇	三〇六	一九八	一九八	一九八
三十二年	二,六二〇	二,〇八八	一,八二八	一,三〇六	九九〇	七七四	五一六	三〇〇	一九八	一九八	一九八
三十一年	二,六四〇	二,一一二	一,八四八	一,三二〇	九九〇	七八二	五二二	三〇六	一九八	一九八	一九八
三十年	二,六七〇	二,一五六	一,八七〇	一,三三六	九九〇	七八八	五二八	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十九年	二,七〇〇	二,一八〇	一,八九〇	一,三五〇	九九〇	七九二	五三二	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十八年	二,七三〇	二,二〇四	一九一二	一,三六六	九九〇	八〇〇	五三六	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十七年	二,七六〇	二,二二八	一九三二	一,三八〇	九九〇	八〇八	五四〇	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十六年	二,七九〇	二,二五二	一九五二	一,三九六	九九〇	八一六	五四六	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十五年	二,八二〇	二,二七六	一九七二	一,四一〇	九九〇	八二四	五五〇	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十四年	二,八五〇	二,三〇〇	一九九二	一,四二六	九九〇	八三二	五五六	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十三年	二,八八〇	二,三二四	二〇一二	一,四四〇	九九〇	八四〇	五六〇	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十二年	二,九一〇	二,三四八	二〇三二	一,四五六	九九〇	八四八	五六六	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十一年	二,九四〇	二,三七二	二〇五二	一,四七〇	九九〇	八五六	五七〇	三一〇	一九八	一九八	一九八
二十年	二,九七〇	二,三九六	二〇七二	一,四八六	九九〇	八六四	五七六	三一〇	一九八	一九八	一九八

十一年	一〇八	九六	八四	七二	六〇	四八	三六	二四	一二	〇	〇
十二年	一三	一〇〇	八八	七五	六三	五一	三九	二七	一五	〇	〇

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則



○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

二八二

種別	號					
	乙	乙		甲		乙
症官等	第六項	第五項	第四項	第三項	第二項	第一項
准士官	一、四三	八五八	一、二四〇	一、二七三	一、二〇〇	一、〇〇〇
	九一五	五七二	一、四〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇
判任官	六八六	四八八	一、一三〇	九六〇	八〇〇	六〇〇
	八〇〇	六〇〇	九八〇	八四〇	七〇〇	五〇〇
下士官	五七三	四二九	七〇〇	五八〇	四六〇	三〇〇
	四八八	三三九	六〇〇	四八〇	三六〇	二〇〇
卒	三三三	二五八	一七三	一〇〇	八〇	六〇
	三九	一七三	一〇〇	八〇	六〇	四〇
	一七三	一〇〇	八〇	六〇	四〇	二〇
	一〇〇	八〇	六〇	四〇	二〇	一〇
	八〇	六〇	四〇	二〇	一〇	五

號	第四項	第五項	第六項
給	八〇	六〇	四〇
助	四〇	三〇	二〇
金	二〇	一〇	五
表	二	一	〇

親任 一等 二等 三等 四等 五等 六等 七等 八等 一等 二等 三等 四等

【二】軍人恩給施行規則

明治三十二年七月 勅令第五號

第一條 軍人恩給法ニ依リ退職恩給免除恩給增加恩給賑恤金給助金ヲ受クヘキ者ハ其請求書ニ履歷書ヲ添ヘ公務ノ爲メ受ケタル傷痍疾病ニ起因シ之ヲ請求スル者ハ軍人恩給法第十二條ニ掲ケル書類ヲ添ヘ所管長官ニ差出シ所管長官ヨリ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ

第二條 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ受クヘキ資格アル軍人死歿シタルトキハ所管長官ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ

軍人恩給法第二十七條第一又ハ第二ニ當ル者アリタルトキハ所管長官ヨリ其事實ヲ證明スヘキ書類ヲ其遺族ニ下付スヘシ

第三條 軍人恩給法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ其請求書ニ月給膳本及左ニ掲ケル書類ヲ添ヘ住所地方長官ニ差出スヘシ

一 現役中死歿シタル軍人ノ遺族ハ所管長官ヨリ下付シタル死者ノ履歷書

二 前項ノ者軍人恩給法第二十七條第一又ハ第二ニ當ルトキハ履歷書ノ外所管長官ヨリ下付シタル公務ノ爲メ死歿シタル事實ヲ證明スヘキ書類

三 恩給ヲ受ケタル軍人ノ遺族ハ其恩給證書

四 扶助料ヲ受ケタル者死歿若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其轉給ヲ受クヘキ者ハ前者ノ恩給證書

五 扶助料ヲ受ケタル者公權停止ニ因リ其轉給ヲ受

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

二八三

六 軍人恩給法第三十四條ニ當ル瘵疾不具ニシテ  
産業ヲ營ムコト能ハサル者ハ第一第二若クハ  
第三ニ掲クル書類ノ外醫師ノ診斷證書

地方長官前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ陸軍大臣若  
クハ海軍大臣ニ差出スヘシ但明治十年鹿兒島ノ役  
ニ從軍シ陸軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル元警視  
局長ノ遺族ヨリ本條ノ請求ヲ爲シタルトキハ地方  
長官ヨリ内務大臣ニ差出スヘシ

第四條 陸海軍大臣又ハ内務大臣前條ノ請求書ヲ受

ケタルトキハ審査ノ上請求ノ理由アリト認ムルト  
キハ恩給計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ、其瘵疾  
病ニ起因スルモノニ付テハ陸軍省醫務局若クハ海  
軍醫務局ノ覆覈ヲ經タル書類、軍人ノ寡婦ノ扶助  
料ニ付テハ陸海軍兵籍簿ノ寫ヲ添ヘ内閣總理大臣  
ニ差出スヘシ  
陸海軍大臣又ハ内務大臣ニ於テ前項請求ノ理由ヲ  
シト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣  
ニ差出スヘシ

第五條 内閣ニ於テ恩給ノ請求ヲ許可シタルトキハ  
恩給證書ヲ作り陸軍省若クハ海軍省若クハ内務省  
ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム  
但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

第十一條 (削除)  
第十二條 本規則ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノ  
ハ總テ官吏恩給法施行規則ノ例ニ依ル

【三】陸軍軍人恩給取扱手續

明治二十三年七月  
陸軍省令第二二號

第一條 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ請求スル手續ハ軍  
人恩給法施行規則ニ示シタルモノノ外陸軍部内ニ  
在テハ此ノ細則ニ準據スヘシ

第二條 退職恩給免除恩給增加恩給ノ請求書ハ當該  
軍人現役ヲ離レタル後第一第二書式ニ示シタル書  
類ヲ具備シ舊所屬長休職者停職者ノ恩給請  
求書ハ兵籍所屬長ニ呈シ同官ハ  
之ヲ調査シ計算書(第九書式)ヲ作り順序ヲ經テ所  
管長官ニ呈シ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 傷疾疾病ニ基ク恩給ノ請求ニ係ルトキハ所  
管長官其診斷證書(第五書式)ヲ軍醫部長ニ移シテ  
審査セシメタル上陸軍大臣ニ進達スヘシ  
地方醫師ノ診斷證書ヲ以テ恩給ヲ請求スルハ陸軍  
醫官ノ診斷ヲ受クルコト能ハサル場合ニ限ル其ノ  
證書ニハ原因經過療法及ヒ現症ヲ詳記シテ醫師二  
名署名セシムヘシ所管長官ハ醫官ヲシテ其ノ傷疾  
疾病ノ等差ヲ判定シ查覈證書ヲ作ラシメタル上書

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ  
其旨ヲ郵便貯金局ニ通報スヘシ

第六條 軍人恩給法第三十八條ノ月俸ニシテ支給ニ  
係ルモノハ官吏恩給法施行規則第十一條ノ例ニ依  
ル

第七條 扶助料ヲ受クル者死没若クハ戶籍ヲ去リ若  
クハ婚嫁シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキハ郵便  
貯金局ニ於テ其月ノ翌月ヨリ扶助料ノ支給ヲ廢シ  
其旨ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキ  
トキハ郵便貯金局ニ於テ其恩給證書ヲ收メテ内閣  
恩給局ニ送付スヘシ

第八條 軍人恩給法第九條第十四條第十五條ノ傷疾  
疾病輕重ノ等差ハ陸海軍大臣之ヲ定ム

第九條 明治八年達陸軍武官傷疾扶助死亡ノ者祭樂  
家族扶助概則及海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩  
給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩  
給又ハ退隱料扶助料ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ  
本則ニ依ル  
一 死没又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ  
二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ  
三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ  
第十條 明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ

類ヲ軍醫部長ニ移シ之ヲ審査セシムヘシ  
第四條 軍人恩給法第十一條ニ當ル者ハ其ノ期限内  
ニ於テ居住地地方ノ師團長ニ検査ヲ請求スルコトヲ  
得  
師團長其ノ請求ヲ受ケタルトキハ醫官ヲシテ其ノ  
症狀ヲ實査セシメ診斷證書(第五書式)ヲ作ラシム  
其ノ診斷證書ノ審査ニ係ル取扱ハ第三條ノ例ニ同シ

第五條 (削除)  
第六條 賑恤金ノ請求ハ第三書式ニ示シタル書類ヲ  
具備シ舊所屬長ニ呈スヘシ所屬長ハ順序ヲ經テ所  
管長官ニ呈シ所管長官ハ第三條ノ例ニ依リ之ヲ取  
扱フヘシ

第七條 給助金ノ請求ハ第四書式ニ示シタル書類ヲ  
具備シ本人若ハ遺族ヨリ舊所管長官ニ呈スヘシ所  
管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第八條 (削除)  
第九條 服役年ノ計算ハ曆ニ依ル現役ヲ離レタル月  
ノ端日數ヲ集計シ之ヲ月ニ換算スル場合ニハ其ノ  
現役ヲ離レタル月ノ曆日數ニ從ヒ算定ス

第十條 軍人恩給法施行規則第二條ニ依リ所管長官  
ヨリ遺族ニ下付スル死者ノ履歷書ニハ寡婦ニ限リ  
兵籍ノ寫ヲ添ユヘシ兵籍ニ關スル  
部分ノミ記ス  
前項ノ履歷書及兵籍寫ニハ所管長官第八書式備考



○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

ニ依リ之ヲ證明スヘシ  
第十一條 退職恩給、免除恩給、増加恩給、賑恤金  
給助金ノ請求書類ハ正本一通副本二通ヲ呈出シ所  
管長官ハ其ノ正副本一通ヲ陸軍大臣ニ進達スルモ  
ノトス但シ現役中刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其ノ宣  
告文ノ謄本ヲ添附スルヲ要ス  
第一書式(用紙美濃紙)

恩給請求書

何年何月何日何兵ニテ入營(何々被申付)何年何月  
何日被任何官爾來何箇年服役何年何月何日豫備  
(後備)(退役)(服役滿期)(傷疾)疾病ノ故ヲ以  
テ退役「免官」「免役」ニ相成候就テハ軍人恩給法  
第何條ニ據リ恩給下賜度證據書類相添請求仕候也  
元第何師團何兵第何聯隊

第何中隊(官解)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地

華(士)族(平民)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留

年月日 官 氏 名 印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

傷疾疾病ニ係ルモノハ

履歷書(第八書式)

診斷證書(第五書式)若クハ第三條第二項ノ地方醫  
師診斷證書  
現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第二書式(用紙美濃紙)

傷疾疾病重症ニ趨キ恩給ノ増加ヲ請求若クハ其恩  
給ヲ更ニ請求スルトキ  
恩給請求書

何年何月何日ヨリ傷疾(疾病)ノ故ヲ以テ恩給及頁  
傷増加恩給下賜候(現役ヲ離レ候)處爾來何々ニ依  
リ遂ニ重症ニ趨キ別紙診斷證書ノ通ニ候間御検査  
ノ上軍人恩給法第何條ニ據リ恩給下賜度證據書類  
相添請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日 官 氏 名 印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

診斷證書(地方醫師ノ製シタル診斷證書ニテ  
更ニ恩給ヲ請求スルモノハ)

履歷書(第八書式)

現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第三書式(用紙美濃紙)

賑恤金請求書

何年何月何日何地ニ於テ何々ノ爲メ傷疾ヲ受ケ  
(疾病ニ罹リ)爾來加療ノ末服役ニ堪ヘサルヲ以テ  
何月何日免官(免役)相成候就テハ軍人恩給法第何  
條ニ據リ相當ノ賑恤金下賜度證據書類相添請求仕  
候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日 元官 氏 名 印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

診斷證書(第五書式)若クハ第三條第二項ニ同シキ

地方醫師診斷證書

現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第四書式(用紙美濃紙)

給助金請求書

何年何月何日被任何官爾來何箇年勤續何年何月何  
日現役ヲ離レ候ニ付軍人恩給法第十六條ニ據リ給  
助金下賜度履歷書相添請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日 官 爵 氏 名 印

所管長官爵氏名殿

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

給助金請求書(遺族ヨリ請求ノトキ)

月主(某長男、某兄弟等)

官 爵 氏 名

右何年何月何日死歿仕候ニ付軍人恩給法第十六條  
ニ據リ給助金下賜度履歷書相添請求仕候也

故官爵氏名長男(寡婦、父、母、兄弟等)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地

華(士)族(平民)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留

家督相續人(遺産相續人)

年月日 氏 名 印

所管長官爵氏名殿

(注意)給助金ハ左記ノ者ヨリ請求スルモノトス

軍人戸主ニテ死歿シタルトキハ家督相續人

軍人非戸主ニテ死歿シタルトキハ遺産相續人

第五書式(用紙美濃十三行罫紙) (丙ハ朱書)

診斷證書

第何師團何兵第何聯(大)隊

第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年(何役)何月何日何地ニ於テ何々ノ際右大腿  
前下部ヨリ膝關ニ貫通スル骨傷銃創ヲ受ケ(何病

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

二八八

ニ罹リ)直ニ纏帶所(某野戰病院)ニ於テ一時ノ處  
置ヲ施シ爾後何々病院ヲ經テ何月何日某衛戍病院  
(某豫備病院)ニ入院(軍人恩給法第十一條ニ當ル  
者ハ爾來治療ノ末創面治癒スルニ由リ何年何月現  
役ヲ離レタル後何月何日來該傷痍ノ爲メ何々症ヲ  
發シ)當時ノ症狀何々(何々症ヲ繼「併」發ス)依テ  
何々ノ部ニ何々ノ手術(何々ノ療法)ヲ施シ爾後經  
過何々ニシテ現今創面(何々)ハ治癒スト雖モ右膝  
關節何度ノ角ニ於ケル強剛ヲ遺シ且患肢ハ健肢ヨ  
リモ瘦削セルコト何々ノ部ニ於テ周測スルニ何仙  
送迷篤爾ニシテ該肢ノ用ヲ妨ケルニ由リ軍人恩給  
法第九條第何項症(賑恤金ニ係ルモノハ軍人恩給  
法第十四條第何項即陸軍々人傷痍疾病恩給等差例  
第二條第何款ノ甲「乙」症)ト診斷候也

主任

年月日 職 官 氏 名 印

再診

何病院長 官 氏 名 印

「審査」

「第何師團軍醫長 官 氏 名 印」

「右覆覈候處適當ノ診斷ト認定候也」

「陸軍省醫務局長 氏 名 印」

備考 傷痍疾病ノ原因、症候(傷痍ノ種類、部

位、淺深等、疾病ノ輕重、併發症、繼發症  
等)經過、療法及ヒ現時官能障礙ノ景況ヲ  
詳記スヘシ  
本證書ハ退役又ハ服役免除ノ爲ニ要スル  
診斷證書ト同時ニ調製スヘキモノトス  
再診ハ本人ニ就テ診斷スルヲ例トス但シ  
場合ニ依リ病床日誌ノ寫(病床日誌ヲ作  
ラサルトキハ病歷書)ニ就テ再診スルコ  
トヲ得各官衙附憲兵隊附等ノモノニ係ル  
審査ノ取扱ハ一般ノ手續ニ據ル  
軍人恩給法第十條第二項ニ當ルモノハ本  
文末段ヲ「軍人恩給法第九條第一項症ニ  
第何項症ヲ加フルモノト診斷候也」ト記  
載スヘシ

第六書式(用紙美濃十三行罫紙)

死亡證書

第何師團何兵第何聯(大)隊

第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年何月何日何地ニ於テ何々ノ際何部ニ何傷ヲ  
受ケ(何病ニ罹リ)爾後何病院(何々ヲ經テ何月何  
日來何病院)ニ於テ治療候處(何々症ヲ繼「併」發シ)

履歷書

何府(縣)何郡(市)町(村)番地

華(士)族(平民)

何府(縣)何郡(市)町(村)番地寄留

官 氏 名 印

何年何月何日生

徵兵ニテ何師團何隊ニ入營  
又ハ何學(任何官)ニ入校  
ニ入校(任何官)ニ任官  
ノ名ヲ任官ノ下ニ  
一々記入スヘシ

何ノ科ニ依リ禁錮何箇月ニ處  
セラル

刑期滿限  
何兵上等兵  
任何兵伍長  
動員下令(下令當時ノ所屬部隊  
名明瞭ナルヲ要ス)

外征從軍トシテ何港出發  
何地上陸  
任何兵軍曹  
何港出發  
何港歸著  
復員下令  
任何兵曹長

第七書式

現認證書

第何師團何兵第何聯(大)隊

第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年何月何日午前(後)何時何地ニ於テ俱ニ進擊  
ノ際(器械體操何演習何々ノ際何々ニ由リ何々ニ  
觸レ)(何々ニ由リ何物ノ爲ニ)何部ニ何傷ヲ受ケ  
ルヲ現認候也

第何師團何兵第何聯(大)隊

第何中隊

官 氏 名 印

同

官 氏 名 印

備考 本證書ハ勉メテ受傷ノ現況ヲ詳記スヘシ  
現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニテ之ヲ  
作ルヘシ

第八書式(用紙美濃紙)

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

二八九





○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

二九四

タル醫師二名以上連署ノ診斷證書ヲ差出サシメ鎮守府司令長官ハ審査ノ後之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ  
第八條 候補生ニ在テハ准士官以上ニ準シ生徒ニ在テハ下士ニ準シ取扱フヘシ但鎮守府司令長官ノ爲ニ定メタル事項ハ所屬校長ニ於テ取扱フモノトス  
第九條 前諸條ニ規定スルモノノ外恩給並ニ扶助料請求ニ要スル證據書類ハ前諸條ニ準シ取扱フヘシ  
第一書式 服役停年ニ基ク退職及免除恩給請求書但シニ退差出スヘシ以下就レモニ進テ差出スヘシ

恩給請求書(用紙美濃紙)

某 儀

何年何月何日(被任何官)(何々被申付)爾來何箇年服役何年何月何日何々依リ(豫備)(後備)(退役)(免官)(免役) 被申付候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ相當ノ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也

何府市區 何町何番地 華士族(平民)  
何縣何郡 何村何番地 寄留  
年月日 官職爵氏 名 ㊦

海軍大臣爵氏名殿

下士卒ハ舊所管長官ニ宛ツヘシ(以下之) 附屬スヘキ證據書類 履歷書(第十書式)

何年何月何日(傷疾)(疾病)ノ故ヲ以テ(恩給及負傷增加恩給下賜)(現役ヲ離レ)候處爾來何々ニ依リ遂ニ重症ニ趨キ別紙診斷書ノ通りニ候間御檢査ノ上軍人恩給法ニ據リ相當ノ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也

年月日 官職爵氏 名 ㊦

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

診斷證書 (第八書式) 海軍軍醫官ノ診斷證書若シ軍醫官ノ診斷ヲ受クルコト能ハサル場合ニ限リ原因(遺症)及現症等ヲ詳記シ地方醫師ノ調製捺印シタルモノ

更ニ恩給ヲ請求スルモノ

履歷書 (第十書式ノ一)

現認證書 (第五書式若ハ公文ノ寫若ハ口供書) 負傷證書 (第六書式若ハ第七書式ノ一(二))

診斷證書 (同右)

第四書式 (用紙美濃紙)

給助金請求書

某 儀

何年何月何日被任何官爾來何箇年勤續何年何月何日現役ヲ離レ候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ相當ノ

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

二九五

第二書式 傷疾疾病ニ基ク恩給請求書 恩給請求書(用紙美濃紙)

某 儀

何年何月何日(被任何官)(何々被申付)爾來何箇年服役何年何月何日(傷疾)(疾病)ノ故ヲ以テ(退役)(免官)(免役) 被申付候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ相當ノ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也

年月日 官職爵氏 名 ㊦

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第十書式ノ一)

現認證書 (第五書式若ハ公文ノ寫若ハ口供書) 負傷證書 (第六書式若ハ第七書式ノ一(二))

診斷證書 (第八書式)

但シ公務ニ因ラサル傷疾疾病ニ係ルモノハ履歷書ノミ添附スヘシ

第三書式

傷疾疾病重症ニ基ク恩給ノ增加ヲ請求シ若ハ其ノ恩給ヲ更ニ請求ノトキ 恩給請求書(用紙美濃紙)

給助金下賜度證據書類相添此段請求仕候也

年月日 官(元官)爵氏 名 ㊦

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書(第十書式ノ二) 戶籍謄本

給助金請求書 (遺族ヨリ請求ノトキ) 故 官 爵 氏 名

右現役中何年何月何日死亡仕候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ相當ノ給助金下賜度證據書類相添此段請求仕候也

履歷書(第十書式)

故官位勳爵氏名長男(寡婦、父、母、兄弟等) 家督(遺産)相續人

年月日 氏 名 ㊦

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第十書式)

備考 死者ニ對スル給助金ハ左記ノ者ヨリ請求スルモノトス 軍人戶主ニテ死亡シタルトキハ家督相續人軍

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

二九六

人非戸主ニテ死亡シタルトキハ遺産相續人

第五書式(用紙美濃十三行罫紙)

現認證書

所轄

官職 氏 名

右者明治何年何月何日何時何分何所ニ於テ俱ニ砲撃ノ際(何々演習ノ際何々ニ由リ何々ニ觸レ)(何々ニ由リ何物ノ爲メニ)何部ニ何傷ヲ受クルヲ現認ス

所轄

官職 氏 名

名 名

備考 罹病ニ係ル現認證書ノ書式ハ本證書ニ準ス

本證書ハ勉メテ現況ヲ詳記スヘシ

又現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニテ之ヲ作ルヘシ

第六書式(用紙美濃十三行罫紙)

負傷證書

所轄職官 氏 名

名 名

職官 氏 名

名 名

第七書式ノ一(用紙美濃十三行罫紙)

罹病證書

所轄職官 氏 名

名 名

右者何年何月何日ヨリ何處ニ於テ勤務ノ處何年何月何日ヨリ何々ノ症狀ヲ發シタルニ由リ何病ニ罹リタルモノト認ム

右證明ス

職官 氏 名

名 名

第七書式ノ二(用紙美濃十三行罫紙)

罹病證書

所轄職官 氏 名

名 名

右者何年何月何日軍艦何々(或ハ何海兵團等)ニ於テ何某虎列刺ニ罹リ送院ノ後艦内消毒ニ從事セシ處何月何日ヨリ何々ノ症狀ヲ發シ同症ニ罹リタルニ因リ公務ノ爲感染セシモノト認ム

右證明ス

職官 氏 名

名 名

第九書式(用紙美濃十三行罫紙)

死亡診斷書

一 氏 名

何 某

二 出生年月日

明治何年何月何日

三 所轄官職

軍艦何何等水兵

四 戦死、病死、自

傷死、公務死、

五 殺、死、中毒等ノ別

病死、公務病死、

六 傷 病 名

頭蓋貫通銃創

七 發病年月日

明治何年何月何日

八 死亡年月日時

明治何年何月何日

九 死亡ノ場所

午後何時 何港

右證明ス

年月日

職官 氏 名

名 名

第八書式(用紙美濃十三行罫紙)

診斷證書

所轄職官 氏 名

名 名

傷病名  
原由  
症狀  
經過處置  
結果  
右診斷ス

年月日

病院長官 氏 名

名 名

第十書式ノ一(用紙美濃紙)

履歷明細書

何府市區 何町何番地華族(平民)

何縣何郡 何村何番地士族(平民)

官職 氏 名

何年何月何日生

明治何年 何月何日 海軍五等水兵ヲ命ス

二九七

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則



○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

同 任海軍中尉  
同 任海軍大尉  
同 死亡

第十一書式 恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ若ハ戰時召集ニ應シ滿一年以上服役シタル者

其ノ恩給増加ヲ更ニ請求ノトキ (用紙美濃紙) 恩給請求書

何年何月何日(豫備)(後備)(被仰付、被命)(退職)(免除)恩給下賜相成居候處何年何月何日(現役ニ就キ)(何々ノ役ニ付召集ヲ令セラレ)爾來服役何年何月何日何々ニ依リ(豫備)(後備)(退役)(免官)(被仰付、被命)(召集ヲ解カレ)候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ更ニ相當ノ恩給増加下賜度證據書類相添此段請求仕候也

府 市 區 町 何 番 地 華 族 (平民)  
縣 何 郡 何 村 何 番 地 寄 留  
年 月 日 官 職 爵 氏 名 〇  
海軍大臣爵氏名殿  
下士卒ハ舊所管長官ニ宛ツヘシ

附屬スヘキ證據書類  
履歷書(出身以來ニ現役ヲ離レ若ハ召集ヲ解キカレタルトキマテノ全文ヲ記載スヘシ)

第十二書式(用紙美濃紙) 扶助料請求書

右何年何月何日何官爾來何年勤續仕候處何年何月何日死亡仕候就テハ軍人恩給法ニ依リ相當ノ扶助料下賜度證據書類相添此段請求仕候也

府 市 區 町 何 番 地 華 族 (平民)  
縣 何 郡 何 村 何 番 地 寄 留  
何 官 爵 氏 名 寡 婦 (孤兒)(父母)(祖父母)  
年 月 日 氏 名 〇  
府 縣 知 事 宛  
附 屬 ス ヘ キ 證 據 書 類  
履 歷 書  
現 認 證 書 (第五書式若ハ公文ノ寫若ハ口供書)  
負 傷 證 書  
戶 籍 謄 本

死亡診斷書(第九書式)若ハ死體檢按書

但公務ニ原因セスシテ死亡シタル者ニ在テハ履歷書並戸籍謄本ノミヲ添附スヘシ

第十三書式 文官恩給請求書式(用紙美濃紙) 恩給請求書

何年何月何日被任何官(何々被申付)爾來何年在官何年何月何日何々ニ依リ被免本官候ニ就テハ官吏恩給法ニ據リ相當ノ恩給下賜度別紙證據書類相添此段請求仕候也

府 市 區 町 何 番 地 華 族 (平民)  
縣 何 郡 何 村 何 番 地 寄 留  
年 月 日 元 官 爵 氏 名 〇  
海軍大臣爵氏名殿  
附 屬 ス ヘ キ 證 據 書 類  
履 歷 書 (第十書式ノ一二據ル)  
戶 籍 謄 本  
傷 疾 ニ 因 ル 者  
履 歷 書 (同右)  
戶 籍 謄 本  
診 斷 證 書

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

公務ノ爲受ケタル傷疾ニ因ル者  
履歷書(同右)  
現認證書(第五書式若ハ公文ノ寫若ハ口供書)  
負傷證書(第六書式若ハ第七書式ノ一(二))  
診斷證書 第八書式ニ準據シ調製シタルモノ

第十四書式 文官恩給請求書式 (用紙美濃紙) 恩給請求書

何年何月何日ヨリ(傷疾)(疾病)ノ故ヲ以テ(恩給及負傷増加恩給下賜)(依願被免本官)候處爾來何々ニ依リ遂ニ重症ニ趨キ別紙診斷書ノ通ニ候間官吏恩給法ニ據リ相當ノ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也

府 市 區 町 何 番 地 華 族 (平民)  
縣 何 郡 何 村 何 番 地 寄 留  
年 月 日 元 官 爵 氏 名 〇  
海軍大臣爵氏名殿  
附 屬 ス ヘ キ 證 據 書 類  
診 斷 證 書 原因經過療法及現症等ヲ詳記シタルモノ



更ニ恩給ヲ請求スルモノ

- 履歴書 (第十書式ノ一二據ル)
- 現認證書 (第五書式若ハ公文ノ寫若ハ口供書)
- 負傷證書 若ハ罹病證書 (第六書式若ハ第七書式ノ一(一一))
- 診斷證書 (同右)

第十五書式 (用紙美濃十三行罫紙)

兵籍簿寫

何府華族(平民)

海軍官(職)氏

何年何月何日生

家族

右證明ス 年月日

海軍省人事局長氏 名 印

(下士以下ニ在リテハ其ノ兵籍ヲ主管スル人事部長記名捺印ス)

【五】陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例

明治二十五年一月 陸軍省通第九六號

第一條 軍人恩給法第九條各項ニ基ク傷痍疾病等差ノ概例ハ左ノ如シ

- 一 不具若クハ痲疾トナリ常ニ介護ヲ要スルモノハ第一項若クハ第二項トシ其常ニ介護ヲ要セサルモノハ第三項若クハ第四項トシ其介護ヲ要セサルモノハ第五項若クハ第六項トス
- 二 生殖器ヲ失シ其機能ヲ廢シタルモノハ第三項トシ生殖器ヲ失シ其機能ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第四項乃至第六項トス
- 三 一眼一耳ノ機能ヲ併セ廢シタルモノハ第四項トス
- 四 兩耳ノ機能ヲ廢シタルモノハ第三項トス
- 五 鼻ヲ失シ其機能ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第五項若クハ第六項トス
- 六 咀嚼言語ノ機能ヲ併セ廢シタルモノハ第一項トシ其機能ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第二項乃至第六項トス
- 七 内臟器ノ機能ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第一項若クハ第二項トシ其機能ヲ妨クルニ至リタルモノハ第三項乃至第六項トス
- 八 頸若クハ腰ノ運動ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第五項若クハ第六項トス
- 九 支肢ノ運動ヲ廢シタルモノ若クハ其運動ヲ大

ニ妨クルニ至リタルモノハ第五項若クハ第六項トス

- 十 拇指ヲ併セ三指以上ヲ失シタルモノ若クハ示指中指環指小指ヲ併セ失シタルモノハ第四項若クハ第五項トシ拇指示指ヲ併セ失シタルモノ若クハ示指中指環指ヲ併セ失シタルモノハ第五項若クハ第六項トシ拇指ヲ失シタル者若クハ示指中指ヲ失シタルモノ若クハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失シタルモノハ第六項トス
- 十一 拇指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ若クハ示指中指環指小指ノ用ヲ併セ廢シタルモノハ第五項若クハ第六項トシ拇指示指ノ用ヲ併セ廢シタルモノ若クハ示指中指環指ノ用ヲ併セ廢シタルモノハ第六項トス
- 十二 關節ノ下概ネ三分ノ一以上ヲ失シタルモノハ第四項若クハ第五項トス
- 十三 第一趾ヲ併セ三趾以上ヲ失シタルモノハ第六項トス
- 第二條 軍人恩給法第十四條ニ當ルヘキ傷痍疾病ノ等差ハ五款トス其概例ハ左ノ如シ但各款共ニ甲症乙症ニ區分ス
  - 一 本例第一條ノ各症ヨリ輕キモ身體ノ機能ニ著シキ妨アルニ至リタルモノハ其輕重ニ依リ第

- 二 頭首ニ大ナル醜形ヲ遺シタルモノハ第三款乃至第五款トス
- 三 一眼ノ視力ヲ妨クルニ至リタルモノハ第一款乃至第五款トス
- 四 一耳ノ機能ヲ廢シタルモノハ第一款トシ其機能ヲ大ニ妨クルニ至リタルモノハ第二款乃至第五款トス
- 五 支肢ノ運動ヲ妨クルニ至リタルモノハ第一款乃至第五款トス
- 六 示指ヲ失シタルモノ若クハ拇指示指ヲ除キ他ノ二指ヲ失シタルモノハ第二款若クハ第三款トス
- 七 拇手ノ用ヲ廢シタル者若クハ示指中指ノ用ヲ併セ廢シタル者若クハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ノ用ヲ廢シタル者ハ第二款若クハ第三款トシ示指ノ用ヲ廢シタル者若クハ拇指示指ヲ除キ他ノ二指ノ用ヲ廢シタル者ハ第三款若クハ第四款トス
- 八 第一趾ヲ併セ二趾ヲ失シタルモノハ第一款トシ第一趾ヲ失シタルモノ若クハ第一趾ヲ除キ他ノ四趾ヲ失シタルモノハ第二款トシ第一趾ヲ除キ他ノ三趾ヲ失シタルモノハ第三款トス

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

三〇四

九 第一趾ヲ併セ三趾以上ノ用ヲ廢シタルモノハ  
第二款トシ第一趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタル  
モノハ第三款トス

第三條 第一條第二條中支肢ノ各症ニ在テハ一肢ニ  
就テ示スト雖モ兩肢ニ同一ノ症アルトキハ第一條  
ノ症ニ在テハ二項ヲ上ホセ第二條ノ症ニ在テハ一  
款ヲ上ホセ第二條第一款第二款ノ症ニ在テハ第六  
項ニ上ホスヘキモノトス第一條第六項ノ症トシ  
テ掲クルモノノ症狀輕キトキハ第二條第一款若クハ  
第二款ニ下スヘキモノトス

第一條第二條ノ各症ト雖モ傍症アルトキハ等差ヲ  
上ホスヘキモノトス

第四條 第一條第二條ニ掲クル各症ノ他ハ同條各症  
ニ比準シテ其等差ヲ策定スヘシ本例中某部ヲ失ス  
トアルハ其一部分ヲ失シタルモノヲモ包含シ某部  
ノ用ヲ廢ストアルハ僅ニ其機能ヲ存スルモ作用上  
之ヲ廢スルニ等シキモノヲモ包含ス

【六】陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例ニ關  
スル件

明治二六年二月  
陸軍省達第二〇號

一 陸軍軍人ニシテ陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例第一  
條ノ各症ニ當該スルモノハ軍人ノ服役ニ堪ヘサル  
モノトシ同第二條第一款第二款ノ各症ニ當該ス

ルモノハ下士以下ノ兵役ニ堪ヘサルモノトシ同第  
三款第四款第五款ノ各症ニ當該スルモノハ下士以  
下常備後備ノ服役ニ堪ヘサルモノトス

【七】海軍軍人傷痍疾病恩給等差例

明治二六年二月  
海軍省達第二號

(陸軍軍人傷痍疾病恩給等差例ト同一ナリ)

【八】陸軍見習士官及生徒恩給額ノ件

明治三一年一月  
勅令第二四四號

一 軍人恩給法第四十條ニ該當スル陸軍見習士官及生  
徒ノ恩給額ニ關シテハ見習士官(見習醫官見習藥  
劑官見習獸醫官見習軍吏ヲ含有ス)ノ階級ハ判任  
官一等等トシ未タ見習士官トナラサル士官候補生及  
軍醫學校生徒獸醫學校生徒ノ階級ハ判任官二等ト  
シ其ノ他ノ諸生徒ノ階級ハ兵卒トス

【九】海軍候補生及海軍生徒ノ恩給額ニ  
關スル件

明治二七年八月  
勅令第一四五號

一 軍人恩給法第四十條ニ該當スル海軍候補生及生徒  
ノ恩給額ニ關シテハ候補生ノ階級ハ判任官等級一

等トシ將校生徒及機關生徒ノ階級ハ判任官等級二  
等トス

【一〇】軍人恩給法第十五條範圍内ニ於  
テ給與スヘキ賑恤金

明治三七年四月  
海軍省達第八一號

(別表) 賑 恤 金 表

種 類	官 等	下 士				卒				
		判 任	官	海一 等卒	陸軍 上等兵	陸軍 一等卒	陸軍 二等卒	陸軍 三等卒	海軍 四等卒	海軍 五等卒
症 別	第一 甲 症	二 等	三 等	四 等	三〇〇	二六〇	二四〇	二三〇	二二〇	一八〇
		三 五	三 五	三 五	二七〇	二三四	二二六	一九八	一八〇	一六二
	第一 乙 症	三 五	三 五	三 五	三〇〇	二六〇	二四〇	二三〇	二二〇	一八〇
		三 五	三 五	三 五	二七〇	二三四	二二六	一九八	一八〇	一六二
	第二 甲 症	三 三	二 八〇	二 五〇	二四〇	二〇八	一九二	一七六	一六〇	一四四
		二 七三	二 四五	二 一〇	二一〇	一八三	一六八	一五二	一四〇	一二六
第二 乙 症	二 七三	二 四五	二 一〇	二一〇	一八三	一六八	一五二	一四〇	一二六	
	二 七三	二 四五	二 一〇	二一〇	一八三	一六八	一五二	一四〇	一二六	
第三 甲 症	二 三三	二 一〇	一 七五	一六〇	一五六	一四四	一三三	一二〇	一〇八	
	二 三三	二 一〇	一 七五	一六〇	一五六	一四四	一三三	一二〇	一〇八	
第三 乙 症	二 九五	一 七五	一 五〇	一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	一〇〇	九〇	
	二 九五	一 七五	一 五〇	一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	一〇〇	九〇	

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 甲 通則

三〇五

者ル當ニ二第條同					者ル當ニ一								
款五第		款四第		款三第		款二第		款一第		款五第		款四第	
乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲
症	症	症	症	症	症	症	症	症	症	症	症	症	症
二七	五四	八二	一〇八	一三五	一六三	一八九	二六	二四三	二七〇	三九	六八	一二七	一五六
二四	四八	七二	九六	一二〇	一四四	一六八	一九二	二一六	二四〇	三五	七〇	一〇五	一四〇
二二	四三	六三	八四	一〇五	一二六	一四七	一六八	一九九	二二〇	三〇	六〇	九〇	一二〇
一八	三六	五四	七二	九〇	一〇八	一二六	一四四	一六三	一八〇	二六	五二	七八	一〇四
一七	三四	五一	六八	八五	一〇二	一二九	一四一	一五三	一七〇	二四	四八	七二	九六
一五	三〇	四五	六〇	七五	九〇	一〇五	一二〇	一三五	一五〇	二三	四四	六六	八八
一四	二八	四二	五六	七〇	八四	九八	一一二	一二六	一四〇	二〇	四〇	六〇	八〇
一二	二四	三六	四八	六〇	七二	八四	九六	一〇八	一二〇	一八	三六	五四	七二

【一】軍人恩給法ニ依ル從軍年加算ノ件

明治二八年一月  
陸軍省海軍省告示

- 一 軍人恩給法第二十一條第五項ニ依リ從軍年加算ノ件左ノ通勅裁ヲ經タリ
- 出征軍ニ編入セラレサルモ戰地ニ在リテ服務シタル者ハ二箇年
  - 特別ノ任務ヲ受ケ戰地ニ往復シタル者及ヒ内地ニ在リテ戰役ニ關スル勤務ニ從事シタル者ハ一箇年
  - 前二項實役年ニ對スル加算ノ方法ハ軍人恩給法第二十三條ヲ準用ス

【二】日露戰役ニ關シ從軍年加算方

明治三八年三月  
陸軍省海軍省告示

- 一 今回ノ戰役ニ關シ軍人恩給法第二十一條第五號ニ依リ從軍年ヲ加算スル件左ノ通勅裁ヲ經タリ
- 出征軍ニ編入セラレサルモ戰地ニ在リテ服務スル者ハ二箇年
  - 特別ノ任務ヲ受ケ戰地ニ往復シタル者及戰地以外ニ在リテハ戰役ニ關スル勤務ニ服シ主務大臣ニ於テ成績アリト認めタル者ハ一箇年

- 一 前二項ノ從軍年加算ニ關シテハ軍人恩給法第二十三條ヲ準用ス

- 一 今回ノ戰役ニ關スル從軍年加算ノ方法ハ左ノ各號ニ依ル
- 一 動員部隊ニ屬スル者ハ動員下令ノ日ヨリ復員ノ日マテ加算ス但シ動員下令後部隊編入ノ者ハ編入ノ日ヨリ加算ス
  - 二 昨年二月六日以後戰地ニ派遣セラレタル者ハ内國港灣出發ノ日ヨリ内國港灣歸著ノ日マテ加算ス
  - 二 清國又ハ韓國ニ在ル者ニシテ出征軍ニ編入セラレタル者ハ其ノ編入ノ日ヨリ内國港灣歸著ノ日マテ加算ス
  - 四 戰役前ヨリ清國又ハ韓國ニ在ル者ハ其ノ所在地ト爲リタル日ヨリ内國港灣歸著ノ日マテ加算ス
  - 五 臨戰合圍地境内ニ服務スル者ハ戒嚴令施行ノ日ヨリ其ノ解除ノ日マテ加算ス
  - 六 戰地以外ニ在リテ戰役勤務ニ服スル者ハ戰時増給ヲ受クル日ヨリ給與停止ノ日マテ加算ス
  - 七 從軍年加算ハ戰役終了ノ日ヲ以テ之ヲ止ム

【一三】海軍軍人從軍年調查現則

明治三十四年一〇月  
海軍省達第一四三號

- 第一條 軍人恩給法ニ依リ加算スヘキ海軍軍人ノ從軍年調査ハ別ニ規定アルモノノ外本規則ニ依ル
- 第二條 外國居留帝國臣民保護ノ爲派遣セラレル艦船ノ乘組海軍軍人ハ軍人恩給法第二十一條第四號ニ該當スルモノトス
- 第三條 外國派遣ノ艦船ニ乘組タル海軍軍人ノ從軍年ハ其ノ艦船最終ニ帝國港灣ヲ出發シタル日ヲ以テ其ノ始期トシ其ノ艦船最初ニ帝國港灣ニ到着シタル日ヲ以テ其ノ終期トス
- 第四條 外國ニ於テ製造若ハ購入セシ帝國艦船乘組海軍軍人ノ從軍年ハ其ノ艦船ヲ受領シタル日ヲ以テ其ノ始期トス
- 第五條 外國ニ在ル帝國艦船ニ乘組テ命セラレタル海軍軍人ノ從軍年ハ其ノ艦船ニ乘組タル日ヲ以テ始期トシ其ノ乘組ヲ免セラレタル者ノ從軍年ハ其艦船ヲ退キタル日ヲ以テ終期トス
- 第六條 海軍ニ於テ使用スル船舶ニジテ命令ニ依リ

外國ニ航海スルモノハ海軍ノ艦船ニ準シ其ノ乘組海軍軍人ノ從軍年ヲ計算ス  
陸軍ニ於テ使用スル船舶ニシテ海軍軍人ノ乘組タルモノハ前項ニ準ス  
第七條 海軍軍人ノ從軍年始終期ヲ調査スル爲軍務局ニ於テ艦船從軍年始終期ヲ調査シ毎年一回若ハ數回適宜ノ時期ニ於テ之ヲ海軍部内關係ノ向ヘ配付セシム

乙 朝鮮臺灣樺太

【一】朝鮮臺灣又ハ樺太ニ服役スル軍人ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル件

明治三十三年三月  
法律第七六號

- 第一條 朝鮮臺灣又ハ樺太ニ於テ服役スル軍人ニシテ六箇月以上引續キ服役シタル者ニハ軍人恩給法ノ服役年數計算ニ於テ其ノ服役一箇月ニ對シ現役外ノ年月トシ半箇月ヲ加算ス但シ從軍年又ハ外國航海年ノ加算アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ニ依リ加算シタル年月數ハ官吏恩給法ニ於テ在官年數中ニ算入ス
- 第一項ノ加算ハ朝鮮臺灣ニ到着シタル日ニ始マル
- 第二條 臺灣ニ於テ服役スル軍人ニシテ六箇月以上引續キ服役シタル者臺灣ニ於テ風土病又ハ流行病ニ罹リ軍人恩給法第四條第三號ニ準スヘキ者ニハ退職恩給、免除恩給及增加恩給ヲ給ス其ノ之ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ニハ同法第十四條第二號ニ準シ賑恤金ヲ給ス
- 前項ノ疾病ニ罹リ之カ爲現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者ニハ軍人恩給法第十一條ノ規定ニ準シ相當ノ恩給ヲ給ス

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 乙

朝鮮臺灣樺太

三〇九

第三條 臺灣ニ於テ服役スル軍人臺灣ニ於テ風土病又ハ流行病ニ罹リ現役中死去シタルトキ又ハ之カ爲現役ヲ離レタル後其ノ疾病ノ爲死去シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ軍人恩給法ノ規定ニ依リ其ノ遺族ニ扶助料ヲ給ス

- 一 第一條ノ服役六箇月未滿ナルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ一
- 二 第一條ノ服役六箇月以上ナルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ二
- 第四條 前二條ノ風土病及流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス
- 第五條 本法第二條及第三條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ臺灣ニ服役スル者ニ關シテハ本法施行前ヨリノ服役月數ニモ之ヲ適用ス

【二】臺灣在勤官吏及服役軍人ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律中風土病及流行病ノ種類指定ノ件

明治三十三年四月  
勅令第一七三號

一 明治三十三年法律第七十五號第四條及同年法律第七十六號第四條ニ依ル風土病及流行病ハ左ノ十五種トス



○年金恩給 政府官吏 文官恩給 丙

癩病院

軍人恩給法第九條第一項第二號以上ノ不具癩疾者ニシテ救護ヲ要スヘキ特別ノ事情アル者ハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ收容スルコトヲ得

前項被服ハ初度現品ヲ備附シ爾後新調補修料トシテ現人員ニ應シ定額ヲ交付シ院長ニ其ノ經理ヲ委任ス

一 癩病院ニ收容スル順序ハ左ノ各號ヲ參酌シ救護ノ必要多キ者ヲ先ニス(第八條)

一 癩病院ニ收容シタル者傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ病院ニ於テ治療ヲ要スルトキハ所在地衛戍病院ニ收療ス(第十三條)

二 資産ノ多少及勞役ノ能否

一 癩病院ニ收容シタル者ハ服役ヲ免セラレタル當時ノ官等級ニ應シ現役陸軍軍人ト看做シ陸軍懲罰令ノ規定ヲ適用ス但シ下士兵卒タリシ者ハ營内居住者ノ例ニ依ル(第十四條)

三 扶養義務者其ノ他救護ヲ爲ス者ノ有無

一 癩病院ニ收容シタル者入院中死亡シタルトキハ士官以上ニ在リテハ三十圓以内准士官ニ在リテハ二十圓以内其ノ他ノ者ニ在リテハ十五圓以内ノ費用ヲ以テ官ニ於テ埋葬ス但シ遺族又ハ故舊ヨリ遺骸ノ引渡ヲ請フ者アルトキハ埋葬料トシテ本條ノ金額ヲ支給ス(第七五條)

四 年齢ノ多少

一 癩病院ハ圖書器物等ノ寄附ヲ受ケ各其ノ目的一使用スルコトヲ得(第十六條)

五 品行ノ良否

一 癩病院ニ收容シタル者ニハ入院ノ日ヨリ退院ノ日迄本人ノ受クヘキ増加恩給月割額三分ノ一ニ相當スル金額ヲ毎月手當トシテ支給ス但シ死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ月ノ全額ヲ給ス(第十條)

六 其ノ他生活ニ關スル各種ノ狀況

一 癩病院ニ收容シタル者ニ其ノ經理ヲ委任ス其ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム(第十一條)

一 癩病院ニ收容シタル者ニハ入院ノ日ヨリ退院ノ日迄本人ノ受クヘキ増加恩給月割額三分ノ一ニ相當スル金額ヲ毎月手當トシテ支給ス但シ死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ月ノ全額ヲ給ス(第十條)

一 癩病院ニ收容シタル者ノ糧食ハ現人員ニ應シ定額ヲ交付シ院長ニ其ノ經理ヲ委任ス其ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム(第十一條)

一 癩病院ニ收容シタル者ニハ所要ノ被服ヲ支給シ又ハ貸與ス(第十二條)

丁 死傷手當

【一】陸軍士官ノ候補者及陸軍諸生徒死傷手當金給與ノ件

明治四一年七月勅令第一七三號

第一條 陸軍軍人ト爲ルヘキ士官ノ候補者及陸軍諸生徒ニシテ演習ノ爲死傷シ又ハ演習ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ將來服役ニ堪ヘス兵籍ヲ除キ又ハ退校ヲ命シタル者ニハ左ノ各號ニ依リ一時限リ手當金ヲ給スルコトヲ得

【二】海軍候補生及海軍諸生徒死傷手當金給與ノ件

明治四一年八月勅令第一九五號

第一條 海軍候補生及海軍諸生徒ニシテ演習ノ爲死傷シ又ハ演習ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ將來服役ニ堪ヘス兵籍ヲ除キ又ハ退校ヲ命シタル者ニハ左ノ各號ニ依リ一時限リ手當金ヲ給スルコトヲ得

一 軍人恩給法第九條各號ノ一ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ同法第三號表乙號ノ金額六分

一 軍人恩給法第九條各號ノ一ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ同法第三號表乙號ノ金額六分

二 前號ヨリ輕症ナル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ軍人恩給法第三號表乙號第六項ノ金額一年乃至五年分

二 前號ヨリ輕症ナル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ軍人恩給法第三號表乙號第六項ノ金額一年乃至五年分

三 死傷シタルトキハ軍人恩給法第二號表十一年ノ金額四年分

三 死傷シタルトキハ軍人恩給法第五號表乙號ノ金額六年分

第二條 前條ニ依リ給與スヘキ金額ハ下士ノ階級ニ在リタル者ハ判任官四等ノ額其ノ他ハ陸軍二等卒ノ額ニ依ル

第二條 前條ニ依リ給與スヘキ金額ハ海軍候補生ニ在リテハ判任官三等ノ額其ノ他ハ海軍四等卒ノ額ニ依ル

第三條 手當金ハ傷痍疾病ノ場合ニ在リテハ本人ニ死傷ノ場合ニ在リテハ軍人恩給法ノ規定ニ準シ遺

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 丁

死傷手當

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 丁 死傷手當

第三條 手當金ハ傷疾疾病ノ場合ニ在リテハ本人ニ死歿ノ場合ニ在リテハ軍人恩給法ノ規定ニ準シ遺族ニ給ス

【三】海軍候補生及諸生徒傷疾疾病輕重ノ等差並其ノ取扱手續準用ノ件

明治四十一年八月  
海軍省令第一〇三號

一明治四十一年勅令第九十五號ニ依ル傷疾疾病輕重ノ等差ハ明治二十六年一月達第二號海軍軍人傷疾疾病恩給等差例ニ準據シ其ノ取扱ニ付テハ三十三年十二月達第七十一號恩給扶助取扱手續ヲ準用ス

【四】朝鮮臺灣滿洲樺太並在外陸海軍雇員傭人死傷手當給與規則

明治三〇年四月  
勅令第一四三號

(別表) 死歿傷疾疾病手當金表

區分	陸海軍省雇員		官衙部	
	常時雇員	臨時傭人	常時雇員	臨時傭人
死亡(甲)	祭料 三十圓	祭料 二十五圓	月俸二十八圓以上ノ者 月俸十五圓以上二十八圓未滿ノ者 月俸十五圓未滿ノ者	月俸十五圓以上二十八圓未滿ノ者 月俸十五圓未滿ノ者
手當(扶)	助料 百二十圓	助料 百圓	百圓	百圓

傷疾疾病手當	一	二	三	四	五	六	七
一	兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ヲ亡シタルモノ	前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノ	一肢ヲ亡シ若ハ二肢ノ用ヲ失ヒタルモノ	前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノ	一眼ヲ盲シ若ハ一肢ノ用ヲ失ヒタルモノ	前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノ	前項ニ比シ一層輕キモノ
百五十圓	百十五圓	百圓	九十圓	八十圓	七十圓	六十圓	五十圓
九十圓	八十圓	七十圓	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十圓
八十圓	七十圓	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十圓	十圓
六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十圓	十圓	五圓	四圓乃至十圓
五十圓	四十圓	三十圓	二十圓	十圓	五圓	四圓乃至十圓	二圓五十錢乃至十圓
四十圓	三十圓	二十圓	十圓	五圓	四圓乃至十圓	二圓五十錢乃至十圓	一圓五十錢乃至十圓

【五】朝鮮臺灣滿洲樺太並在外陸軍雇員傭人死傷手當金給與細則

明治三〇年五月  
陸軍省令第一二二號

第一條 本則本則トハ明治三十年勅令第一百四十三號ヲ云フ以下條之ニ依リ手當金ヲ受ントスルモノハ左ノ書類ヲ具シ居住地若クハ本籍ノ道廳長官府縣知事ニ願出ヘシ

一 願書 死歿者ニ在テハ出願者ノ外親戚若クハ

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 丁 死傷手當

二 居住地戸主二名連署シ市町村長ノ證明シタルモノ  
三 身分證明書 職務並給料ニ就テ所屬長ヨリ下付スルモノ  
四 死亡證書若クハ診斷書 主任醫官ヨリ下付セルモノ  
但シ此證書ニハ其傷疾疾病公務ニ基因セルコトヲ明記シ尙診斷證書ニハ陸軍軍人傷疾

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 丁

死傷手當

疾病恩給等差例ヲ適用シ其輕重ヲ明記スヘシ

三 死亡證明書若クハ診斷證書 主任醫官ヨリ下付セルモノ

四 戶籍調書 市町村長若クハ之ニ準スルモノノ證明セシモノ(死役者ニ限ル)

但シ此證書ニハ其傷疾疾病公務ニ基因セルコトヲ明記スヘシ

第二條 道廳長官府縣知事前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ陸軍大臣ニ進達スヘシ

四 戶籍調書 市町村長若クハ之ニ準スルモノノ證明セシモノ

第三條 本則第二條ノ遺族トハ死役者同戶籍ニ在ル寡婦孤兒父母祖父母兄弟姉妹トス

第二條 道廳長官府縣知事前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ海軍大臣ニ進達スヘシ

但シ死亡手當金ハ寡婦ニ給シ寡婦ナキトキハ孤兒ニ以下本文ノ順序ニ據ル

第三條 扶助料又ハ弔祭料ヲ受ケヘキ遺族ハ死者ト同戶籍ニ在ル寡婦孤兒父母祖父母兄弟姉妹トス

第四條 本則ニ依リ手當金ヲ受クヘキモノノ出願期限ハ其事故ノ生シタル日ヨリ三箇年以内トス

第四條 勅令第四百三十三號ニ依リ手當金ヲ受クヘキモノノ出願期限ハ其事故ノ生シタル日ヨリ三箇年以内トス

【六】朝鮮臺灣滿洲樺太並在外海軍雇員 傭人死傷手當金給與細則

第一條 明治三十年勅令第四百三十三號ニ依リ手當金ヲ受ントスルモノハ左ノ書類ヲ具シ居住地若クハ本籍ノ道廳長官府縣知事ニ願出ヘシ

明治三〇年五月 海軍省令第五號

一 願書 死役者ニ在テハ出願者ノ外親戚若クハ居住地戶主二名連署シ市町村長ノ證明シタルモノ

一 就業引續キ滿十年以上二十五年未滿ニシテ死亡シ又ハ官廳ノ都合ニ依リ退業セシメラレタルトキ

二 身分證明書 職務並給料ニ就テ所屬長ヨリ下付セルモノ

二 業務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキ

戊 職工人夫扶助

【一】砲兵工廠職工扶助令

明治三五年七月 勅令第一九一號

第一條 本令ニ於テ職工ト稱スルハ東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ定期職工ヲ謂フ

三 業務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ前條第一項第二號ヨリ輕症ニシテ其ノ業務ニ堪ヘス退業シタルトキ

本令ニ於テ遺族ト稱スルハ職工ノ配偶者、子、父母、孫、祖父及祖母ニシテ職工死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル者ヲ謂フ但シ職工死亡後出生シタル嫡出ノ子ハ死亡ノ當時其ノ家ニ在ル者ト看做ス

四 前條第一項ニ該當スル者終身年金若クハ之ニ代ハル一時賜金ヲ受ケ又ハ修身年金ヲ受ケルコト五年未滿ニシテ死亡シタルトキ

本令ニ於テ滿期ト稱スルハ就業引續キ滿二十五年ニ達シタルトキヲ謂フ

前項第二號及第三號ノ場合ニ於テハ就業年數二十年ヲ加算ス但シ之方爲滿二十五年以上ニ達スルトキハ前條及前項第四號ノ規定ニ依リ扶助金ヲ給ス

第二條 職工及遺族ニハ本令ニ依リ扶助金ヲ給ス

第五條 職工死亡ノ後ニ於テ與フヘキ扶助金ハ其ノ遺族ニ給ス

第三條 職工左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ終身年金ヲ給ス

第六條 終身年金額ハ滿期又ハ退業前三箇年ノ給料平均月額ノ三倍トス

一 滿期ニ達シタルトキ

扶助金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ第一條第二項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順序内ニ於テハ男ハ女ニ先チ長ハ幼ニ先チ但シ死亡者ノ家督相續人ハ同順序内ニ在リテハ最先トス

二 業務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者其ノ業務ニ堪ヘス退業シタルトキ

前項ニ該當スル場合ニ於テ請求アルトキハ終身年金ニ代ヘ一時賜金ヲ給ス

第四條 職工左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ一時賜金ヲ給ス

一、砲兵工廠職工扶助令

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 戊

三一七



第七條 一時賜金額ハ就業最終三箇年ノ給料平均月

額五分ノ二ヲ就業年數ニ乗シタル金額トス

第三條第二項及第四條第一項第四號ノ場合ニ於ケ

ル一時賜金額ハ終身年金額ノ五倍トス但シ既ニ給

シタル金額並第十七條第二項及第十九條ニ依リ給

セラレサル金額ハ之ヲ控除ス

第八條 前二條ノ場合ニ於テ就業三箇年ニ滿タサル

トキハ其ノ就業中ノ給料平均月額ニ依リテ扶助金

額ヲ定ム

第九條 前三條ノ場合ニ於ケル給料月額ハ其ノ月ノ

最高及最低ノ辭令而日給ノ平均額ノ三十倍トス

第十條 扶助金ヲ受ケ又ハ受ケタル者引續キ又ハ再

就業シ復第三條又ハ第四條ニ該當スルニ至リタル

トキハ更ニ扶助金ヲ給ス

第十一條 就業年數ハ職工就業ノ翌月ニ始マリ滿期

又ハ最終就業ノ月ニ終ル

東京大阪 砲兵工廠ノ間ニ於ケル轉勤ハ就業年數

ノ繼續ヲ妨ケス

第十二條 私事ノ故障又ハ業務ニ起因セサル疾病ニ

因リ休業十五日以上ニ及ヒタル月數ハ之ヲ就業年

數ニ算入セス

第十三條 扶助金額單位未滿ハ單位ニ滿タシム

第十四條 終身年金ノ支給ハ滿期又ハ退業ノ翌月ニ

始マリ死亡ノ月ニ終ル

第十五條 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルカ爲又ハ職

工服務ニ關スル規程ニ違反シタルカ爲退業ヲ命セ

ラレタル者ニハ其ノ退業前ノ就業年數ニ對シテハ

一時賜金ヲ給セス

第十六條 終身年金ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者ニ對シテ

公訴ノ提起アリタルトキハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫

屬スル間第三條第二項ニ依ル請求ヲ爲スコトヲ得

ス公訴ノ提起前ニ爲シタル請求ハ其ノ效力ヲ失フ

第十七條 終身年金ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者公權ヲ剝

奪セラレ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキハ其ノ以後ノ

終身年金ヲ給セス

終身年金ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者公權ヲ停止セラレ

タルトキハ其ノ期間ノ終身年金ヲ給セス

一時賜金ヲ受ケヘキ者第一項ニ該當シタルトキハ

之ヲ給セス但シ遺族ナルトキハ第五條第二項ノ順

位ニ依リ之ヲ轉給ス

第十八條 扶助金ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル後

一箇年以内ニ請求セサルトキハ之ヲ受ケルノ資格

ヲ失フ

第十九條 終身年金ヲ受ケル者其ノ支給期限後六箇

月以リニ請求セサルトキハ其ノ年數額ヲ給セス

第二十條 本令ニ依ル一 賜金ノ給付役職工人夫扶

助令ニ依ル扶助金ノ最高額ヨリ少キトキハ其ノ額

ニ達スル迄増給スルコトヲ得

第二十一條 扶助金ニ關スル裁定ハ主務官廳之ヲ行

フ

(附則)本令施行ノ際定期職工ヲ命セラレタル者ノ本

令施行前引續キ就業シタル年月數ハ之ヲ折半シテ

本令ヲ適用ス但シ未成年又ハ職工見習中ノ就業日

數ハ此ノ限ニ在ラス(第二十二條)

【二】砲兵工廠職工扶助令細則

明治三十五年八月  
陸軍省令第二六號

第一條 砲兵工廠職工扶助令ニ依リ扶助金ヲ請求ス

ル者ハ其請求書ヲ當該砲兵工廠提理ニ差出スヘシ

第二條 本人ヨリ請求スル場合ニ於テハ就業履歷書

ヲ添附スヘシ

業務ノ爲メ傷痍疾病ニ罹リタル者ニ在リテハ前項

ノ外尙現認證書診斷證書ヲ添附スヘシ

第三條 遺族ヨリ請求スル場合ニ於テハ就業履歷書

及戸籍謄本ヲ添附スヘシ

業務ノ爲メ死亡シタル者ノ遺族ニ在リテハ前項ノ

外尙現認證書及死亡證書若ハ屍體檢案書ヲ添附ス

ヘシ

一、砲兵工廠職工扶助令

始マリ死亡ノ月ニ終ル

第十五條 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルカ爲又ハ職

工服務ニ關スル規程ニ違反シタルカ爲退業ヲ命セ

ラレタル者ニハ其ノ退業前ノ就業年數ニ對シテハ

一時賜金ヲ給セス

第十六條 終身年金ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者ニ對シテ

公訴ノ提起アリタルトキハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫

屬スル間第三條第二項ニ依ル請求ヲ爲スコトヲ得

ス公訴ノ提起前ニ爲シタル請求ハ其ノ效力ヲ失フ

第十七條 終身年金ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者公權ヲ剝

奪セラレ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキハ其ノ以後ノ

終身年金ヲ給セス

終身年金ヲ受ケ又ハ受ケヘキ者公權ヲ停止セラレ

タルトキハ其ノ期間ノ終身年金ヲ給セス

一時賜金ヲ受ケヘキ者第一項ニ該當シタルトキハ

之ヲ給セス但シ遺族ナルトキハ第五條第二項ノ順

位ニ依リ之ヲ轉給ス

第十八條 扶助金ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル後

一箇年以内ニ請求セサルトキハ之ヲ受ケルノ資格

ヲ失フ

第十九條 終身年金ヲ受ケル者其ノ支給期限後六箇

月以リニ請求セサルトキハ其ノ年數額ヲ給セス

第二十條 本令ニ依ル一 賜金ノ給付役職工人夫扶

終身年金ヲ受ケルコト五年未滿ニシテ死亡シタル

者ノ遺族ニ在リテハ就業履歷書ニ代ヘ年金證書ヲ

添附スヘシ

第四條 職工扶助令第十七條第三項但書ノ場合ニ在

リテハ前條ノ書類ノ外尙其事實ヲ證明スヘキ證據

書類ヲ添附スヘシ

第五條 扶助金ノ請求書ヲ受ケタル砲兵工廠提理ハ

查覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ當該職工

ノ就業年數ニ對スル扶助金額計算書ヲ添ヘ順序ヲ

經テ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 陸軍省ニ於テ扶助金ノ請求ヲ許可シタルト

キハ證書ヲ作り當該砲兵工廠ヲ經テ之ヲ請求者ニ

交付ス

第七條 扶助金ハ當該砲兵工廠ヨリ請求者ニ交付ス

第八條 終身年金ハ毎年三月ニ於テ之ヲ支給ス

前項金額ノ支給ヲ受ケントスル者ハ第二號書式ニ

示シタル年金請求書ニ市町村長ヨリ其正當受給者

タル證明ヲ受ケ支給期月前ニ當該砲兵工廠ニ差出

スヘシ但シ支給期月以後六箇月内ニ該請求書ヲ差

出シタルモノハ次ノ支給期ニ於テ之ヲ支給ス

第九條 終身年金ヲ受ケル者死亡シ又ハ公權ヲ剝奪

若ハ停止セラレ又ハ國籍ヲ喪失シタルトキハ其遺

族又ハ本人ヨリ當該砲兵工廠ヘ届出ヘシ

二、砲兵工廠職工扶助令細則

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 戊 二、砲兵工廠職工扶助令細則 三二〇

第十條 終身年金證書ヲ亡失シタル者ハ再下付ヲ當該砲兵工廠ヘ請求スヘシ  
 第十一條 終身年金ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ其證明書ニ終身年金證書ヲ添ヘ當該砲兵工廠ヘ届出ヘシ  
 前項ノ場合ニ於テハ當該砲兵工廠ハ終身年金證書裏面ニ其事實ヲ記載シ提理署名捺印ノ上本人ニ交付スヘシ  
 第十二條 第九條及前條第二項ノ場合ニ於テハ當該砲兵工廠ヨリ其旨順序ヲ經テ陸軍省ヘ報告スヘシ  
 第十三條 本細則ニ要スル就業履歷書ハ第一號書式、年金請求書ハ第二號書式、現認證書ハ第三號書式、診斷證書ハ第四號書式、死亡證書ハ第五號書式、屍體檢案書ハ第六號書式、扶助金額計算書ハ第七號書式トス  
 第一號書式

就業履歷書

原籍府(縣)市區(郡)町(村)番地  
 寄留同

故(元)東京(大阪)氏 名  
 砲兵工廠定期職工 氏 名  
 年月日生

明治何年何月何日 職工見習

同 何年何月何日 職工拜命  
 同 何年何月何日 定期職工拜命  
 同 何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル何十日間(十五日以上ノ日數)私事休業  
 同 何年何月何日 東京(大阪)砲兵工廠ヘ轉勤  
 同 何年 給料平均月額何圓何拾錢  
 同 何年 給料平均月額何圓何拾錢  
 同 何年 給料平均月額何圓何拾錢  
 同 何年何月何日 業務ノ爲死亡  
 右相違無之依テ證明ス  
 大正 年 月 日  
 東京(大阪) 砲兵工廠提理 氏 名 印

(備考)

一 滿期又ハ退業前三箇年若ハ業就最終三箇年ノ給料平均月額ハ各年毎ニ記載スヘシ  
 二 遺族ニハ砲兵工廠ヨリ本履歷書ヲ下付スヘシ

第二號書式

年金請求書  
 一金何圓也  
 但大正何年三月渡ノ分  
 右請求候也

第四號書式

診斷證書

何砲兵工廠 定期職工 氏 名  
 右何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際何部ニ何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)直ニ何所ニ於テ一時ノ處置ヲ施シ何月何日某病院ニ入院當時ノ症狀何々(何々症ヲ繼(併)發ス)依テ何々部ニ何々ノ手術(何々ノ療法)ヲ施シ爾後經過何々ニシテ現今創面(何々)ハ治癒スト雖モ何々ノ部ハ其用ヲ妨クルニ由リ砲兵工廠職工扶助令第何條第何項第何號ニ該當スル症ト診斷候也  
 年 月 日  
 主任 職 官 氏 名 印  
 再診 職 官 氏 名 印

(備考)

一 傷疾疾病ノ原因症候(傷疾ノ種類、部位、深淺等、疾病ノ輕重併發症、繼發症等)經過、療法及ヒ現時官能障礙ノ景況ヲ詳記スヘシ  
 二 地方醫師ノ調製シタル診斷證書ニアリテハ醫師二名連署スヘシ

第三號書式

現認證書

何砲兵工廠 定期職工 氏 名  
 右何年何月何日午前(後)何時何地ニ於テ何々ノ際何ノ爲メ何部ニ何傷ヲ受クルヲ現認候也  
 年 月 日  
 職 官 氏 名 印  
 職 官 氏 名 印

(備考)

本證書ハ勉メテ受傷ノ現況ヲ詳記スヘシ  
 現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニテ之ヲ作ルヘシ

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 戊 二、砲兵工廠職工扶助令細則 三三二

第五號書式

死亡證書

何砲兵工廠

定期職工 氏 名

右何年何月何日何所ニ於テ何々ノ際何部ニ何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)爾後何病院ニ於テ治療候處(何々症ヲ繼(併)發シ)遂ニ何々ニ由リ本日午前(後)何時何分死亡候也

年 月 日

(備考) 主任ノ醫師之ヲ調製スルモノトス 職 官 氏 名 印

第六號書式

屍體 檢 案 書

何砲兵工廠

定期職工 氏 名

右何年何月何日午前(後)第何時何所ニ於テ檢案候處傷痕ノ狀況(部位、方向、淺深、廣狹、長短、創縁及創口ノ大小、銳鈍、出血ノ多少等)何々ニシテ何部ニ何々創ヲ受ケ致命シタルモノト考察候也

年 月 日

(注意)

本書式ハ其一例ヲ示スニ過キス總テ立會者アルトキハ其官氏名ヲモ記シ死體ノ位置其他一般ノ狀況ヲ詳悉スヘシ

職 官 氏 名 印

第七號書式

扶助金額計算書

明治十年	一月九日	職工見習
同 年	五月三十一日	除算

元東京(大阪)砲兵工廠定期職工

氏 名

年 月 日 生

校合者一印

同 年	六月一日	職工拜命	未成年ニ付除算
同 年	六月一日	就	業
同 十三年	一月四日	就	業
同 年	同月五日	就	業
同 二十五年	五月三十一日	就	業
同 年	六月一日	十五日以上私事休業	除算
同 年	同月三十一日	就	業
同 三十五年	七月一日	就	業
同 年	八月三十一日	就	業
明治三十五年	九月一日	定期職工拜命	計
同 年	十月一日	就	業
同 三十九年	十月二十日	業務ノ爲メ負傷退業	除算
同 年	同月	業務ノ爲メ負傷退業	四年一箇月

二十二年七箇月 折申 十一年三箇月中

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 戊 三、職工人夫扶助金支給細則 三二四

明治三十七年	給料	平均	參拾圓	業務負傷加算 十箇年 總計二十五年四箇月半 年金額百參拾五圓 明治四十年三月初度給額金五拾六圓貳拾五錢
	同	同	四拾五圓	
	同	同	六拾圓	

明治 年 月 日

東京(大阪)砲兵工廠提理 氏

名 印

輪廓及罪ハ朱トス

(備考)

一 一時賜金ニ係ル計算書ニハ年金ノ區畫ニ一時賜金何圓ト記スヘシ但年金額ヲ一時賜金ニ代ヘタル場合ハ年金額ヲモ記スヘシ  
二 年金ヨリ一時賜金ニ轉スルモノハ年金額控除金額及ヒ支給金額ヲモ記スヘシ

【三】職工人夫扶助金支給細則

明治四〇年六月  
海軍省建第七五號

第一條 海軍ニ使役スル職工人夫其ノ他ノ傭人自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ業務上傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ官役職工人夫扶助令ニ依リ支給スヘキ扶助金ハ別表ノ區別ニ依ル但シ療養ノ爲休業中賃錢若ハ給料ヲ受ケ

ル者ニハ之ニ對スル給助料支給ノ限ニ在ラス  
第二條 前項ニ依リ職工人夫ニ扶助金ヲ支給スヘキ者アルトキハ所轄艦團其ノ他各部ノ長ハ傷痍疾病又ハ死亡ノ原由及其ノ輕重ヲ審査シ給額ヲ定メ診斷書並現認者ノ現認證書又ハ之ニ準スヘキ書類ヲ添ヘ所管長官ニ具申シ其ノ承認ヲ受ケ之ヲ支給スルモノトス  
前條ニ依リ職工人夫ニアラサル傭人ニ扶助金ヲ支

給スヘキモノアルトキハ前項ノ例ニ依リ所管長官ヲ經由シ海軍大臣ニ具申シ其ノ認許ヲ受ケ之ヲ支給スルモノトス  
第三條 前條ノ扶助金ハ該艦團其ノ他各部ニ於テ支

給スルモノトス但シ艦船ニ於テ支給スヘキ扶助金ニ限リ其ノ所管鎮守府所在地經理部ニ依託シ支給スルコトヲ得

(別表)

名稱	區	別	給額
療治料	官費治療ヲ受ケサル者	實費	日給 二分ノ一
		療養ノ爲休業中ノ者	日給 四十日分以上 五十日分以下
		治療二箇月以上ヲ要スル見込ヲ以テ解傭シタル者	日給 三十日分以上 四十日分以下
給助料	治療一箇月以上ヲ要スル見込ヲ以テ解傭シタル者	兩眼ヲ盲シタル者	日給 百七十日分
		二肢ヲ亡シタル者	日給 百六十日分
		咀嚙言語ノ機能ヲ併セ廢シタル者	日給 百二十日分
不具癱	終身業務ヲ營ムコト能ハサル者	一肢ヲ亡シタル者	日給 百十日分
		二肢ノ用ヲ廢シタル者	
		不具者ハ癱疾ト爲リ時々介護ヲ要スル者	
不具癱	終身自用ヲ辨スルコト能ハサル者	內臟ノ機能ヲ大ニ妨クルニ至リタル者	
		不具者ハ癱疾ト爲リ常ニ介護ヲ要スル者	
		咀嚙言語ノ機能ヲ大ニ妨クルニ至リタル者	

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 戊 三、職工人夫扶助金支給細則 三二五

備	葬祭料	助料		疾者扶
		其ノ他	ノ不具	
一	自己ノ重大ナラサル過失ニ因ル者	第一趾ヲ用テ除キ他ノ三趾ヲ失シタル者	第一趾ヲ用テ除キ他ノ三趾ヲ失シタル者	日給 五十五日分
二	自己ノ重大ナラサル過失ニ因ル者	第一趾ヲ用テ除キ他ノ三趾ヲ失シタル者	第一趾ヲ用テ除キ他ノ三趾ヲ失シタル者	日給 五十五日分
三	自己ノ重大ナラサル過失ニ因ル者	第一趾ヲ用テ除キ他ノ三趾ヲ失シタル者	第一趾ヲ用テ除キ他ノ三趾ヲ失シタル者	日給 五十五日分
四	自己ノ重大ナラサル過失ニ因ル者	第一趾ヲ用テ除キ他ノ三趾ヲ失シタル者	第一趾ヲ用テ除キ他ノ三趾ヲ失シタル者	日給 五十五日分
五	自己ノ重大ナラサル過失ニ因ル者	第一趾ヲ用テ除キ他ノ三趾ヲ失シタル者	第一趾ヲ用テ除キ他ノ三趾ヲ失シタル者	日給 五十五日分

考	備
一	給助料及遺族扶助料ハ傷痍疾病又ハ死亡ノ原由及傷痍疾病ノ輕重ニ從ヒ各給額ノ欄ニ掲ケル範圍内ニ於テ適宜給額ヲ定ムルモノトス
二	不具傷痍者扶助料ノ欄ニ掲ケル各號ノ一ニ當ルモ其ノ症狀ノ輕キトキ又ハ患肢ノ左側ナルトキハ相當給額ノ内ヨリ日給十日分以下ヲ減給スルモノトス
三	前二號ニ依リ増給若ハ減給スルモ官役職工人夫扶助令別表ニ掲ケル最上限ヲ越ヘ又ハ最下減ヨリ減スルコトヲ得ス
四	各號中某部ヲ失ストアルハ其ノ一部分ヲ失ヒタルモノヲ包含シ某部ノ用ヲ廢ストアルハ僅ニ其ノ機能ヲ存スルモ作用上之ヲ廢スルニ等シキ者ヲ包含ス又各號ニ掲ケル以外ノ傷痍疾病ハ各號ニ比準シテ其ノ給額ヲ定ムルモノトス
五	額ノ外尙ホ日給二十日分以上ヲ増給スルモノトス

(備考) 官役職工人夫扶助令ハ第八節ニアリ

【二】大正二年勅令第九號ニ依ル一時賜金給與細則 大正二年二月 陸軍省令第一號

第一條 陸軍所管ノ者又ハ其ノ遺族ニシテ大正二年勅令第九號ニ依リ一時賜金ヲ受ケムトスルトキハ請求書ニ左ニ掲グル書類ヲ添ヘ陸軍大臣ニ差出スヘシ

一 死亡者賜金ノ場合ニ在リテハ死亡認定證書、死亡證書及航空者ノ死亡ヲ登記シタル戸籍謄本

二 不具癱疾者賜金ノ場合ニ在リテハ傷痍認定證書及診斷證書

第二條 前條ノ死亡認定證書及傷痍認定證書ニハ所屬部隊、官等級氏名、官等級ナキ者ハ身分給料額及死亡又ハ負傷ノ原因ヲ記載シ、死亡證書及診斷證書ニハ死亡シ又ハ傷痍ニ原因シ不具癱疾ト爲リタル症狀ノ經過ヲ詳記スルモノトス

第三條 死亡又ハ傷痍認定證書ハ航空演習ヲ監督セル將校ニ於テ調製シ氣球隊長又ハ臨時軍用氣球研究會長ノ承認ヲ經、死亡證書又ハ診斷證書ハ主任軍醫ニ於テ調製シ一時賜金ヲ受ケヘキ本人又ハ遺族ニ交付スヘシ但シ退職、解雇後若ハ自己治療中死亡シタル者ニ付テハ死亡證書又ハ診斷證書ハ主

治醫ノ調製セルモノヲ添附スヘシ  
【三】大正二年勅令第九號ニ依ル一時賜金給與細則 大正二年二月 海軍省令第四號

第一條 海軍所管ノ者又ハ其ノ遺族ニシテ大正二年勅令第九號ニ依リ一時賜金ヲ受ケムトスル者ハ請求書ニ左ニ掲グル書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ差出スヘシ

一 治療ヲ俟タスシテ死亡シタル者ノ遺族ヨリ請求ノ場合ニ在リテハ事實證明書、死體檢案書、死體ヲ收容シ能ハサルトキハ之ヲ要セス及戸籍謄本

二 治療中死亡シタル者又ハ不具癱疾トナリ其ノ一時賜金ヲ受ケスシテ死亡シタル者ノ遺族ヨリ請求ノ場合ニ在リテハ事實證明書、負傷若ハ罹病證書、診斷證書シタル者ニ限ル死亡診斷書及戸籍謄本

三 不具、癱疾者ヨリ請求ノ場合ニ在リテハ事實證明書、負傷若ハ罹病證書及診斷證書

第二條 前條ノ事實證明書ニハ所屬、官等級氏名、官等級ナキ者ハ身分給料額及死亡、負傷、罹病ノ原因又死體ヲ收容シ能ハサルトキハ死亡認定ノ理由ヲ詳記シ診斷證書ニハ傷病名、原由、症狀、經

過、處置及結果ヲ詳記スルモノトス

第三條 事實證明書ハ航空演習ヲ監督セル將校之ヲ調製シ所屬長官ノ承認ヲ經、負傷若ハ罹病證書、診斷證書、死亡診斷書(又ハ死體檢案書)ハ軍醫官之ヲ調製シ一時賜金ヲ受ケヘキ本人又ハ遺族ニ交付スヘシ但シ退職解雇後死亡シタル者又ハ不具癱疾トナリタル者ノ診斷證書若ハ死亡診斷書ハ軍醫官若ハ地方醫師ノ調製シタルモノトス

【四】軍用ノ飛行機又ハ氣球ニ乗シ航空演習ニ從事スル者ニ手當ヲ給與スルノ件 大正二年二月 勅令第一〇號

一 軍用ノ飛行機又ハ氣球ニ乗シ航空演習ニ從事スル陸海軍軍人軍屬ニハ別表ノ航空手當ヲ給ス其ノ給與細則ハ主務大臣之ヲ定ム

一 軍人軍屬ニ非サルモ前項ノ航空演習ニ從事スル者ニハ前項ニ準シ手當ヲ給スルコトヲ得

(別表)

區分	飛行機	氣球
將官同相當官	三圓	二圓
高等官二等以上	三圓	二圓

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 已

航空潜水手當

三三一

【五】航空手當支給規則 大正二年二月 陸軍省令第一號

第一條 陸軍軍人軍屬ニハ本規則ニ依リ航空手當ヲ給ス

陸軍軍人軍屬ニ非サルモ臨時軍用氣球研究會ノ委員又ハ囑託者亦前項ニ同シ但シ官等ヲ有セサル者ノ手當額ハ隨時定ムル所ニ依ル

第二條 航空手當ハ航空ノ日數ニ應シ之ヲ給ス但シ飛行機ニ在リテハ連續五分時以上、氣球ニ在リテ

航空潜水手當

三三一

上等官長	二圓	一圓五十錢
高等官三等以下	二圓	一圓五十錢
士	一圓五十錢	一圓
高等官六等以下	一圓	七十錢
見習士	一圓	七十錢
判任官一等	五十錢	三十錢
判任官二等以下	五十錢	三十錢
判任待遇、雇員	三十錢	二十錢
備兵	三十錢	二十錢

(備考) 教導ノ目的ヲ以テ一日數回航空スルトキハ定額ノ二割以内ヲ増給スルコトヲ得

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 已

航空潜水手當

三二八

已 航空潜水手當

【一】軍用ノ飛行機又ハ氣球ニ乗シ航空演習ニ從事スル者ニ一時賜金給與

ノ件

大正二年二月 勅令第九號

第一條 軍用ノ飛行機又ハ氣球ニ乗シ航空演習ニ從事スル者自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非スシテ演習中死亡シ又ハ傷疾ヲ受ケ不具癱疾ト爲リタルトキハ本令ニ依リ別表ノ一時賜金ヲ給ス該傷疾ニ因リ三年以内ニ死亡シタル者不具癱疾ノ爲一時金ヲ受ケサルトキ亦同シ

第二條 本人死亡ノ後ニ於テ給スヘキ一時賜金ハ之ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ寡婦、子、父母、祖父母、兄弟及姉妹ニシテ本人死亡當時ヨリ引續キ同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ但シ本人死亡後出生シタル嫡出ノ子ハ死亡ノ當時其ノ家ニ在ル者ト看做ス

第三條 一時金ヲ受ケヘキ遺族ノ順位ハ前條第二項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順序内ニ在リテハ男ハ女ニ先チ長ハ幼ニ先ツ但シ死亡者ノ家督相續人ハ同順序内ニ在リテハ最先トス

第四條 第二條ノ遺族ナキ場合ニ於テハ本人死亡ノ

當時實家ニ在ル實父母、死亡者ノ家督相續人、本人死亡當時ニ於ケル戸主ノ順位ニ依リ別表金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトヲ得

第五條 一時賜金ハ第一條ノ規定ニ依リ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル日ヨリ二年以内ニ請求セサルトキハ之ヲ受ケルノ資格ヲ失フ

第六條 不具癱疾ノ爲受ケヘキ一時賜金ハ軍人又ハ文官ニ非サル者ニ限り之ヲ給ス

第七條 本令ニ依リ一時賜金ヲ受ケタル事由ニ對シテハ朝鮮臺灣滿洲樺太並在外陸海軍雇員傭人死傷手當金給與規則、各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規又ハ官役職工人工夫扶助令ニ依ル手當金又ハ扶助金ハ之ヲ給セス

親身	任官	分	者	金	額
高等	一等	官	者	三、〇〇〇	〇
高等	二等	官	者	二、七五〇	〇
高等	三等	官	者	二、五〇〇	〇
高等	四等	官	者	二、〇〇〇	〇
高等	五等	官	者	一、八〇〇	〇
高等	六等	官	者	一、五〇〇	〇
高等	七等	官	者	一、二〇〇	〇
高等	七等	官	者	一、〇〇〇	〇

高等官八等、海軍候補生 日給三十日分 百圓以上 七〇〇

准士官、見習士官、判任文官特別俸 一、二級俸 日給三十日分 七十五圓以上 五六〇

曹長、海軍一等下士 判任文官三、四級俸 日給三十日分 五十五圓以上 四五〇

軍曹、海軍二等下士 判任文官五、六級俸 日給三十日分 四十五圓以上 三九〇

伍長、海軍三等下士 判任文官七、八級俸 日給三十日分 三十五圓以上 三五〇

海軍一等卒 三一〇

陸軍上等兵、海軍二等卒 判任文官九、十、十一級俸 日給三十日分 二十圓以上 二八〇

陸軍一等卒、海軍三等卒 二六〇

陸軍二等卒、海軍四等卒 二四〇

海軍五等卒 二二〇

日給三十日分 十二圓以上 一二〇

日給三十日分 十二圓未滿 一五〇

(備考) 親任官ハ大將、一等官ハ中將、二等官ハ

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 已

航空潜水手當

三二九

少將、三等官ハ大佐、四等官ハ中佐、五等官ハ少佐、六等官ハ大尉、七等官ハ中尉、八等官ハ少尉、同相當官ナリ尙第一篇陸軍海軍ノ部官等表ヲ參看ノコト

身	別	不具癱疾者	終身自終身業務ヲ營其ノ他
日給三十日分	百圓以上	七〇〇	五八〇
同	七十五圓以上	五六〇	四六〇
同	五十五圓以上	四五〇	三七〇
同	四十五圓以上	三九〇	三二〇
同	三十五圓以上	三五〇	二九〇
同	二十圓以上	二八〇	二三〇
同	十二圓以上	二二〇	一八〇
同	十二圓未滿	一五〇	一二〇

(備考) 文武官ニ非ス且一定ノ俸給其ノ他ノ給料ヲ受ケサル者ニ對スル支給額ハ陸海軍大臣之ヲ定ム但シ本表死亡者ニ對スル支給額ヲ超ユルコトヲ得ス

○年金恩給 政府官吏 人軍恩給 已

航空潜水手當

三三〇

【二】大正二年勅令第九號ニ依ル一時賜

金給與細則

大正二年二月 陸軍省令第一號

第一條 陸軍所管ノ者又ハ其ノ遺族ニシテ大正二年勅令第九號ニ依リ一時賜金ヲ受ケムトスルトキハ請求書ニ左ニ掲クル書類ヲ添ヘ陸軍大臣ニ差出スヘシ

- 一 死亡者賜金ノ場合ニ在リテハ死亡認定證書、死亡證書及航空者ノ死亡ヲ登記シタル戶籍謄本
- 二 不具癱疾者賜金ノ場合ニ在リテハ傷痍認定證書及診斷證書

第二條 前條ノ死亡認定證書及傷痍認定證書ニハ所屬部隊、官等級氏名、官等級ナキ者ハ身分給料額及死亡又ハ負傷ノ原因ヲ記載シ、死亡證書及診斷證書ニハ死亡シ又ハ傷痍ニ原因シ不具癱疾ト爲リタル症狀ノ經過ヲ詳記スルモノトス

第三條 死亡又ハ傷痍認定證書ハ航空演習ヲ監督セル將校ニ於テ調製シ氣球隊長又ハ臨時軍用氣球研究會長ノ承認ヲ經、死亡證書又ハ診斷證書ハ主任軍醫ニ於テ調製シ一時賜金ヲ受ケヘキ本人又ハ遺族ニ交付スヘシ但シ退職、解雇後若ハ自己治療中死亡シタル者ニ付テハ死亡證書又ハ診斷證書ハ主

治醫ノ調製セルモノヲ添附スヘシ

【三】大正二年勅令第九號ニ依ル一時賜

金給與細則

大正二年二月 海軍省令第四號

第一條 海軍所管ノ者又ハ其ノ遺族ニシテ大正二年勅令第九號ニ依リ一時賜金ヲ受ケムトスル者ハ請求書ニ左ニ掲クル書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ差出スヘシ

- 一 治療ヲ俟タスシテ死亡シタル者ノ遺族ヨリ請求ノ場合ニ在リテハ事實證明書、死體檢案書、死體ヲ收容シ能ハサルトキハ之ヲ要セス及戶籍謄本
- 二 治療中死亡シタル者又ハ不具癱疾トナリ其ノ一時賜金ヲ受ケスシテ死亡シタル者ノ遺族ヨリ請求ノ場合ニ在リテハ事實證明書、負傷若ハ罹病證書、診斷證書、退職解雇後死亡死亡診斷書及戶籍謄本
- 三 不具、癱疾者ヨリ請求ノ場合ニ在リテハ事實證明書、負傷若ハ罹病證書及診斷證書

第二條 前條ノ事實證明書ニハ所屬、官等級氏名、官等級ナキ者ハ身分給料額及死亡、負傷、罹病ノ原因又死體ヲ收容シ能ハサルトキハ死亡認定ノ理由ヲ詳記シ診斷證書ニハ傷病名、原因、症狀、經過

過、處置及結果ヲ詳記スルモノトス

第三條 事實證明書ハ航空演習ヲ監督セル將校之ヲ調製シ所屬長官ノ承認ヲ經、負傷若ハ罹病證書、診斷證書、死亡診斷書(又ハ死體檢案書)ハ軍醫官之ヲ調製シ一時賜金ヲ受ケヘキ本人又ハ遺族ニ交付スヘシ但シ退職解雇後死亡シタル者又ハ不具癱疾トナリタル者ノ診斷證書若ハ死亡診斷書ハ軍醫官若ハ地方醫師ノ調製シタルモノトス

【四】軍用ノ飛行機又ハ氣球ニ乗シ航空演習ニ從事スル者ニ手當ヲ給與スルノ件

大正二年二月 勅令第一〇號

一 軍用ノ飛行機又ハ氣球ニ乗シ航空演習ニ從事スル陸海軍軍人軍屬ニハ別表ノ航空手當ヲ給ス其ノ給與細則ハ主務大臣之ヲ定ム

一 軍人軍屬ニ非サルモ前項ノ航空演習ニ從事スル者ニハ前項ニ準シ手當ヲ給スルコトヲ得

(別表)

區分	飛行機	氣球
將官同相當官	三圓	二圓
高等官二等以上	三圓	二圓

○年金恩給 政府官吏 軍人恩給 已

航空潜水手當

三三一

【五】航空手當支給規則

大正二年二月 陸軍省令第一號

第一條 陸軍軍人軍屬ニハ本規則ニ依リ航空手當ヲ給ス

上等官長	二圓	一圓五十錢
高等官三等以下	一圓五十錢	一圓
士	一圓	七十錢
高等官六等以下	一圓	七十錢
准任士	一圓	七十錢
見習士	一圓	七十錢
判任官一等	一圓	七十錢
判任官二等以下	五十錢	三十錢
判任待遇、雇員	三十錢	二十錢
兵	三十錢	二十錢
卒	三十錢	二十錢

(備考) 教導ノ目的ヲ以テ一日數回航空スルトキハ定額ノ二割以內ヲ増給スルコトヲ得

陸軍軍人軍屬ニ非サルモ臨時軍用氣球研究會ノ委員又ハ囑託者亦前項ニ同シ但シ官等ヲ有セサル者ノ手當額ハ隨時定ムル所ニ依ル

第二條 航空手當ハ航空ノ日數ニ應シ之ヲ給ス但シ飛行機ニ在リテハ連續五分時以上、氣球ニ在リテ





○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

同	二十圓以上	二八〇	二五〇	一七〇
同	十二圓以上	二二〇	一九〇	一一〇
同	十二圓未滿	一五〇	一二〇	六〇

一大正二年勅令第十一號ニ依ル一時賜金給與細則ハ  
本年二月海軍省令第四號ヲ準用ス 大正二年二月  
海軍省令第五號

甲 市町村立小學校

三三四

第五節 學校職員退隱料

甲 市町村立小學校

【一】市町村立小學校教員退隱料及遺族

扶助料法 明治二十三年一月  
法律第九〇號

- 第一條 市町村立小學校ノ正教員ハ此ノ法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 第二條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス
  - 一 年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ
  - 二 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ
  - 三 廢職廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ
- 第三條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其ノ最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ヲ給ス
  - 一 職務ニ依リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若ハ之ニ準スヘキ者ニシテ其ノ職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ
  - 二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願

ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若ハ之ニ準スヘキ者ニシテ其ノ職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第四條 退隱料ノ年額ハ退職現時ノ俸給ト在職年數トニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ定ム但シ在職四十年以上ノ者ニ給スヘキ退隱料ハ四十年ノ額トス  
前項ニ依リ退隱料年額ヲ定ムルハ十五年以上官立公立小學校ニ勤續シタル者ニ退隱料ヲ支給スル場合ニ限ル其ノ他ノ場合ニ於テハ官吏恩給法第五條ヲ準用ス

退隱料ヲ受クル者前ニ退職給與金ヲ受ケタルトキハ最初ノ十年間其ノ退職給與金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ退隱料年額ヨリ控除ス

兼職ニ依リテ受クル加俸ハ退隱料年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ  
第四條ノ二 退隱料ヲ受クル者公立學校職員、公立圖書館職員、小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル公立幼稚園ノ保母、在外指定學校職員又ハ教育事務ニ従事スル文官ト爲リタル後滿一年以上ニシテ退職又ハ退官シタルトキハ前後ノ在職在官年數ヲ通算シ後職又ハ後官ニ對スル退隱料ト前ノ退隱料トヲ比較シ其ノ額多キ方ヲ給ス

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

甲 市町村立小學校

三三五

前項ノ場合ニ於テ本法ニ依ル退隱料額カ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法明治二十九法律第十三號又ハ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依ル退隱料額ニ比較シ多キトキハ其ノ退隱料ハ本法ニ依リ之ヲ支給スルモノトス

第四條ノ三 官吏恩給法第六條、第十條第十二條第一項及第十三條第二項ハ退隱料ニ之ヲ準用ス  
退隱料等ノ支給上在職年數ノ算定ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 (第一項削除)  
退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ間退隱料ノ支給ヲ停止ス但シ第一號ノ場合ニ於テハ其ノ差額ニ限リ支給ヲ停止ス

一 公務ニ就キ受クル給料ト退隱料トヲ合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スルトキ  
二 五箇年以上受領ヲ怠リタルトキ  
三 公權ヲ停止セラレタルトキ  
第六條 年齡未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若ハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第七條 市町村立小學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷疾ヲ

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

甲 市町村立小學校

三三六

受ケ若ハ疾病ニ罹リ第三條ニ該當スル者ニ限り退職現時ノ給料四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第八條 在職滿一年以上ニシテ退職シタル市町村立小學校正教員ニハ退職現時ノ給料半箇月分ヲ以テ在職年數ノ一箇年ニ當テ其ノ年數ニ應スル金員ヲ一時給與ス但シ休職滿期ニ依リ退職シタル者ハ其ノ本職最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

市町村立小學校正教員ニシテ教育事務ニ從事スル文官又ハ他ノ待遇文官ニ轉任シタル者退官又ハ退職シタルトキハ小學校教員ノ在職年數ニ應シ前項ノ給與金ヲ給ス

第二條若ハ第三條ニ依リ退隱料ヲ受ケル者他ノ法律ニ依リ退隱料若ハ恩給ヲ受ケル者自己ノ便宜ニ依リ退職退官シタル者又ハ免職ニ處セラレ懲戒處分若ハ刑事裁判ニ依リ免官セラレ若ハ失職ニ該當シタル者ハ前二項ノ限ニアラス

本條ノ退職給與金ヲ受ケタル者市町村立小學校正教員ニ再任シ爾後退職シタルトキハ第一項ノ在職年數ハ再任ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本條ノ退職給與金ヲ受ケタル者他日市町村立小學校正教員ニ再任シ爾後退職シタルトキハ第一項ノ在職年數ハ其ノ再任ノ月ヨリ起算ス

第九條 退隱料ノ支給及第八條ノ給與ハ府縣知事之

甲 市町村立小學校

ヲ裁定ス

官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退隱料ニ適用ス

第十條 市町村立小學校正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ遺族ハ此ノ法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ有ス

一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三 退隱料ヲ受ケル者死去シタルトキ

第十一條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此ノ法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此ノ法律ニ規定スル扶助料ヲ受ケヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戶籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ廢疾若ハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十二條 在職十五年未滿ノ市町村立小學校正教員在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其ノ遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ退職給與金ノ額ト同額トス

第十三條 扶助料及扶助金ノ支給並第十一條第二項ノ給與ハ市町村長ノ申牒ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス

第十四條 府縣ハ小學校教員恩給基金ヲ備フヘキモ

市町村ハ其ノ市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其ノ府縣ニ納ムヘキモノトス

兼職ニ係ル加俸ニ對シテハ本條ノ納金ヲ要セス

本條第二項ノ納金ハ府縣小學校教員恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得サルモノトス

本條第二項ニ依リ各府縣ニ於テ收入シタル納金額二分ノ一ニ當ル金員ヲ收入年度ノ翌々年度毎ニ國庫ヨリ府縣ニ給與スルモノトス

退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給

與ハ恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘキモノトス

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル費用ハ總テ府縣ノ負擔トス

第十五條 此ノ法律中第一條乃至第十三條ハ明治二十六年度ヨリ第十四條ハ明治二十五年ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此ノ法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(別表)

市町村立小學校教員退隱料表

在職年數	給料	在職年數	給料
十	七十五圓以上六十圓以下	十	七十五圓以上六十圓以下
十	六十圓以上五十圓以下	十	六十圓以上五十圓以下
十	五十圓以上四十圓以下	十	五十圓以上四十圓以下
十	四十圓以上三十圓以下	十	四十圓以上三十圓以下
十	三十圓以上二十圓以下	十	三十圓以上二十圓以下
十	二十圓以上十五圓以下	十	二十圓以上十五圓以下
十	十五圓以上十圓以下	十	十五圓以上十圓以下
十	十圓以上五圓以下	十	十圓以上五圓以下
十	五圓以上一圓以下	十	五圓以上一圓以下
十	一圓以下	十	一圓以下

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料 甲 一、市町村立小學校 三三七



○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

第四條 退隱料請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ退隱料證書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ但退隱料増加ノ爲更ニ退隱料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納セシムヘシ

第五條 府縣知事ニ於テ前條ノ請求其理由ナシト認ムルトキハ理由ヲ示シ之ヲ本人ニ通告スヘシ

第六條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

第八條ニ依リ給與金ヲ受ケヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職中ノ履歷書ヲ添へ最終勤務セシ小學校所屬府縣知事ニ差出スヘシ

府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

第二章 扶助料ノ請求

第七條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

第十條第十一條第一項第十二條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受ケヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ作り退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ死者ノ最終勤務セシ小學校所屬府縣知事ニ退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ者ニ在テハ居住地ノ府縣知事ニ差出スヘシ

府縣知事ハ其所屬市町村立小學校正教員遺族ノ扶

求書ニハ其事由ヲ詳記シタル書類醫師ノ診斷書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第二ノ書類公務ニ起因スル傷痍若クハ疾病ニ依リ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第三ノ書類扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ孤兒ニ在テハ本條第四ノ書類

第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ扶助料ニ在テハ扶助料證書扶助金ニ在テハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

前項ノ扶助料又ハ扶助金他ノ地方廳ニ於テ支給スヘキモノナルトキハ其請求書ヲ當該府縣知事ニ送付スヘシ

第十條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法  
第十一條 第二項ニ掲ケタル給與金ノ請求等ハ扶助金ノ例ニ依ルヘシ但癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ノ請求書ニハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第三章 退隱料扶助料ノ支給及停止

第十一條 退隱料支給ノ期ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死去ノ月ヲ以テ終ルモノトス

退隱料及扶助料ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

甲 市町村立小學校

三四〇

扶助料又ハ扶助金ヲ受ケヘキ者アルトキハ死者ノ履歷書ヲ調製シ之ヲ遺族ニ交付スヘシ

第八條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニハ戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本及左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十條第一第二第十二條ニ當ル者ノ請求書ニハ府縣知事ヨリ交付セラレタル死者ノ履歷書

二 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十條第三ニ當ル者ノ請求書ニハ死者ノ退隱料證書

三 官吏遺族扶助法第四條第二項ヲ適用スヘキ者

ノ請求書ニハ傷痍若クハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據書類醫師ヲシテ診察セシメタルトキハ其診斷書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第二ノ書類

四 扶助料ヲ受ケル者死去シ又ハ權利消滅シタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ扶助料證書

五 公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ確定裁判ノ宣告書寫

六 官吏遺族扶助法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ其前項三箇月分ヲ支給スヘシ但權利消滅ノトキ及給與金扶助金ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給スヘシ

第十二條 退隱料又ハ扶助料ヲ受ケル者其金額ヲ受領セントスルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第十三條 退隱料ヲ受ケヘキ權利消滅シ若クハ停止セラルヘキ者ノ支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ  
一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日  
日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 公務ニ就キ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ給料ヲ受ケルトキハ其給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ停メ其給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

三 五箇年以上受領ヲ怠リタルトキハ受領ヲ怠リタル支給期月ノ翌月ヨリ起算シ其怠リタル期ノ支給ヲ廢ス

四 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セララルヘキ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

第十四條 扶助料支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

甲 市町村立小學校

三四一

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

甲 市町村立小學校

三四二

一 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレヘキ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

三 公權停止中轉給ヲ受クヘキ者ノ支給ハ本人停止ノ翌日ヲ以テ始メ復給ノ前日ヲ以テ終ル

第十五條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料

法第三條ニ掲ケタル増加退隱料ノ等差ハ左ノ如シ

第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ

十分ノ七

第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

十分ノ六

第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

十分ノ五

第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

十分ノ二

キ其職ヲ罷メタルトキ亦同シ其屆書ニハ職名給料額及給料ノ支給ヲ受クル最初ノ日罷職ノトキハ支給ヲ受クル最終ノ日ヲ附記スヘシ

前項ノ屆書ハ就職ノ場合ニ在テハ就職ノ日ヨリ十日以内、給料額ニ増減ヲ生シタル場合ニ在テハ増減ヲ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ差出スヘシ

第十九條 第十七條ノ場合ニ於テ扶助料ヲ受クヘキ者又ハ其轉給ヲ受クヘキ者ナキトキ又ハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒ若クハ扶助料ノ支給ヲ廢スヘキ者ニ係ルトキハ本籍市町村長

（市ノ區長カハ戶籍吏ノ事）ニ委託シテ之ヲ收ムル場合ニハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ收メテ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ送付スヘシ

本人他ノ市町村ニ居住セル場合ニ於テハ該市町村長（市ノ區長カハ戶籍吏ノ事）ニ委託シテ之ヲ收ムル場合ニハ區長

（市ノ區長カハ戶籍吏ノ事）ニ委託シテ之ヲ收ムルコトヲ得

第四章 雜則

第二十條 府縣知事ハ第四條又ハ第九條ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ本人ニ交付スルト同時ニ之ヲ其本籍市町村長（市ノ區長カハ戶籍吏ノ事）ニ通知スヘシ

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第十六條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者他ノ市町村ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ轉籍若クハ寄留シタル地ノ市町村長（市ノ區長カハ戶籍吏ノ事）ヲ經テ府縣知事ニ届出ヘシ

他ノ府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ轉籍若クハ寄留シタル地ノ市町村長（市ノ區長カハ戶籍吏ノ事）ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ届出ヘシ

退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ハ每期支給スヘキ退隱料又ハ扶助料ヲ轉籍若クハ寄留シタル府縣知事ニ送付シ其支給方ヲ委託スルコトヲ得

第十七條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ又ハ公權ヲ停止セラレタルトキハ本籍市町村長（市ノ區長カハ戶籍吏ノ事）ヨリ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ報告スヘシ

第十八條 退隱料ヲ受クル者有給ノ公務ニ就キタルトキハ當該官公署ノ證明ヲ得テ退隱料ヲ支給スヘキ府縣知事ニ届出ヘシ給料額ニ増減ヲ生シタルトキ

第二十一條 水火災盜難等ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ市町村長（市ノ區長カハ戶籍吏ノ事）ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ届出ヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其實ヲ調査シ退隱料證書又ハ扶助料證書ノ謄本ヲ作り之ヲ交付スヘシ

前項退隱料證書又ハ扶助料證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ效力アルモノトス

第二十二條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ添へ居住地ノ市町村長（市ノ區長カハ戶籍吏ノ事）ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ届出ヘシ府縣知事ハ證書ノ裏面ニ其事實ヲ記載シ署名捺印シテ本人ニ交付スヘシ

第二十三條 此規則ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ島司郡區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

【四】市町村立小學校教員退隱料及遺族

甲 市町村立小學校

三四三

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

扶助料支給規則ニ依リ交付スヘキ  
退隱料及扶助料證書等書式

明治二十五年二月(北海道廳府縣)  
文部省訓令第二號

一明治二十五年二月文部省令第二號市町村立小學校教  
員退隱料及遺族扶助料支給規則ニ依リ交付スヘキ  
退隱料證書及扶助料證書等ハ左ノ書式ニ依ルヘシ  
退隱料證書式 用紙ハ紙質堅緻ノモノヲ用フヘシ  
寸法ハ縦九寸横一尺三寸輪廓付

退隱料證書

族 籍

元何小學校訓導(准訓導)

位勳爵 氏 名

生年月

退隱料年額金若干

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ  
大正何年何月ヨリ前記ノ退隱料ヲ受クヘキコトヲ  
認メ此證書ヲ附與ス

年 月 日

北海道廳長官 位勳爵 氏 名 印  
府 縣 知 事 位勳爵 氏 名 印

此證書ハ市町村立小學校教員退隱料原簿第何號ニ  
登錄ス

位勳爵 氏 名

生年月

扶助料年額金若干

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ  
大正何年何月ヨリ前記ノ扶助料ヲ受クヘキコトヲ  
認メ此證書ヲ附與ス

年 月 日

北海道廳長官 位勳爵 氏 名 印  
府 縣 知 事 位勳爵 氏 名 印

此證書ハ市町村立小學校教員遺族扶助料原簿第何  
號ニ登錄ス

北海道廳 位勳爵 氏 名 印  
府 縣 知 事 位勳爵 氏 名 印  
(第二部長タル者)

(備考)

公權停止中扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ  
交付スル證書ニハ「大正何年何月ヨリ」トアルヲ  
「何某公權停止中」ト記スヘシ

同上裏面

此證書ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス  
水火災盜難等ニ依リ此證書ヲ亡失シタルトキハ居  
住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ  
本人氏名ヲ改メタルトキハ此證書ヲ添ヘ居住地ノ  
市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ  
本人死去又ハ權利消滅シタルトキ市町村立小學校

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

甲 市町村立小學校

三四四

北海道廳 位勳爵 氏 名 印  
府 縣 知 事 位勳爵 氏 名 印  
(第二部長タル者)

同上裏面

此證書ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス  
水火災盜難等ニ依リ此證書ヲ亡失シタルトキハ居  
住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ  
本人氏名ヲ改メタルトキハ此證書ヲ添ヘ居住地ノ  
市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ  
本人死去シタルトキ市町村立小學校教員退隱料及  
遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ者アルトキ  
ハ扶助料請求書ニ此證書ヲ添附スヘシ扶助料ヲ受  
クヘキ者ナキトキハ此證書ヲ返納スヘシ  
表書ノ年額ハ毎年四月七月十月一月ニ其前三箇月  
分ヲ給ス每期ノ給額左ノ如シ

金 若 干

但大正何年何月ノ給額ハ金若干

右金額ヲ受領セントスルトキハ此證書ヲ呈示スヘ  
シ

扶助料證書書式

用紙寸法トモ退隱  
料證書々式ニ同シ

扶助料證書

族 籍

故何小學校訓導位勳爵氏名寡婦  
(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)

(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)

位勳爵 氏 名

生年月

教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ  
受クヘキ者アルトキハ扶助料請求書ニ此證書ヲ添  
附スヘシ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ此  
證書ヲ返納スヘシ

表書ノ年額ハ毎年四月七月十月一月ニ其前三箇月  
分ヲ給ス每期ノ給額左ノ如シ

金 若 干

但大正何年何月ノ給額ハ金若干

右金額ヲ受領セントスルトキハ此證書ヲ呈示スヘ  
シ

給與金辭令書書式

用紙適宜輪廓ナシ

元何小學校訓導

位勳爵 氏 名

給與金若干

右市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依  
リ之ヲ給ス

年 月 日

北海道廳府縣

(備考) 支給規則第十條ノ給與金ノ辭令書ニハ本  
人肩書ヲ故何小學校訓導位勳爵氏名兄(弟)(姉)  
(妹)ト記シ兄弟姉妹數名ノトキハ連名ニスヘシ

扶助金辭令書書式 用紙給與金辭令書書式ニ同シ  
故何小學校訓導位勳爵氏名

甲 市町村立小學校

三四五

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

甲 市町村立小學校

三四六

寡婦(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)  
位勳爵 氏 名

扶助金若干  
右市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依  
リ之ヲ給ス  
年 月 日

北海道廳府縣

北海道廳長官 氏 名印

何府縣知事 氏 名印

郵便貯金局長宛

【五】市町村立小學校教員退隱料及遺族

扶助料法ニ依レル 國庫給與金豫算

調書書式

明治三十二年五月(北海道廳府縣)  
文部省訓令第六號

一 明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退  
隱料及遺族扶助料法ニ依レル 國庫給與金交付上ニ  
關シ明治三十三年度分ヨリ左ノ書式ニ依リ毎年度  
豫算調書ヲ調製シ前年度七月三十一日限リ郵便貯  
金局へ差出スヘシ

明治何年度小學校教員恩給

國庫給與金豫算調書

一金若干

小學校教員恩給國庫給與金

右ハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料  
法第十四條第二項ニ依リ前々年度即チ明治何  
年度ニ於テ實收シタル納金額若干ノ二分ノ一

乙 公立學校職員

【一】府縣立師範學校長俸給並公立學校

職員退隱料及遺族扶助料法

明治三十二年一〇月  
法律第九一號

第一條

府縣立師範學校長ノ俸給ハ國庫ノ負擔トス

第二條

府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教  
員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保姆  
舍監及書記ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クル  
ノ權利ヲ有ス

第三條

在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ル  
トキハ終身退隱料ヲ給ス

一

年齡六十歳ヲ超エ退職ヲ命シタルトキ

二

傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職務ニ堪ヘサ  
ルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三

廢職廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ  
依リ退職ヲ命シタルトキ

第四條

左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿  
タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其ノ最下金額十分ノ  
七マテノ増加退隱料ヲ給ス

一

職務ニ依リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若

○年金恩給

政府官吏 學校職員退隱料

乙 公立學校

三四七

ニ當ル  
右ノ通ニ候也  
年 月 日

北海道廳長官 氏 名印

何府縣知事 氏 名印

【六】府縣小學校教員恩給基金管理規則

明治三十四年一〇月  
文部省令第七號

第一條 小學校教員恩給基金ハ他ノ府縣有財產下區  
分シテ之ヲ管理スヘシ

第二條 小學校教員恩給基金ハ現金又ハ國債府縣債  
證書ト爲スヘシ

第三條 當該年度ノ支出ニ充テタル小學校教員恩給  
基金ノ利子及國庫ノ給與金其ノ他ノ收入ニシテ殘  
餘アルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ恩給基金ニ  
加入シ又ハ翌年度へ繰越スヘシ

第四條 小學校教員恩給基金ノ整理方法ハ特別ノ規  
程ナキモハ總テ他ノ府縣有財產ノ例ニ依ル  
ス

ハ之ニ準スヘキ者ニシテ其ノ職務ニ堪ヘサル  
カ爲退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧  
ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ  
罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若ハ之ニ準スヘキ者  
ニシテ其ノ職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタ  
ルトキ

第五條 退隱料ノ年額ハ退職現時ノ俸給ト在職年數  
トニ依リ之ヲ定ム

勤續滿十五年以上ニシテ退職シタル者ノ退隱料年  
額ハ勤續滿十五年ニ對シテハ俸給年額ノ百分ノ二  
十五トシ次ニ滿十五年以上ノ勤續年數中十五年ヲ  
控除シタルモノニ對シ一年毎ニ百分ノ一ヲ加ヘ次  
ニ其ノ他ノ在職年數ニ對シ一年毎ニ百五十分ノ一  
ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム

前項ノ場合ヲ除クノ外在職滿十五年以上ニシテ退  
職シタル者ノ退隱料年額ハ在職滿十五年ニ對シテ  
ハ俸給年額ノ百分ノ二十五トシ爾後在職一年毎ニ  
二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム

前二項ノ場合ニ於テ在職四十年以上ノ者ニ給スヘ  
キ退隱料ハ四十年ノ額トシ又前條ニ依リ給スヘキ  
退隱料ハ前項ニ依リ算出シタル十五年ノ額トス

官吏恩給法第五條第四項第五項第六條第十條第十



○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

一 條及第十三條第二項ハ退隱料ニ之ヲ準用ス退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數ノ算定ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 (削除)

第七條 退隱料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若ハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ退隱料ヲ剝奪ス

退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ間退隱料ノ支給ヲ停止ス但シ第一號ノ場合ニ於テハ其ノ差額ニ限り支給ヲ停止ス

一 公務ニ就キ受クル給料ト退隱料トト合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スルトキ

二 公權ヲ停止セラレタルトキ

第八條 年齡未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若ハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第九條 府縣立師範學校及公立中學校ノ准教員ハ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ第四條ニ該當スル者ニ限り退職現時ノ俸給四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第十條 在職滿一年以上ニシテ退職シタル府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員小學校ノ本科正教員小學校ノ本科

第十二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母舍監及書記左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ遺族ハ此ノ法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三 退隱料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十三條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此ノ法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此ノ法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癱疾若ハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十四條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母舍監及書記ニシテ在職十五年未滿ノ者在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其ノ遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ニ就キテハ官吏遺族扶助法第十七條第二項ヲ適用ス

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

乙 公立學校

正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母舍監及書記ニハ退職現時ノ俸給半箇月分ヲ以テ在職年數ノ一箇年ニ當テ其ノ年數ニ應スル金員ヲ一時給與ス但シ非職又ハ休職滿期ニ依リ退職シタル者ハ本職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給與ス

公立學校職員ニシテ教育事務ニ從事スル文官又ハ他ノ待遇文官ニ轉任シタル者退官又ハ退職シタルトキハ公立學校職員ノ在職年數ニ應シ前項ノ給與金ヲ給ス

第三條若ハ第四條ニ依リ退隱料ヲ受クル者、他ノ法律ニ依リ退隱料若ハ恩給ヲ受クル者、自己ノ便宜ニ依リ退職退官シタル者又ハ懲戒處分ニ依リ免職免官ニ處セラレ若ハ刑事裁判ニ依リ失職失官ニ該當シタル者ハ前二項ノ限ニ在ラス

本條ノ退職給與金ヲ受ケタル者公立學校職員ニ再任シ爾後退職シタルトキハ第一項ノ在職年數ハ其ノ再任ノ月ヨリ起算ス

本條ノ給與及之ニ關スル費用ハ轉任者退職者ノ轉任退職ノ際勤務セシ公立學校所屬府縣郡市町村ノ負擔トス

第十一條 退隱料ノ支給ハ府縣知事ノ證明ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

第十五條 扶助料及扶助金ノ支給並第十三條第二項ノ給與ハ府縣知事ノ申牒ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

第十六條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母舍監及書記ハ其ノ俸給百分ノ一ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

府縣郡市町村ハ其ノ府縣立師範學校及公立中學校長正教員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母舍監及書記ノ俸給百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

兼職ニ係ル加俸ニ對シテハ本條ノ納金ヲ要セス

第十七條 退隱料扶助料扶助金及第十三條第二項ノ給與並其ノ支給ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

退隱料扶助料扶助金等ノ支給ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 第十九條 (削除)

第二十條 此ノ法律第一條ハ明治二十五年ヨリ第二條乃至第十九條ハ明治二十六年ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此ノ法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

乙 公立學校

【二】公立學校職員退隱料及遺族扶助料

支給規則

明治三十五年二月 文部省令第一號

第一章 退隱料ノ請求

第一條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第三條第四條第五條第九條ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ者ハ退隱料請求書ヲ作り退職ノ際勤務セシ學校所屬府縣知事ニ差出スヘシ

第二條 退隱料請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ 一 在職中ノ履歷書

二 戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本但シ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第九條ニ掲ケタル者ハ之ヲ要セス

第三條 職務ニ依リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケル書類ノ外尙左ノ書類ヲ添附スヘシ 官吏恩給法第六條ヲ適用スヘキ者亦同シ

一 現認證書若クハ事實ヲ證スル公文ノ寫又ハ口供書

二 醫師ノ診斷書

第四條 退隱料請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ查覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ退隱料年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ文部大臣ニ差出スヘシ

住地ノ府縣知事ニ差出スヘシ

府縣知事ハ其ノ所屬公立學校職員遺族ノ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者アルトキハ扶助料又ハ扶助金ノ請求上必要ノ書類ヲ遺族ニ交付スヘシ

第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニハ戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本及左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十二條第一第二第十四條ニ當ル者ノ請求書ニハ府縣知事ヨリ交付シタル死者ノ履歷書

二 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十二條第三ニ當ル者ノ請求書ニハ死者ノ退隱料證書

三 官吏遺族扶助法第四條第二項ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ傷痍若クハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據書類醫師ヲシテ診察セシメタルトキハ其ノ診斷書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第二ノ書類

四 扶助料ヲ受クル者死去シ又ハ權利消滅シタルトキ其ノ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ扶助料證書

府縣知事ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ遺見ヲ具シテ之ヲ文部大臣ニ差出スヘシ

第五條 文部大臣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ退隱料證書ヲ作り府縣知事ヲシテ之ヲ本人ニ交付セシメ且其ノ旨ヲ郵便貯金局長ニ通知ス但シ退隱料増加ノ爲更ニ退隱料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納セシム

第六條 (削除)

第七條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十條第一項ニ依リ給與金ヲ受クヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職中ノ履歷書ヲ添附シ最終ニ勤務セシ學校所屬府縣知事ニ差出スヘシ

府縣知事ニ於テ本條第一項ノ請求ヲ許可シタルトキハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

第二章 扶助料ノ請求

第八條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十二條第十三條第一項第十四條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ作り退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ死者ノ最終勤務セシ學校所屬府縣知事ニ退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ在テハ居

五 公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ確定裁判ノ宣告書寫

六 官吏遺族扶助法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ其ノ事由ヲ詳記シタル書類醫師ノ診斷書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第二ノ書類公務

ニ起因スル傷痍若クハ疾病ニ依リ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第三ノ書類扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ孤兒ニ在テハ本條第四ノ書類

第十條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ查覈ノ上扶助料年額計算書又ハ扶助金計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ文部大臣ニ差出スヘシ

第十一條 (削除)

第十二條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十三條第二項ニ掲ケタル給與金ノ請求等ハ扶助金ノ例ニ依ル但シ癱疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ノ請求書ニハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

乙 公立學校

第三章 退隱料扶助料ノ支給及停止

第十三條 退隱料支給ノ期ハ退職ノ翌日ヨリ始マリ死去ノ月ヲ以テ終ルモノトス  
退隱料又ハ扶助料ハ其ノ年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ支給ス但シ權利消滅ノトキ及給與金扶助金ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス  
退隱料、扶助料及扶助金ノ支給ニ關スル手續ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 (削除)

第十五條 退隱料ヲ受クヘキ權利消滅シ若クハ停止セラルヘキ者ノ支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其ノ失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル
- 二 公務ニ就キ受ケル給料ト退隱料トヲ合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スルトキハ其ノ給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ其ノ差額ノ支給ヲ停メ其ノ給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス
- 三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セララルヘキ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二  
傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第十八條 (削除)

第十九條 退隱料又ハ扶助料ヲ受ケル者死亡シ若クハ權利消滅シ又ハ公權ヲ停止セラレタルトキハ本籍市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ヨリ郵便貯金局長ニ報告スヘシ

第二十條 退隱料ヲ受ケル者有給ノ公務ニ就キタルトキハ當該官公署ノ證明ヲ得テ郵便貯金局長ニ届出ヘシ給料額ニ増減ヲ生シタルトキ其ノ職ヲ罷メタルトキ亦同シ其ノ届書ニハ職名、給料額及給料ノ支給ヲ受ケル最初ノ日罷職ノトキハ支給ヲ受ケル最終ノ日ヲ附記スヘシ

前項ノ届書ハ就職ノ場合ニ在リテハ就職ノ日ヨリ十四日以内給料額ニ増減ヲ生シタル場合ニ在リテハ増減ヲ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ差出スヘシ

第二十一條

郵便貯金局長ニ於テ第十九條ノ報告又ハ第二十條ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ其ノ遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ者

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料

給ヲ復ス

第十六條 扶助料支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル  
一 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其ノ失ヒタル日重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ終ル  
二 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セララルヘキ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

三 公權停止中轉給ヲ受クヘキ者ノ支給ハ本人停止ノ翌日ヲ以テ始メ復給ノ前日ヲ以テ終ル

第十七條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第四條ニ掲ケタル增加退隱料ノ等差ハ左ノ如シ

- 第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
- 第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
- 第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
- 第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
- 第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三

又ハ其ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキ又ハ退隱料ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒ若クハ扶助料ノ支給ヲ廢スヘキ者ニ係ルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ收メテ之ヲ文部大臣ニ納付スヘシ

第四章 雜則

第二十二條 府縣知事ハ第五條又ハ第十條ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ本人ニ交付スルト同時ニ之ヲ本籍市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ニ通知スヘシ

第二十三條 水火災盜難等ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ退隱料又ハ扶助料ヲ交付スヘキ郵便局ヲ經テ郵便貯金局長ニ届出ヘシ郵便貯金局長ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ文部大臣ニ申出ヘシ文部大臣ハ退隱料證書又ハ扶助料證書ノ謄本ヲ作り郵便貯金局長ヲシテ之ヲ本人ニ交付セシム

前項退隱料證書又ハ扶助料證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ効力アルモノトス

第二十四條 退隱料又ハ扶助料ヲ受ケル者氏名ヲ改メタルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ添へ居住地ノ市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ノ證明ヲ

乙 公立學校

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料 乙 公立學校

三五四

得退隱料又ハ扶助料ヲ交付スヘキ郵便局ヲ經テ郵便貯金局長ニ届出ヘシ郵便貯金局長ハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ署名捺印シテ本人ニ交付シ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

第二十五條 此ノ規則ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ島司郡區長月長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

【三】公立學校職員退隱料等支給規則ニ依リ調製スヘキ計算書書式  
明治二十五年二月 文部省訓令第一號 (北海道廳府縣)  
 一明治二十五年二月文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則ニ依リ調製スヘキ計算書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ

退隱料年額計算書書式甲號(始メテ退隱料ヲ請求シタル者ニ用フ)

退隱料年額計算書

明治	何年	何月	何日	任何官(職)	何々ニ依リ退官(職)退職ノ際給與金ヲ受ケサルコトヲ申立	何年何箇月
同	何年	何月	何日	任何官(職)		
同	何年	何月	何日	任何官(職)	何學校雇(或ハ何々託)	除算
同	何年	何月	何日	任何官(職)		
同	何年	何月	何日	任何官(職)		計何年何箇月

元何學校長(教諭)(助教諭)(何々) 位勳爵 氏 名

何年何月生 大正何年何月 何年何箇月

同	何年	何月	何日	任何官(職)	何々ニ依リ退職	何年何箇月
同	何年	何月	何日	任何官(職)		
同	何年	何月	何日	任何官(職)		

通計何年退職現時俸給年額金何圓ノ二百四十分ノ若干  
 退隱料年額金何圓  
 支給規則第十七條第何項ニ依リ退隱料最下金額金何圓ノ十分ノ若干  
 增加退隱料年額金何圓

(退隱料年額又ハ退隱料年額ト増加退隱料年額ト合セタル金額ノ四分ノ一) 每期給額 金何圓何拾何錢  
 大正何年何月ノ給額 金何圓何拾何錢(初期給額)

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

年 月 日

取調主任 官 氏 名 印

扶助料年額計算書へ添付スルトキハ年數計算ノ未行「何々ニ依リ退職」及通計何年ノ下「退職」ヲ「死去」ト記シ増加退隱料及每期給額等ハ記載スルニ及ハス  
 勤務年數ニ拘ラス退隱料ヲ給與スヘキ者例セハ准教員ノ退隱料年額計算書ノ類ハ此書式中在職年數計算ニ關スル事項ヲ省キ適宜調製スヘシ  
 退隱料年額計算書書式乙號(退隱臣ヲ受ケタル役再ヒ退隱料ヲ請求シタル者ニ用フ)

退隱料年額計算書

元何學校長(教諭)(助教諭)(何々) 位勳爵 氏 名  
 何年何月生 大正何年何月 何年何箇月

○年金恩給 政府官吏 學校職員退隱料 乙 公立學校

三五五